

(2) 2021 年度第 4 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	127
人文学部	人類文化学科	131
人文学部	心理人間学科	134
人文学部	日本文化学科	137
外国語学部	英米学科	141
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	147
外国語学部	フランス学科	148
外国語学部	ドイツ学科	151
外国語学部	アジア学科	154
経済学部	経済学科	156
経営学部	経営学科	162
法学部	法律学科	167
総合政策学部	総合政策学科	169
理工学部	ソフトウェア工学科	174
理工学部	データサイエンス学科	177
理工学部	電子情報工学科	179
理工学部	機械システム工学科	181
国際教養学部	国際教養学科	182
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	187
教職センター		188
外国語教育センター		190
体育教育センター		194

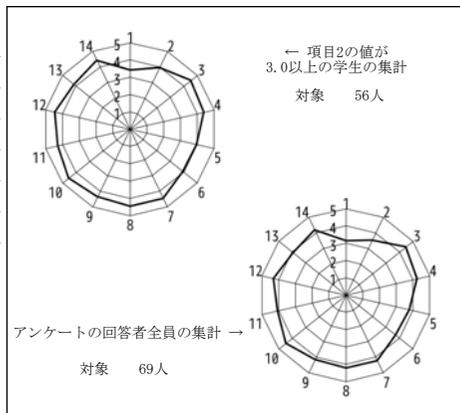
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	196
人文学部	心理人間学科	198
人文学部	日本文化学科	199
外国語学部	英米学科	200
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	200
外国語学部	フランス学科	201
外国語学部	ドイツ学科	202
経済学部	経済学科	203
経営学部	経営学科	204
総合政策学部	総合政策学科	205
理工学部	機械電子制御工学科(旧)	206
国際教養学部	国際教養学科	207
共通教育	仏語	208
共通教育	日本語	208
共通教育	共通	210
外国語教育センター		217

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[E]1
授業コード	10A01-007
教員名	寒野 康太
教員コード	104315
登録人数	123
回答数	69
回答率	56.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

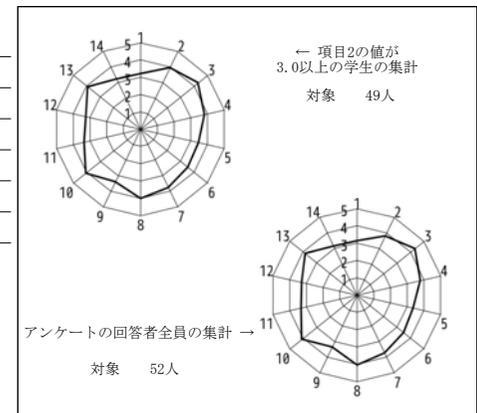
宗教という一見抽象的に見える事柄を扱うので、出来るだけ実際の生活に関わるものであるということを示す為に、宗教と政治の関わりについて多く取り上げ、様々な意見があり得ることを授業内で示したつもりだったが、そこがどれだけ伝わったか、今後の課題ともなっている。講義のみならず、課題の出し方にも今後注意を払いつつ、出来るだけ学生の興味を引き出すことを今後の課題としたい。

学生たちが、高校までに培われるべき世界史、日本史の基礎的な知識が欠けている時は、それを出来るだけ補う授業を心がけた。この点で、授業の進み方にかんして、ノルマをこなすというように捉えるよりは、学生の興味を尊重していくようにした。そのため、出来るだけ授業後質問の時間をとり、学生の全ての質問に答えるようにした。ある時は、一時間ほど質問に答えたが、このように質問に答える姿勢を見せると、様々な質問が提出されるようになったので、宗教に取り立てて関心のない学生もある程度主体的に学修するようになったことが実感できた。

今後とも、宗教を学び論じるということは、たんに知識を摂取するということにとどまらず、自己理解、他者理解につながる、様々な事象を自分の立場から考え論じることができるといった可能性を開く機会であるということに常に忘れず授業を実施していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[J]1
授業コード	10A01-011
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	63
回答数	52
回答率	82.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



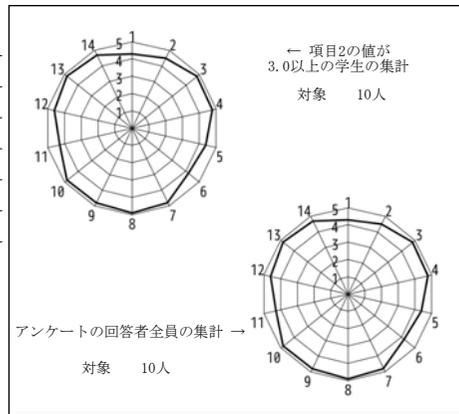
授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度の宗教論の授業はシラバスに沿って進めたと思われます。また多少の変更の中で到達目標に着いたと思います。コロナかの中で学生一人ひとりになんならの形で配慮することができたと思います。宗教に関して、あまり何も知らない学生もいたので分かりやすく説明し、学生に宗教という学問に対する興味を生み出したと思う。また一般的に世界宗教を紹介しながら日本における宗教概念についても説明したので学生に間にはこの学問に興味を持ったに違いありません。全体的に授業の内容がしらばす通りに進め、学生に学問的に宗教などを紹介することができた。

オンラインのリアクションペーパーに関して不満があった学生がいたと思われませんが、学生にわかりやすくシステムを説明したとおもっていたのですが、やはりネット上の多くの事柄を明確にまた全員が理解するようにする必要を反省し、次期年度からはオンラインやハイブリッド授業の場合分かりやすい説明をする予定です。さらに、急行の件に関して事前に連絡なかったと苦情が多少出てきたのですが、病気関係で二回もそのようなことがあって学生に不便が生じたと思います。次期年度は授業に関する変更などをできるだけ学生に早めに連絡したり、また授業運営をもっと円滑に行うためにあらゆる努力をしながら学生に学問の内容をわかりやすく伝えることを行うことにする。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語IV[HC]
授業コード	11J12-001
教員名	井上 淳
教員コード	100301
登録人数	14
回答数	10
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には、なんとか到達できたように思う。かなり高い授業評価をいただいた。特に挙げるならば、項目8が4.90、項目3、4、7、9、10、13が4.80、項目14の全体的な満足度は4.70であった。

最終レポートのラテン語の原典解読では、今回はヘンリクス『聖パトリキウスの煉獄』を選んだ。カトリックの教理の一つである煉獄について知ることができる文書である。内容は以下のとおり。これからもできるだけ読んで面白く、勉強になるラテン語テキストを見つけて行きたい。

(1) 尊敬されるべき修道院長さま、あなたは、煉獄について私が聞いたことを、あなたの前で私が〔口頭で〕

述べたことが〔文書として〕書かれたものを、あなたに送るように、お命じになりました。

(2) ところで、多くの人々がたびたび、魂はどのようにして身体から出るのか、どこに行くのか、何に出会う

のか、何を獲得するのか、あるいは何を耐えるのかを知ろうとしたことは、ご存じの通りです。

(3) さらに、全ての人に確実だと考えられていることは、悪い死が善い生に結果として伴うことはない
ということです。

(4) また、功德は死に至るまでずっと留まり、死後に報いが与えられるのですが、死後に「清めの罰」と

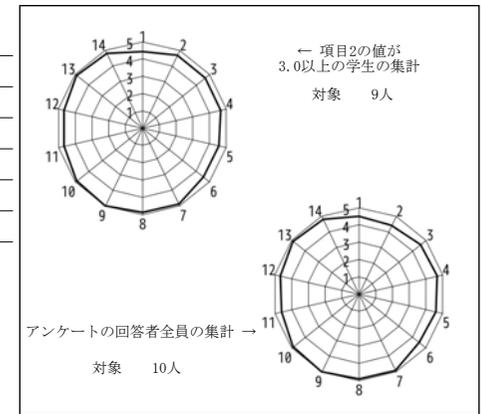
呼ばれる罰が存在すると言われています。

(5) その罰においては、その生涯において何らかの罪の中にあっただけでも正しい人として生き、永遠の

命(天国)へと予定されている人々が、しばらくの間、浄化されるために苦しめられるのです。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語IV<全>
授業コード	11J12-002
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	16
回答数	10
回答率	62.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期は全体的に評価が高かった。クラスの大半が各学期で合格して一年間ラテン語学習を続けてきた受講生なので、学年末に達成感が大きいのは自然な面もあるが、設問13(知識と理解の深まり)の4.9、設問14(全体的満足度)の4.8は、授業の十分な成果を示す数値と判断したい。提出課題の内容と授業での応答からも、「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」「辞書を引きながら平易なラテン語文を訳すことができる」という二つの到達目標はおおむね達成されていた。

担当者としてはコロナ禍で授業の準備と進行に相変わらず手こずったが、設問7~10の評価のよさに安堵している。自由記述には、レジュメやスライドが見やすかったという感想と、手製の変化表の配布を評価する声があった。Q4はオンライン参加が1名、他は教室受講という形態だったため、教室モニターとZOOMに同じ画面を写し、そこに説明をタブレットで手書きしながら授業を進めた。この方法は、ラテン語文への細かな書き込みや変化表の提示などが通常の板書よりも便利で、教室の受講者にも快適と思われるので、今後も工夫を加えて継続したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語VIII<全>
授業コード	11J16-001
教員名	岡寄 隆哲
教員コード	103614
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
一年間のラテン語授業をとおし一通り学んだ文法の知識をもとに、ラテン語の文献をかたんなレベルから段階的に講読し、語彙力と文法理解も含めて実質的な力をつけるという当初の目標にたいし、受講者の全員が（1Qの授業から続けて）毎回の暗唱課題や講読準備にしっかりと取り組んでくれたおかげで、全員一定でいどのラテン語の講読能力を身につけてくれたと感じる。文法内容にかんしても例年以上に詳しい説明をすることができ、現代欧米語のルーツの一つであるラテン語の奥深さにふれてもらうことができたと思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
回答数が少ないため全体的な見解の認識にはいたらないが、回答者の感謝の言辞には有難く思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今学期（今年度）のように真剣に取り組んでくれる受講者ばかりとはかぎらないので、モチベーションの低めな受講者にも意欲をもって取り組んでもらえるようなやり方をさらに考えていきたいと考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ギリシャ語IV<全>
授業コード	11K08-001
教員名	KUCICKI, Janusz
教員コード	101877
登録人数	10
回答数	2
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

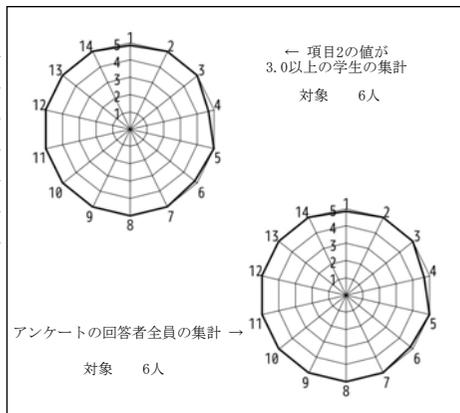
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「ギリシャ語IV」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われます。授業は二回補講を行いました。14回の授業で、最初から最後までシラバスの内容通り進みました。科目の内容については問題がありませんでした。しかし、一つの批判が出ました。それは、授業の時、学生たちがお互いに自分の声をよく聞かせられなかったという問題でした。二人組になってテキストを読む場合が多かったため、二人が大きい声を出さなければならず、大変困っていたようです。今後も、同じ問題を起こさないように学生達は近い席を取らなければならないと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 聖書時代史
授業コード 21C02-001
教員名 HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、この授業はキリスト教学科の学科科目の中で1年生が履修できる科目です。例年では学科の1年生の半数以上が履修しています。しかし、今年度は開講時限を変更し、1年生の必修科目と同じ時限に設定してしまった結果、学科の1年生が履修できなくなってしまいました。次年度は、開講時限を再調整し、学科の1年生が入門科目として受講しやすくするようにしました。

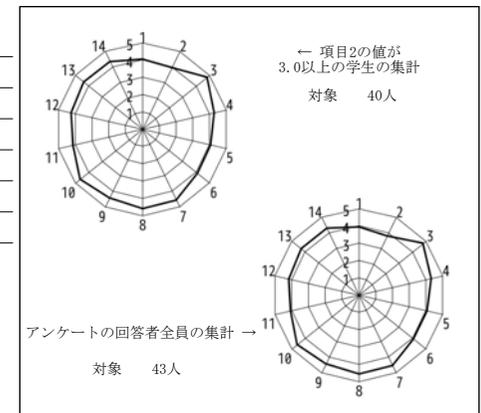
14回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。特に今回は少人数のクラスということで、一人一人からの質問や意見が非常に引き出しやすいです。

また、授業評価の自由記述の解答で学生が特に評価したのは、パワーポイントや説明が分かりやすいことと、映像資料を用いることで聖書が書かれている時代の背景についての理解が深まったということです。引き続き、映像資料を有効に活用していきたいと思っています。

更に、学生には次回の授業に扱う聖書箇所を読んでおくことで、授業の時の説明がしやすいし、学生もより理解しやすいことは学生のコメントから分かります。今後もこの方法を続けていきたいと思っています。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教史(現代教会史)
授業コード 21C05-001
教員名 三好 千春
教員コード 101173
登録人数 101
回答数 43
回答率 42.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について：開講当初に設定していた目標は、

1 「近代」がキリスト教にどのように影響したかを理解している。

2 現代の問題をキリスト教史とつなげて考える視点を持つ。

であったが、到達目標に関連する設問5、6がいずれも4.07とあまり高い数値ではない。

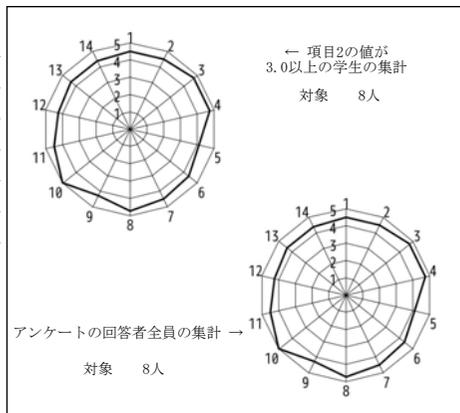
このことは、受講生たちにとって、上記の理解や視点の獲得をしたという実感が弱いということなので、もう少し、授業の工夫を重ねたい。

②について：学生たちが、私の教える熱意や、理解しやすいようにと工夫した点を評価してもらったことはありがたく感じている。今年度は、オンラインにも対応できるようにと、全14回すべてでパワーポイントを利用した初めての講義となった。パワーポイントの利点として、地図や絵画・写真などを利用できるため、視覚的に伝えやすく、学生の理解を助けた点はよかったと思う。

③について：来年度以降に向けての改善点としては、複数の学生から、授業のスピードが少し速過ぎる、書き写す時間をもっと取ってほしいといった要望が出されていた点を、改めていきたい。また、他学科・他学部の学生が圧倒的に多い授業であるため、キリスト教そのものになじみがない学生たちに対し、どこから説明すればよいかという点は、常に迷いがあるため、今後もそこは探求をしていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教倫理学(各論B)
授業コード	21C53-001
教員名	RAJCANI, Jakub
教員コード	103281
登録人数	27
回答数	8
回答率	29.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



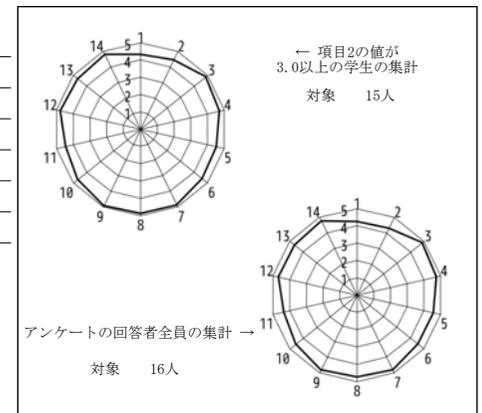
授業評価結果を踏まえた点検・評価

休むこともなく、この学期の授業を全て無事に実施できました。時々細かい話に張り込んでしまった結果、あるテーマははしょって扱うことしかできませんでした。それにもかかわらず、掲げている目標は概ね達成できたと思います。学生は毎年到達目標が分からない・知らないとか平気で書いているけれども、そもそもシラバスにも記載してありますし、イントロダクションの時にも説明しています。何か新しい技術を身につけることでも期待しているかもしれませんが、講義科目なのでただ関連するテーマについての知識を持ち、扱われている問題をより深く理解することが主な目標になります。

今回、一番悩んでいたのは教務課の決定により、コロナのため欠席過多で単位が取得できないわけではない、よって、出席を重視しないという理解が学生の間に広まってしまい、毎回の出席率は半分ぐらいだったということです。ウェブクラスの課題は書いてくれるし、期末のレポートも提出する学生はほとんどだったので、仕方なく成績は付けましたが、もしかしたら授業に出たのは数回だけだと考えると少し理不尽な気がします。もしそうでしたら、せめてズームでも参加すれば良かったなと思います。反応すべき記述はなかったし、これ以降もウェブクラスなどを活用し、授業以外の時間に復習や予習として書く課題をますます続けていきたいと思っています。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報サービス演習III
授業コード	15P13-001
教員名	浅石 卓真
教員コード	103263
登録人数	29
回答数	16
回答率	55.2%
休講回数	0回
補講回数	0回

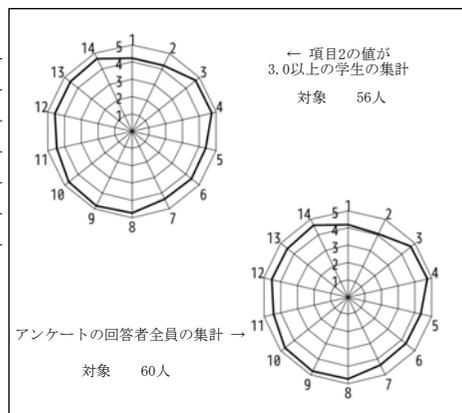


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目では目標として、1. 図書館内の資料を対象としてレファレンスPOPやパスファインダーを作成できる、2. 参考図書を用いてレファレンス質問に回答できる、3. 自ら作成した資料をもとに図書館オリエンテーションを実践できる、という3つを設定した。いずれも提出されたレポートや成果物を採点する限り、目標を達成できたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目1から14の平均が4.62、項目3から14の平均が4.68と、いずれも同程度の履修者数の科目の平均を上回っているため、大きな問題はないと考えている。自由記述では「授業内で課題が完結すること。家に持って帰らなくてよいからありがたい。」「パワーポイントを作る内容などもあったのでスキルアップすることができた」との記述があり、課題の内容や進捗とも適切だったと考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
全体的な方針は次年度以降も継続する予定である。ただし自由記述の中では「スライドをプロジェクターで出すとき、教室の前の方の明かりを消してくれないと良く見えない。」という意見もあり、次学期以降は学生に困ったことがないかを演習時間中に尋ねるなど、気をつけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学基礎論B
授業コード 22A06-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 127
回答数 60
回答率 47.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

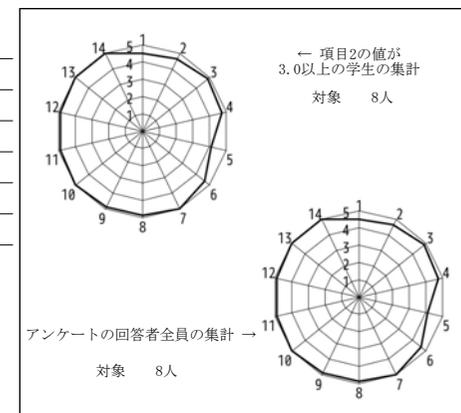


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスでは以下2点を挙げていた。
 - ・人類文化に対する多様なアプローチを理解している。
 - ・人類文化に対する様々なアプローチを比較し、それぞれの長短所を考察できる。評価点数を見てもそこまで悪い評価はなく、また自由記述欄にも「学科で学べることを網羅的に紹介しながらも深い知識や情報を提供していた」とあったので、概ね問題なかったのではないかと考える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目1・2以外はおおむね4.5を超えているようである。大きな問題はなかったのかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述欄を見ると改善点は特に指摘がなかった。ゆえに今後ともひとまずこの方針で進めたい。項目1などについて、少しシラバスの書き方などを考えてもいいのかもしれない。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 意味論
授業コード 22C15-001
教員名 和泉 悠
教員コード 103645
登録人数 22
回答数 8
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

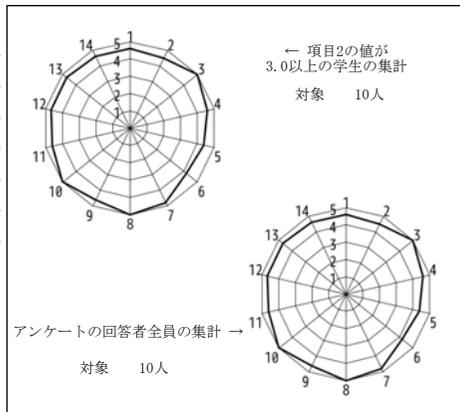


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義の到達目標は、「1.形式意味論と語用論における基礎的な概念と道具立てを理解する
2.自然言語の意味にまつわる現象を、理論的に説明していく方針を自分で考えることができる。」の2点であった。1のため、平常点となる課題、練習問題を行い、習熟度を毎回確認した。出席率も高かったため、おおむね1が到達できたことを確認した。2の到達度を確認するため、期末テストにおいて記述式の問いの割合を増やし、新しい論点を検討させた。結果としては、期末テストの平均得点が例年よりも下がることとなった。そのため、2に関して、一定程度は到達できたと思うが、「自分で考えることができる」という部分の到達がやや低かったと言える。
- ②数値データおよび自由記述を見る限り、学生からの不満はないようである。しかし、これらはいくまで学生の直観的自己判断にもとづいた満足度を反映したものであり、学習の到達度や学生の福利自体を反映していないことに留意したい。
- ③①の点を踏まえると、より応用的な「自分で考えることができる」という部分に焦点を当てる必要があることが分かった。学生参加型で、それぞれが議論をする機会を増やすことにより、より自ら探索的に課題を解決する練習を授業内で行うようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア考古学A
 授業コード 22C38-001
 教員名 上峯 篤史
 教員コード 104108
 登録人数 20
 回答数 10
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



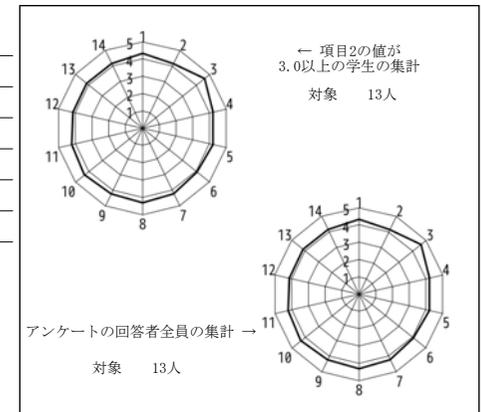
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日本列島とその周辺で展開した更新世の人類文化である旧石器文化と、それを明らかにする考古学的研究（旧石器考古学）の方法を学ぶものである。到達目標として、① 旧石器文化を構成する様々な文化要素について、大まかな特徴、地域性や変遷の概略を説明できるようになること、② 日本列島と海外の旧石器文化との共通点と相違点を、具体的な事例をあげながら説明できるようになることをあげていた。期末試験では専門的な知識を細部にわたって問うたが、受験者の得点率の中央値は80%（平均値は73%）であり、到達目標は大いに達成されたと判断している。

授業評価アンケートでも、すべての質問項目において人類文化学科が開講する科目の平均値（4.37）を大きく超えており（4.66）、受講生の多くが本授業に満足したと考えている。自由記述欄でも授業スライドに対する好意的な意見が多い。教室環境に配慮して、印刷に耐えうる鮮明さと、授業内容を網羅した情報密度の高い授業スライドを各回10枚用意して事前配布したことが、受講生の学習を支援したと判断される（教室のモニタは大きさが十分でないため、受講生には手元の印刷資料を見るという選択肢を提供できたことになる）。次年度は授業時課題を充実させ、授業効果をいっそう高めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(物質文化論)
 授業コード 22C74-001
 教員名 宮脇 千絵
 教員コード 152580
 登録人数 51
 回答数 13
 回答率 25.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

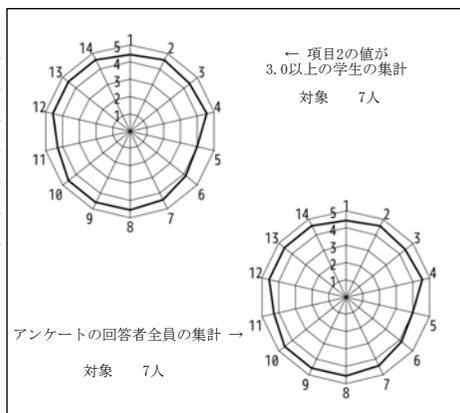


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は、文化人類学における物質文化研究の動向を辿りながら、民具や民芸、手芸品、生活財、フェティッシュ、越境品など具体的な事例を取り上げ、モノと人との関係を探るものであった。毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求め、授業内容の理解・定着をうながした。リアクションペーパーのうちいくつかは、翌授業時に紹介することで、補足説明などをおこなった。最終レポートでは、自分の身の回りにあるモノを事例としてこれらに関する理解度と文章力をはかったが、おおむね目標は達成されていたと考える。
- ②授業中に何度か時間を取り授業評価をするように促したが、4分の1以下の回答に留まった。またそのうち1人、ほぼすべてに「1」をつけている学生がおり、これをどのように受けとめたらよいかは分からない。数値データからは、授業環境はおおむね整っていたという評価を得る一方、「到達目標に向けて力がついているか」「新しい知識を得たり理解が深まったか」が若干低い評価となったので、今後の改善点としたい。
- ③私にとって初年度の授業であったため、学生の反応をみながらの進行形で授業を組み立てていった部分がある。そのため到達目標などが曖昧に感じられたかもしれない。2年目にあたる次年度では、これらの点を改善、ブラッシュアップしていきたい。また資料配布をオンラインでおこなうなど、対面授業であってもオンラインを上手く活用していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学A2
授業コード	12E03-002
教員名	浦上 昌則
教員コード	018788
登録人数	22
回答数	7
回答率	31.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

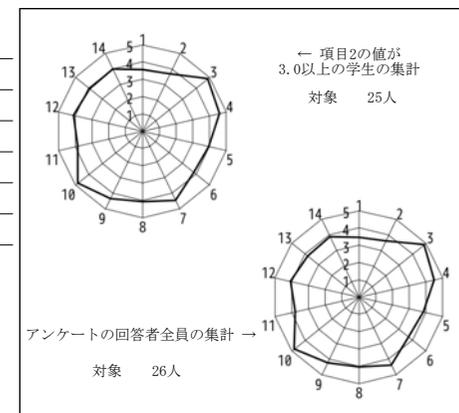
この授業は、認知心理学、学習心理学および発達心理学をあつかう概論科目である。そのため各領域内の多様な基礎的事項を広く紹介した。各領域の概要を理解し、基礎的事項を説明でき、また生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができるようになることを目的としている。

授業評価の回答は、平均値が概ね4点台であり、好意的な評価を得られたと考える。授業終わりに書いてもらう学生からの質問に回答する時間を、次の回にとることを以前より継続して行っている。これに対しては「質問に対して毎回きちんとした回答があったこと」などの評価コメントがあった。

なお、例年、途中で数分間の休憩を挟んでいるが、今回はこのことに対して「数分ですが休憩の時間が頂けるのがとてもありがたかったです」というコメントがあった。100分の授業となり、こういう時間がより必要になってきたのかと推測する。以後も続け、様子を見ていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と環境1
授業コード	13D02-001
教員名	林 雅代
教員コード	018796
登録人数	44
回答数	26
回答率	59.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

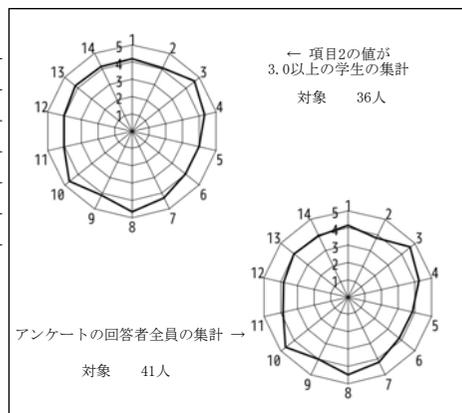


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対面授業での実施であったが、感染対策により学生同士距離を空けて着席していたため、私語がなく非常に快適に授業を行うことができた。昨年度から毎回の授業のための事前学習課題を提示して読んでくるように指示し、中間試験および期末試験ではそれを引用して解答するという形をとった。中間試験の結果をみて履修中止する学生も出たため、特に授業後半回の出席者は真面目な人が多く、設問項目2の回答でも予習・復習を行うことがある程度定着していたように思われる。事前学習課題の提示による学習効果は、一定程度得られたと考えられる。授業の教材等に関する設問項目9の評価は4.23となっており、教材の活用やwebclassの活用については適切であったと思われる。自由記述では、テキストの分量が多すぎるという意見もあったが、そういった声が多く寄せられたわけではない。テキストの分量や課題の分量に配慮しながら、より適切な事前学習課題の提示方法を考えていきたい。中間試験を実施して、履修中止を促すとともに、試験前にまとめて勉強するのではなく、日頃から予習復習に取り組むよう促した。中間試験・期末試験の実施やその他の課題の分量に関して、特に意見はなかったが、中間試験の結果提示が遅すぎるという意見はあった。これについては自分としても反省しており、改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション論
授業コード 23C18-001
教員名 加藤 隆雄
教員コード 019349
登録人数 131
回答数 41
回答率 31.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

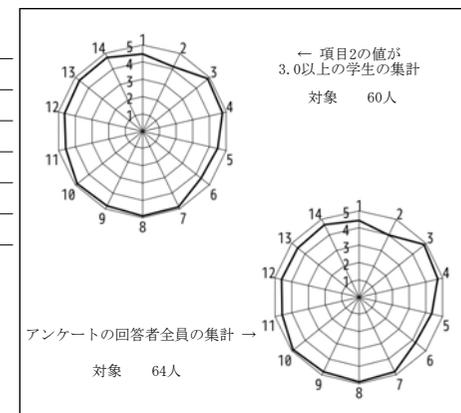


授業評価結果を踏まえた点検・評価

大教室での対面授業で行った。大半の項目について平均点で4点を越えているので、事前に設定した目標は達成したと考えられるが、何度か入力を促したものの、受講者に対して回答者が半数にも満たない。Webでの授業評価は手続きが簡略化されよかったと思っていたが、回答率の低下により評価が歪になる傾向があり（下記のような「独自の不満」を持つ学生が回答しがちであり、その評価の比重が増す）、またAmazon商品の☆評価やTwitterでの書き込みのようになってきた。20年近く続いてきた評価項目も今年度のような状況では結局どのような授業改善へとつなげればよいのかわからないものも多い。オーディット文化の中で成立してきた制度自体の再評価の必要性も感じる。今年度は初めて100分×14回の授業として取り組んだが、予想以上に難しい点があった。第一に、一回の授業内容の再編成が必要になった。第二に、パワーポイントのみの使用（教室の構造でホワイトボードと併用できない）で大幅に時間が短縮されたこと（パワーポイントのみの授業は単調だとの意見もあった）、および授業時間も50分増えたことで、1~2回分の授業時間が新たに生まれ、今までの内容では不足であり、時間も早く切り上げることが多かった（Q3に影響か）。来年度は1~2回分の内容増加を予定している。これに関連して「内容が多すぎる。試験のために暗記することが多い」という自由記述があったが、持込可の試験であると再三伝えており、不可解な意見であった。オンライン授業を経て今回は資料を各自ダウンロードさせるようにした。自由記述ではこのことに対する不満が2件あり、カラーで印刷するのはお金がかかる、モノクロだと黒くなる、という内容だったが、こちらが把握している事実とは異なっており、これもまた不可解な意見である。これに対して、評価する自由記述も多かった。「わかりにくい内容を、日常的な場面に例えて説明されていた」「豊富な資料が用意されており、スライド内容も分かりやすく整理されていたため、学びやすかった」など多数あった。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 発達心理学
授業コード 23C21-001
教員名 西脇 良
教員コード 100623
登録人数 137
回答数 64
回答率 46.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、①乳児期・幼児期・児童期を中心に、主要な発達課題、定型／非定型発達に関する基礎的知識を習得していること、②学習内容と自分の成育経験との照合をおこなうなかで、自らの成育史への理解を深めていること、を到達目標としました。

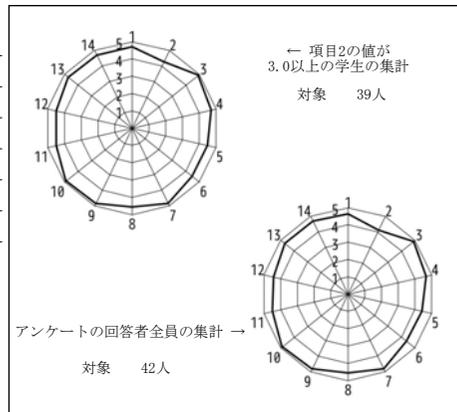
学生の皆さんからの数値面での評価ですが、本科目の全設問の平均値（＝4.59）は、評価対象科目全体の平均値（4.36）、心理人間学科全体の平均値（4.52）よりも若干高く、全体としては「平均的」との判断をいただいたと理解しております。最も高かったのは設問10（声や音声の明瞭さ＝4.91）、最も低かったのは設問2（主体的な授業参加＝3.97）でした。後述するように、学生の主体的な授業参加を促す取り組みが不足していたといえます。

自由記述では、「理解を助ける映像資料が豊富だった」「説明が分かりやすかった」「適宜休憩が入ったので集中力を保てた」「講義資料をウェブ掲載してくれていたのが役立った」等の肯定的意見をいただきました。一方、「レジュメを読む以外にも考えてみる時間があればいいと思う」「聞くばかりの授業なので2コマ連続だと集中力が保てない」「毎回の小レポートの文字数が他の授業と比べて多い」等、授業改善のための意見を頂戴しました。

来年度からは、横置き型の授業を実現します。また、大人数の授業ですので限界はありますが、主体的な授業参加を促す取り組みとして、意見交換の場を設定したいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード 23C60-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 93
回答数 42
回答率 45.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約90名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点から人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.38と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたとすることができよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目14）は、4.69と比較的高い水準にあることから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

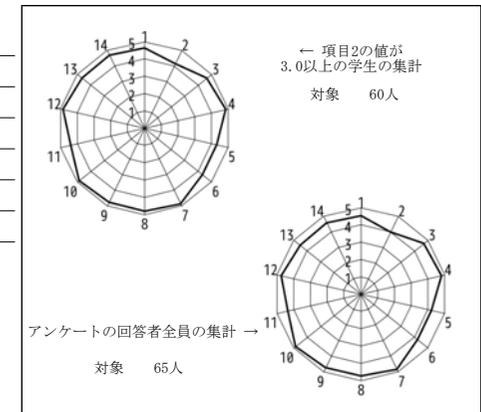
WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設け、VTRを多く活用し、実際に実験のデモを行った。また、昨年に引き続き、WebClassのアンケート機能を用いて、毎回の授業後の記録（ジャーナル）を記入してもらった。書かれた内容は、匿名状態にして、受講生全員が相互に見られるようにした。とくに、映像を多く用いたことについては自由記述でも複数言及されており、学習に効果的であったと言える。

(3) 改善点

自由記述において、スライドの文字が小さくて見えづらい、また、レポートに書いてもらった改善点としては、機器の不具合で大きな音が出たことが挙げられていた。これらの点について、改善をしていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理療法論(心理学的支援法)
授業コード 23C61-001
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 102
回答数 65
回答率 63.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は次の目標であった。以下の心理療法(心理学的支援法)の基本的概念について理解している。

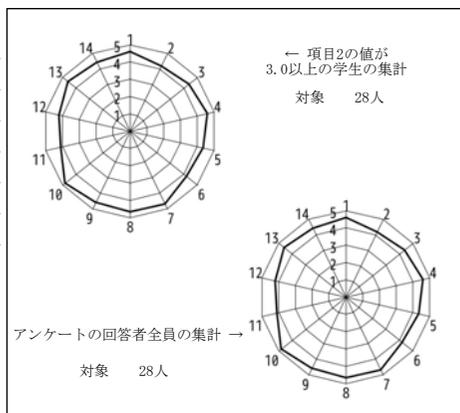
- ① 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- ② 訪問による支援や地域支援の意義
- ③ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- ④ プライバシーへの配慮
- ⑤ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- ⑥ 心の健康教育

本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、本授業の結果が下回る場合があった。項目2は、大学全体平均よりも0.1ポイント低くなっている。予習が必要な授業課題に関して、予習の行うことの必要性を説明しているため、復習を学生があまり行わなかったことが、反映していると推測される。この点について、今後、さらに意識して授業運営を行いたい。

大学全体平均よりも0.2ポイント以上、上回っている設問は1、4、7、9、10、12、14あった。これらの項目は、学生の授業への興味、授業の構成・進行速度、教員の誠実さや真剣さ、授業運営（理解度への配慮や教材等の効果的使用、質問の機会や事後指導）、全体としての満足感に関することであり、それらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。今後も、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード 23C78-001
教員名 中野 有美
教員コード 103995
登録人数 72
回答数 28
回答率 38.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

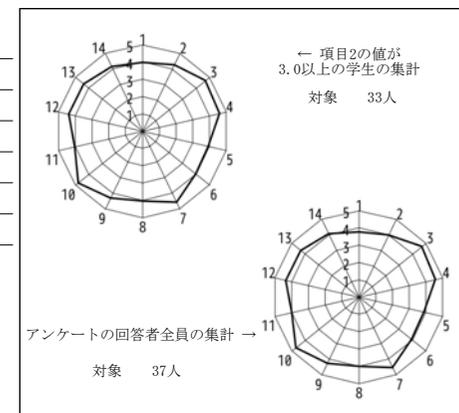


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定した目標について、アンケート回答者（28名）に限っては、達成度は悪くはないと判断できる。しかし、項目11「学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の得点は（4点以上ではあったが）他の項目に比べて低かった。授業中に質問を投げかけ学生の声聴くように努めたり、書籍を紹介したり、映像を鑑賞したりといった工夫をしたつもりであったが、学生は別方向の工夫による授業参加や情報提供を望んでいるらしいことが分かった。それが何であるのか、他の教員から教示いただくなどして解明していきたい。配布資料については、なるべくわかりやすく詳しいパワーポイント資料を作成して配布したつもりであったが、アニメーション機能を使っているにもかかわらずそのまま印刷して配布していたため、資料が見にくく困った学生がいたようである。今後改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは4
授業コード 13E02-004
教員名 榎山 洋介
教員コード 041806
登録人数 43
回答数 37
回答率 86.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

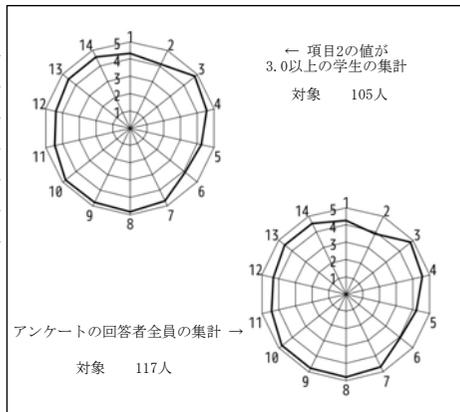


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「質問・コメントシート（計8回）」「基礎力確認テスト」「レポート」から判断して、授業の目標に十分到達した者が約35%、授業の内容を相当程度身に付けた者が約30%、授業の何らかの内容を身に付けた者が約30%、授業の内容を身に付けるに至らなかった者が若干名であった。このように、受講者の授業への取り組みおよび学習成果に相当な差が見られた。「説明と具体例の紹介のバランスが良く、理解しやすい授業であった」という意見があった。今後も身近な具体例に基づく説明を心掛けたい。また、「毎講義の初めに前回のリアクションペーパーの紹介があったことで、前回講義の復習ができると共に、他者の意見から更に理解を深めることができた」というコメントもあった。「質問・コメントシート」による受講者とのやり取りを今後も続けていきたい。さらに、「言語学に興味を持てた」という意見もあったが、上記の通り、受講者の取り組み・学習成果に差があったことから、より多くの受講者が授業内容に興味を持ち、成果を挙げられるように、学習項目および具体例を吟味したい。なお、「声が小さいのでマイクを使うなどしてほしい」という指摘があった。マイクの調子が悪く、マイクなしでの授業が可能な受講者数と判断したが、今後、気を付けて授業を行いたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文学入門
授業コード	24C01-001
教員名	福本 拓
教員コード	104126
登録人数	182
回答数	117
回答率	64.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

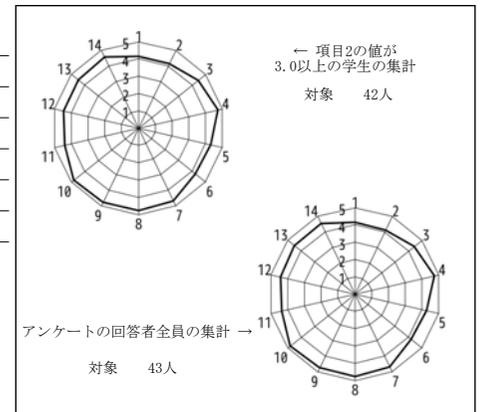
設問3～14の平均が4.47、総合的な満足度を示す設問14の平均が4.53と、いずれも全体のアベレージを上回っており、この観点で見れば比較的良好な評価が得られたものと考えている。

自由記述をみると、Mentimeter（オンラインアンケートシステム）の利用について、他の受講者の意見をリアルタイムで見られることが興味深く、学習意欲が高まったという意見が多数みられた。多人数講義での双方向型授業の実施には色々なハードルがあるが、本講義における方法はかなり有効であったと考える。また、教室にPC・カメラが設置されていたので、録画した動画を欠席者向けに資料DLサーバで配信していた（講義自体は対面のみ実施）。この取り組みについては、1月に新型コロナウイルスの濃厚接触者が始まったこともあり、大いに役立ったとする回答もあった。加えて、復習にも活用できるという意見もあり、今後も継続していきたい。

全般的に自由回答では好意的な記述が多かったが、その割には満足度が必ずしも高い水準ではなかったように思われる。時間配分が適切でなかった（後半に毎回急いでいた）という指摘もあった。今年度から100分授業になったことで授業の構成をアレンジしたが、かえって内容を詰め込みすぎたかもしれない。適切な理解に至れるよう、改めて授業内容の精査を行いたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中世文学研究
授業コード	24C33-001
教員名	森田 貴之
教員コード	102286
登録人数	74
回答数	43
回答率	58.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

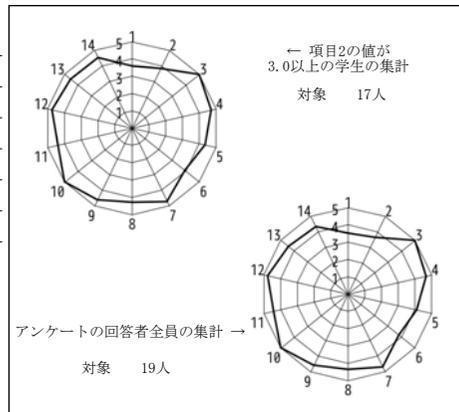
設問1の授業開始前の興味が4.16であるのに対して、設問14の満足度も4.53であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えている。調査対象科目は、日本文学学科の学科科目の一つであり、日本文学のうち古典文学作品を扱う、専門性の高い内容であった。

そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり普遍的な作品理解の方法につながるように、また、具体的な関心を高められるように努め、本文の解釈においても負担をかけないようにつとめたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。

全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国古典研究
授業コード	24C41-001
教員名	西岡 淳
教員コード	019315
登録人数	25
回答数	19
回答率	76.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

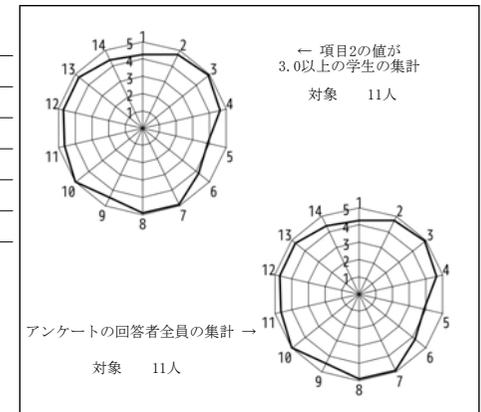


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中国の古典詩に関する講義形式の授業で、近体詩の成立、および北宋と南宋の主な詩人について講じた。授業の目標は、中国古典詩の形式について音韻的な側面も含めて理解できること、時代背景を知り、その上で個々の詩人たちについて知識を得ていることなど。成績評価は、記述問題と読解問題を内容とする定期試験によった。答案には受講者個々の意見がよく述べられ、読解の出来もまずまずで、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の平均値は4.38（除1・2：4.51）であった。評価項目の中では、設問1と2以外では、6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が平均値3.79と、意外に低かった。講義形式を取ったために受講者に自覚がないのかもしれないが、授業での資料読解を通して受講者が確かに能力を獲得していることは、試験結果からも明らかである。自由記述にも、「知識を前提とせずに関わりやすく丁寧に教えて頂けた」「中国文学に触れる機会があまり無かったので、この講義を通して様々な時代の中国詩を知ることができて面白かった」等の回答があり、受講生の理解度は深まっていると思う。評価されなかった点としては、「聞き取りにくいことがあった」「進み方が早く、書き下しや訳を把握しきれないことがあった」等の記述があり、今後の課題とすべきだと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語音韻論
授業コード	24C55-001
教員名	平子 達也
教員コード	104112
登録人数	21
回答数	11
回答率	52.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

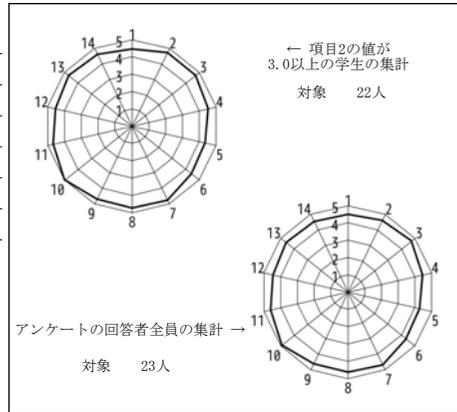
この授業開講当初の目標は、学生が「自力で音韻分析ができるようになる」理、「構造主義音韻論の基本的な考え方について理解している」ことにあった。特に前者の目標が重要であり、後者はそのために必要な前提となる知識という位置づけである。

「この授業の到達目標を理解することができましたか」という項目の値が4を下回り、受講者自身は目標に到達できなかったと感じているように思われる。しかし、提出された最終レポートを見る限り、多くの受講者が自力で音韻分析ができるようになっており、半数以上の学生はこちらが想定していた以上の理解に達していることがうかがえた。一方で、数人の受講者については、基本的な事柄の理解ができていなかった。これらの受講者は1回以上の欠席があった。欠席は致し方ないことではあるが、その欠席に対して、自らが積極的に補おうという姿勢が見られなかったのが、上述のような結果につながったものと考えられる。

自由記述欄に「難しすぎた」という記述があり、その学生が「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」という項目で「1」をつけた。当該学生は理解が追いつかなかった原因を教員に求めている。一方で、授業担当者としては、授業開始10分前からの30分程度の時間を、自由に質問できる時間とし、そこで補ってもらうことを意図していた。積極的に質問してくる学生は多くなかった。授業内での説明を改善することも重要だが、今後は、学生自身にもっと積極的な質問を促すようにすべきだと考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の会話教育
授業コード 24C63-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 26
回答数 23
回答率 88.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

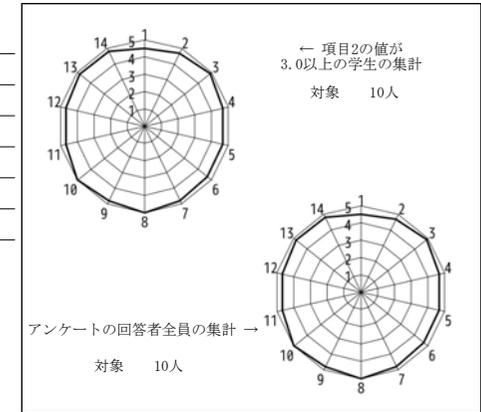


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定した目標は概ね達成できたが、自由記述で挙げられている問題については確かに問題を感じる。授業の課題が多く授業外でもかなりの時間を要する点は、ウェブシラバスに十分な記載がなかった。また課題の内容の詳細について当初まとめて明らかにせず、やや五月雨式に提示してしまったのは問題であった。これらの点については、次回は改善の必要性を強く感じている。グループワークの前にその課題の説明が不足していたというコメントについては比較的容易に解決できるので、留意したい。イタリアのカフォスカリ大学とのCOIL活動は多くの学生にとって最も貴重な体験であった一方、先方のパートナー次第で十分に話し合いができないなどの問題は多々あった。COILに関する問題は、クォーター制であるむずかしさやこちら側だけでは解決できない先方の事情もあるが、先方の教員ともう少し密な打ち合わせをすることや、第3クォーターに開講することが可能なら少しは改善できる可能性があるため、検討したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(中級)
授業コード 24C66-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 10
回答数 10
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

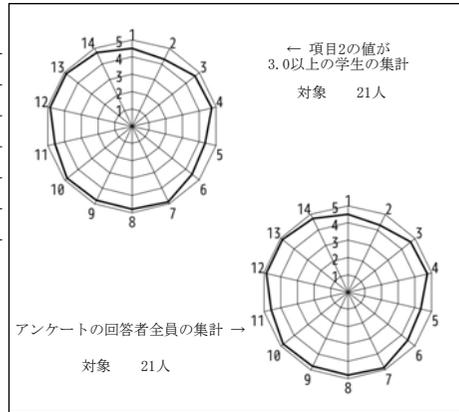


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2回の発表を通して日本語教育文法に対する理解を深めていくことはほぼ全員の受講生において達成できたと考えられる。
- ② 雑談の時間が長かったという指摘は否定しない。一方で、それらがその日の学習項目の活用（文法事項を含んだ文型や語彙の実際の使用）であることは、明言しなかったためか、気づかれていないようだった。今回の授業では、担当した文法項目を分析し、それが自然に使われるストーリーを作るという事を意図していたため、配慮したことであった。発表担当の学生が想定よりも早く発表を終えた場合の方策について指摘をもらった。参考にしていきたい。
- ③ 学生の出席率は高く、モチベーションの高い授業だったことはアンケート数値からもうかがえる。それだけに、もっと学生同士の話し合いの場などがあってもよかったのかもしれない。新型コロナウイルス対策で、あまり学生同士が直接相互に関わる時間を取らなかったことも、学生自身の物足りなさがコメントされていた。②に述べた雑談を含め、授業内での活動について、明示的にその目的を示した方がよさそうだと感じたので、来年度は、教室内の活動について、それぞれの意味を説明したうえで進めたいと考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史の諸相2
授業コード	13B06-002
教員名	川島 正樹
教員コード	048116
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

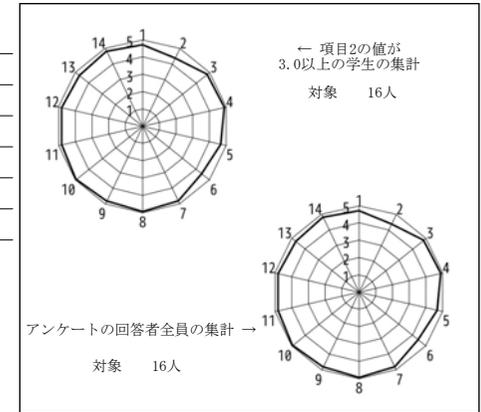


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：前回（2019年度）と比較して、項目5は4.35から4.38への微増に留まったが、項目6は4.33から4.48に、項目13は4.58から4.86に、項目14も4.37から4.71へと、大きく上昇した。まじめでかつ極めて意欲旺盛な、少数精鋭の受講生に励まされつつ、かつてないほど満足のいく授業展開ができた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：自由記述欄の評価すべき点として8割の受講生が記述してくれた。まとめれば、歴史学の本来の意味と役割、すなわち客観的な過去の事実の探求に徹すべきこと、しかしながら、それが極めて難しいこと、さらに歴史の渦中にあったそれぞれの立場の人々の感情にも想像力を及ぼせることに関して、十分な理解がなされたことが確認できた。加えて計5本の映像資料が極めて効果的であることも確認できた。ただし、映像の途中で適宜説明を加えてほしいという要望は傾聴に値する。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：引き続き大変好評だった映像資料やWebClassの活用方法にさらなる工夫を加えつつ、コロナ禍で実行が難しかった周囲の受講生との討論が十分にできる日の再来を願いつつ、共通教育の大規模授業における従来の限界を打ち破る新たな工夫を加えたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相10
授業コード	13C06-010
教員名	手塚 沙織
教員コード	103911
登録人数	18
回答数	16
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

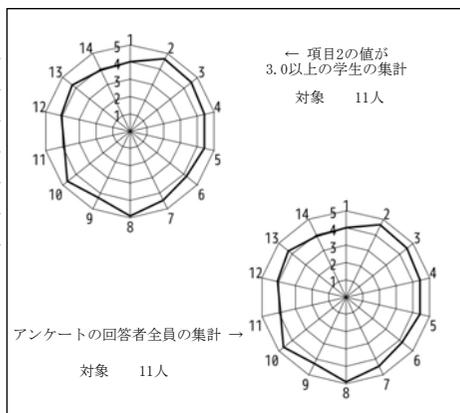


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業の到達目標は、1) 政治と経済に関する基礎的な知識を理解できる、2) 政治と経済の関係を把握できるようになる、3) ある事象に対して、多角的に学び、議論できる能力を身につけられる、これら3点である。本授業は、学年学部問わず履修でき、経済や政治というと苦手意識を持っていたり、経済や政治に興味がないといった学生が一定数いることを想定していることから、教員が一方向的に話すだけの学生にとっての能動的な授業ではなく、映像を利用することや、リアペを通じて学生自身の経験や意見を書かせる自主的な課題を授業の中に組み込むことによって、学生が政治と経済への関心を高められることを意識して、授業を構成し、学生の反応に応じて授業進行や内容に変化をつけた。オンラインでの授業と異なり、対面授業は学生の反応や雰囲気が見えるため、学生の理解度に応じて授業進行度を調整しながら進められたことはとても良かったと考えている。学生からの自由記述でも、授業への満足度が高かったようで、嬉しい限りである。学生が政治や経済に興味を持ち、その関連記事を読むようになったと何人もの学生から聞いたことは私自身への授業作成の励みとなった。また、オンラインと違い、対面授業では、授業終了後に学生が質問に来てくれ、学生との議論も楽しかった。今後も、授業内容を最新の経済や政治ニュースを交えながら、学生にとって学術的かつ実践的に興味を持てる授業を提供していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A IV3
授業コード	31A04-003
教員名	COCHRANE, Robert
教員コード	104483
登録人数	26
回答数	11
回答率	42.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals I set were to challenge the students to extend their personal outlook in terms of academic achievement and expectations. I attempted to provide them with a variety of tasks to focus on the process of academic production without overloading them with homework.

They did quite well and showed a willingness to explore the idea of academic English production (writing and speaking).

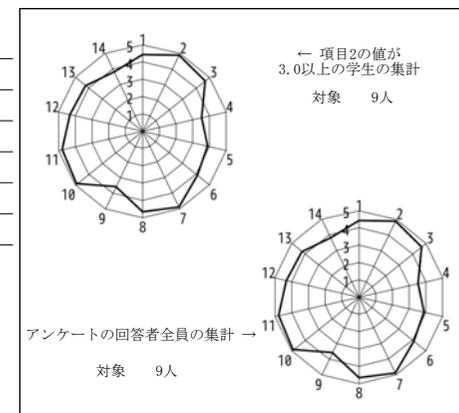
The survey results are to be expected and are generally above average.

I do not think that there are any problem areas from the numerical charts.

The points that I will strive to improve are my response times in terms of homework and assignments and to provide more detailed feedback as much as possible. At the very least I will work towards providing general class feedback as soon as possible after assignment submissions and personalized feedback after I have had time to grade the assignments. I will also offer personalized detailed feedback to students upon request.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A IV6
授業コード	31A04-006
教員名	WILSON, John
教員コード	102696
登録人数	30
回答数	9
回答率	30.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

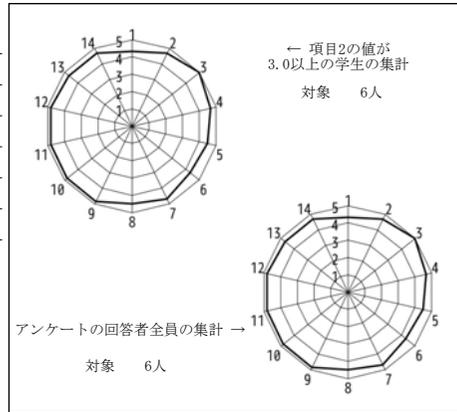


授業評価結果を踏まえた点検・評価

AEA was structured around two themes: History and Politics. Students often worked together as teams or small groups on 3 primary projects, and on one alone. The projects included a History video, a joint history essay, a debate about a political topic and a letter of concern. Since this was my first term teaching this course with a textbook that I did not create, it was a learning curve for the students as well as myself. Overall, as the statistics suggest, the students enjoyed the course and learned many new skills as a result. In general I was pleased with each students' effort to study and learn principles taught in class. Since the textbook has more content than can actually be covered in the quarter, for the next term I will carefully evaluate each activity in the text to determine which to include and which to leave out or provide as self-guided study/homework for the students. It is an excellent and difficult course requiring students to work collaboratively, think critically and produce high quality work.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A2
授業コード	31C01-002
教員名	金 慧昇
教員コード	104504
登録人数	6
回答数	6
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

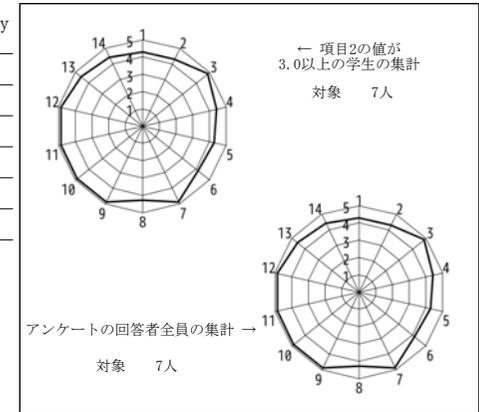


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、日常生活史の観点から19世紀のイギリス社会について理解し、現代社会との比較を通じて過去からの連続性と変化について考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリス社会についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容に基づいて過去と現在を関連付けて議論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生が19世紀イギリスの歴史を学び、自ら様々なテーマについて考える機会が得られたことができたと思われまます。今回は6人の少人数授業であったため、全員の学生が毎回英語でグループ・ディスカッションに積極的に参加することができたことも成果の一つでした。最初本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、毎回討論を準備するための事前学習を通じて全体的にある程度は内容について理解が深まったように思われます。ただし、授業スライドとレジュメに情報量が多かったことは改善すべきところであり、今後スライドやレジュメの構成を直していくことが必要であると感じられました。これからは関連する写真や画像などを加えつつ、それらの資料についてより具体的に説明するなど、様々な工夫をしていきます。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society E2
授業コード	31C05-003
教員名	原田 健二郎
教員コード	104468
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

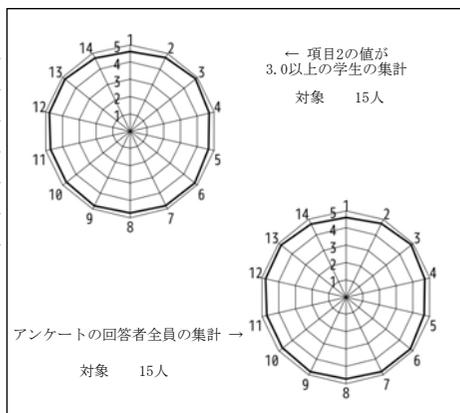
この授業の到達目標は、①指定テキストを用いて20世紀イギリス史に関する理解を深めることと、②アカデミックな英語の運用能力を高めることであった。数値は予想よりも安堵できる結果となり、目標はおおむね達せられたのではないかと考える。学生の自己達成度を問う項目（設問5, 6, 13など）については他の項目よりも値が低いが、これは自己過小評価の表れではないかとも感じる。ただし、英語能力（特にライティング）についてはさらなる指導が必要かもしれない。

項目8の値が低かったが、これはエアコンの音によりマイクの音が若干削がれたこと、他方でコロナウイルス対策で窓・ドアを開けているため音量を上げにくかったことによるのではないかと推測する。今後は臨機応変に対処したい。

本科目は初めて担当する科目だったが、今年度の評価結果を活かして改善に努めていきたい。アンケート回答率についても、十分な周知を図るなどして上げるようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
A<国際科目群>2 (英米学科生用)
授業コード 31C06-903
教員名 今井 達也
教員コード 102469
登録人数 25
回答数 15
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業の目標は異文化適応の問題を理論的に分析し、応用力を育成することであった。授業評価を見ていると、この目標の共有が不十分であったようで、次回からはこの目標共有に少し時間をかけようと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。*

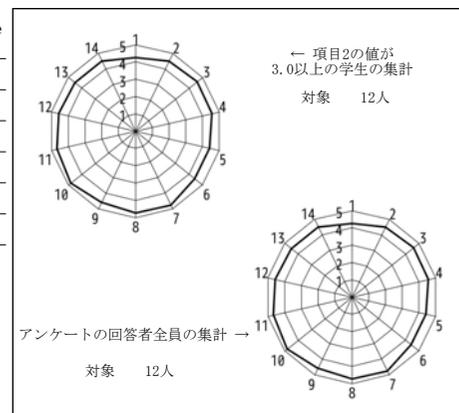
数値データは平均4.76であり、平均以上の満足であると考えられるが、自身の他の授業と比べると低い。この授業は本来、ディスカッション中心の授業であるため、コロナ禍による制約で本来の授業スタイルが損なわれていることが一因であるとも考えられる。もう一点は、学生のプレゼンテーションのスキルを高めるため、録画をしていたが、その録画に対して不満感を持っていた学生もいるようで、今後はどのように自分のプレゼンテーションを客観的に分析できるか、を検討してもらえる工夫をしていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後もコロナ禍が続くと考えられ、対面とオンライン、両方の授業形式の希望があると考えられる。全ての学生の要望には応えられないが、なるべく学生の学びに寄り添える授業スタイルを考えていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
D<国際科目群>1 (英米学科生用)
授業コード 31C09-901
教員名 PURCELL, William
教員コード 016501
登録人数 33
回答数 12
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

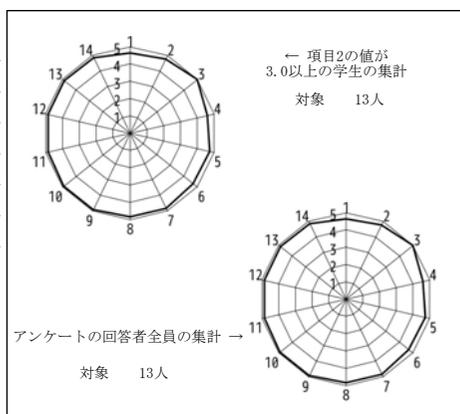
The students who chose to submit the evaluation for this course seem to have been very satisfied overall. Unfortunately, only about half of the participants chose to do the evaluation. Only a few offered specific comments, but those that did indicated particular satisfaction with the daily approach to classroom activities and to the materials. One in particular appreciated the warm-up activities leading into the topic for the day. Another expressed satisfaction with the amount of small-group discussion time.

Overall, I am satisfied with the student response to the course. My first goal is always to raise in the students awareness of and appreciation for the peoples and cultures of places other than Japan. That I think has been successful. Another goal has always been to encourage the students to read fiction reflectively. That, too, seems to have succeed.

As usual, I still feel frustration with what I see as student reluctance to speak out or offer an opinion. In over forty years of teaching at this level I have only occasionally had groups willing to speak freely.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群>
2 (英米学科生用)
授業コード 31C17-903
教員名 DORMAN, Benjamin
教員コード 100695
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

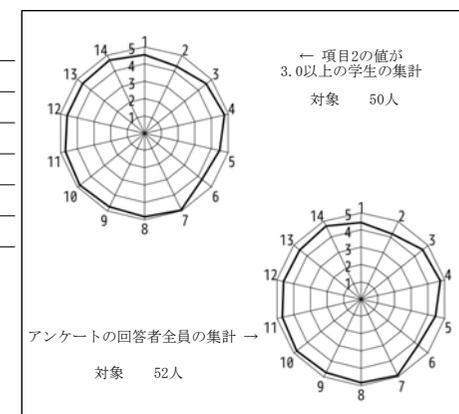


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course covers a broad range of issues concerning various elements of Australian identity. These included Australia's first contact with Britain, its convict past, bushrangers and other "folk heroes," Australia's involvement in war in relation to identity, Australian language, and Anglo-Indigenous relations through an examination of Australia's "stolen generations." Most materials were audio visual, including film and television programs. Overall, I felt the course goals were achieved. The comments from students indicate some satisfaction concerning content and format. One comment indicated there was excessive time required in total for course participation. In future, I will shorten the amount of material. Another comment was that online classes tend to be "one-way" and do not allow for other people to speak, and that this was particularly a problem for "language classes." While I appreciate the comment, the class is not a "language class" but rather a social studies and history class conducted in English. Every student had the opportunity to speak and to comment on the opinions of others, as indicated by comments of other students.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学研究の基礎<国際科目群>
授業コード 31D02-901
教員名 TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数 109
回答数 52
回答率 47.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

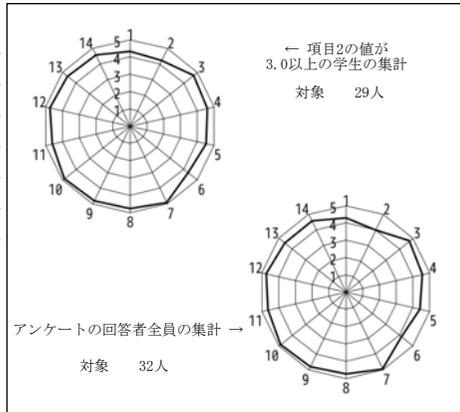


授業評価結果を踏まえた点検・評価

While students understood the close relationship between literature and society through this course, I wish more of them had tried to use the resources I drew their attention to for their final report. Due to the coronavirus situation, I gave students the freedom to choose which lectures to attend, nevertheless I wished attendance had been a bit higher. Student satisfaction was high and the comments included an appreciation of the clarity of explanation, the pleasure reading children's stories with an adult awareness, and the ample time allowed for discussion. To improve the course, I will take on board the criticism that my explanation on WebClass as to what will take place in each lesson needs to be more detailed. I think I also need to give more lesson time over to research methods.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学研究の基礎 (アメリカ)
授業コード	31D07-001
教員名	大井 由紀
教員コード	101888
登録人数	49
回答数	32
回答率	65.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

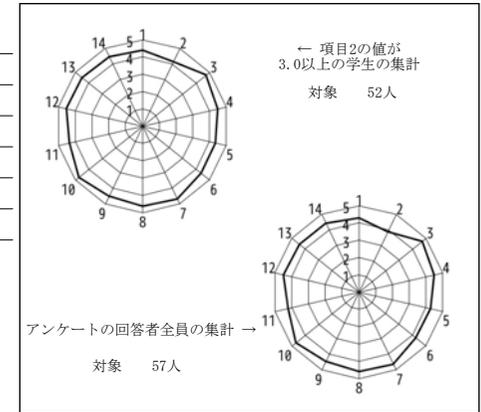


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設定していた目標と到達の程度については、期末課題で共生に関する問いを設定し、応えてもらうことで確認ができました。全体的に、共生を阻害するものや共生の定義について、授業や授業中のディスカッションなどをもとに考察した痕跡がみられました。授業をよくきいていたことはわかりましたが、独自性がある意見はほとんどみられなかったため、授業で知識を得るだけでなく、知見を広げるべく参考文献へと導けるようにしたいと思います。
- ②授業でほぼ毎回ディスカッションを行ったことが好評かつ、参加学生さん自身でディスカッションの意義を見出すとができたようで、よかったですと思います。
- ③ディスカッションに時間をとりすぎてしまったこともあったので、次回以降、バランスを再考したいと思います。ディスカッション自体の位置付けや意義について、より明示的にすると、学習効果が上がるのではないかと思います。期末課題のレポートを読んでいて、構成がきちんとできている学生さんがほとんどいませんでした。次回から、日本語での説得力ある書き方についても時間を割いて説明した方がいいかと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治とコミュニケーション
授業コード	31E09-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	144
回答数	57
回答率	39.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バラク・オバマの演説の特徴を理解すること、現代アメリカ社会についての理解を深めること、大統領の演説やその他の政治的メッセージを分析できるようになることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.47だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.36を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

自由記述欄を読むと、教員の説明がわかりやすかったこと、視聴覚資料を多く使ったこと、リアクションペーパーやZoomのチャット機能を使って学生たちから意見を受け付けたこと、それらの意見に対して丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。アメリカ合衆国の政治演説というのは、多くの学生たちにとって馴染みのないトピックだったと思うが、その奥深さやおもしろさに気づいたという意見があったのは嬉しかった。その一方で、100分間、授業に集中し続けることに難しさを感じた学生もいたようだ。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

この授業は対面授業が原則となっていたが、Zoomによる同時配信も行った。対面授業のよさを再確認した学生たちがいた一方で、体調不良などからオンラインでの受講機会を活用した学生たちもいたようだ。対面とオンラインのいいところをうまく組み合わせながら、引き続き社会状況の変化に対応していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン史B
授業コード	32C04-001
教員名	永田 智成
教員コード	103900
登録人数	9
回答数	3
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

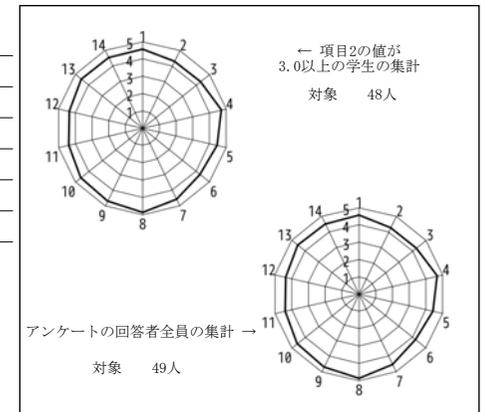
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインと対面式授業で授業の構成が異なり、物理的に要する時間も異なることから、本科目のような歴史科目はなかなか準備が大変であるが、概ね当初の目標は達成できたと考えている。受講者が少なく、また途中で来なくなった学生も多かったことから、数値データが総意を示しているとは考えられないが、回答してくれた学生によれば、概ね好評であったことが窺える。唯一自由記述欄において、100分の授業は長すぎるという意見があった。話している方からすれば、特に差を感じず、むしろ14回になってしまったことに不便さを感じているところである。15回で行っていたところ、14回になり、単純計算であれば授業時間数は増えているのであるが、体感的にはそのような感じには受け取れない。15回の講義を14回にして準備するのではなく、14回用に合わせるということが重要であると感じた。また100分の授業が長すぎるという意見に対しては、長く感じさせない工夫をしていけるように、今後検討していきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペインの文化と社会A
授業コード	32C06-001
教員名	小阪 知弘
教員コード	103689
登録人数	109
回答数	49
回答率	45.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

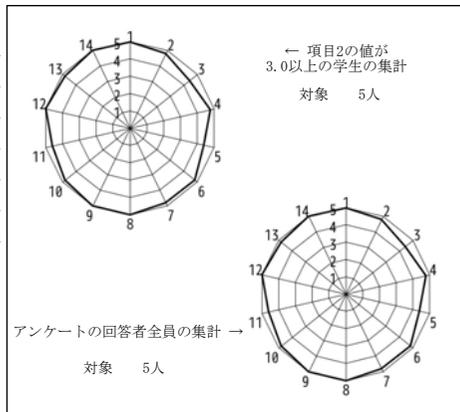


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと判断している。14回の授業の中で、スペインの都市の基本構造を概観するところから始まり、マドリッド、バルセロナ、アンダルシア三大都市、南山大学と提携のあるサラマンカ、などスペインの主要都市を全て、過不足なく扱うことができたからである。アンケート結果に表示されているとおり、学生からの反応もよく目標と到達の程度はまる程度達成できたと判断できる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についても、納得のいく結果を得ることができたと判定できる。なぜなら、アンケート結果が全て4.0以上を記録し、最高は4.88、最低でも4.27以上を上回っているからである。自由記述でも、学生たちから好意的な回答を得、肯定的かつ建設的な評価を得ていることから、自分としてもそれなりに評価して良いと考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、2022年度はさらにメリハリのある講義展開をおこない、視聴覚教材と話術を組み合わせた、知的パフォーマンスをさらに深化し進化させたいと考えている。そのためにも、スペイン文学と文化に関するさらなる研究を続け、研鑽を積み2022年度の講義に備える所存である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VII[FF]2
授業コード 11B07-004
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 27
回答数 5
回答率 18.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

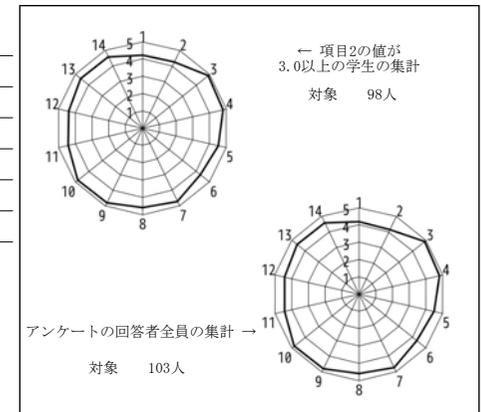


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① フランス語VIIでは、当初予定されていた文法項目および会話文等のテキストに関する解説をすべて無事に終えることができました。正直に言えば、少し駆け足のところもありましたが、教えられる構文や文法が複雑なものになっていったにもかかわらず、毎回の講義で多くの学生が持続的かつ意欲的に取り組み、優れた理解を示してくれました。この結果を踏まえれば、当初設定していた目標は十分に達成されたと言えるように思います。
- ② 可能な限り、文法の説明をシンプルかつ体系的に教えることができるように日々努力することを心がけており、その点が一部の学生からの反応に見られることを嬉しく思います。
- ③ 単に学生の反応というだけでなく、テストの結果にも反映される学生の学習に対する動機づけや、それを持続させる力にも関わることに努めたいと思います。1回1回の講義で試行錯誤をつづけながら、また同僚の先輩の諸先生方とも成功例や失敗例を共有しながら、より多くの学生に内容理解を促すことができるように励みたいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの歴史
授業コード 33A07-001
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 197
回答数 103
回答率 52.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

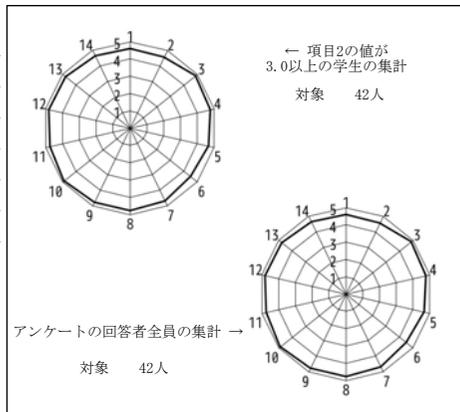


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義はフランス学科の学科科目で、外国語学部の他学科に対する学部共通科目でもある。登録者は定員一杯の約200名で、授業は対面形式によって実施した。講義では古代から現代に至るフランスの歴史を通時的にたどり、関連資料や歴史理論について紹介した。毎回、授業プランならびに関連資料を載せたプリントをpdfファイルで配付し、パワーポイント資料も併せて使用した。毎回授業後に課題をweb上に提出させ、授業参加度として評価した。①目標と到達の程度については、毎回の課題の内容から判断すると、フランスの歴史に関する基礎知識を習得するという目標はある程度達成できたように思われる。②総合的な自己点検・評価については、設問3~14の平均は4.62であり、全体平均4.40を上回った。個別の質問についても、すべての項目で平均以上の数値となっており、履修生にはおおむね好評であったことがうかがわれる。自由記述欄においては、視聴覚資料を用いたこと、授業中に課題を行う時間を取ったことなどに関する評価が高かった。③今後の抱負・方針については、さらに関連資料を充実させること、新たな視聴覚資料を開拓することを課題としてこころがけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの社会
 授業コード 33A09-001
 教員名 小林 純子
 教員コード 102488
 登録人数 84
 回答数 42
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



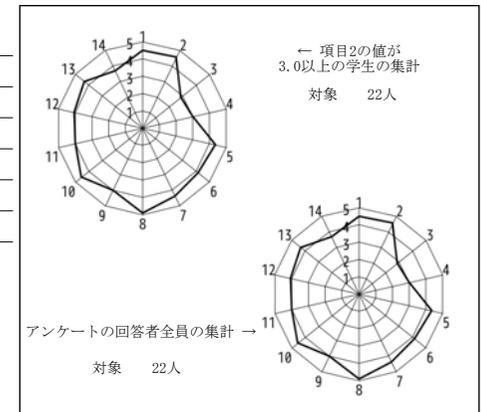
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はフランス学科の主に1年生を対象とした学科科目で、フランス社会を事例に現代社会におけるさまざまな課題を他国との比較を通じて考えることを目的とし、フランス社会の特徴を把握するとともに諸課題の関係について理解することを到達の目標に設定している。今年度は他学部他学科履修生も多く登録者数は80名程度であった。

数値データや自由記述回答から、講義資料や動画などの説明のわかりやすさ、ディスカッションや質問への対応が評価されており、受講生が自ら考える力や新しい知識の獲得を実感できる内容を提供できたことが分かった。また学科の学年や専攻に関わらず学生の関心を高めることができ、小レポートが受講生の理解の深まりに貢献していることが分かった。いっぽうで、前提知識を必要とするワードや英語に戸惑う受講生のために更なる説明や工夫を行う必要があることがわかった。今後は到達目標に関連した課題に対する授業のレリバンスをさらに高められるようにつとめたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの国際関係<国際科目群>
 授業コード 33A10-901
 教員名 COURRON, David
 教員コード 019026
 登録人数 24
 回答数 22
 回答率 91.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to provide a survey of EU member-states constitutional issues, with an emphasis on matters such as drafting process of constitutions, emergency regimes, human rights protection, freedom of religion and judicial review. It also aimed at examining some key themes and challenges for constitutionalism while forging student's English presentation skills.

2. Degree of achievement of initial course objectives

This quarter, even if assignment may have seemed somehow heavy, students committed to meet these challenges through oral group presentations. They were trained to apply key concepts in comparative constitutional law to specific countries, became acquainted with historical aspects and recent political evolutions in the EU and were given the opportunity to think critically about international event involving EU countries.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future bringing in strategies to create better debate conditions and extra materials on my homepage.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIIB3
授業コード	33A16-003
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is a continuation of the Quarter 1 and 3 Courses for Communication in French in the 2nd year, using the same course book. The objectives of the course and the pace provided for in the program were well respected, by involving the students through exercises and personal research (vocabulary, images, opinions), both during class and in homework to be prepared. By e-mail from WebClass, individual corrections to dictations enabled students to identify their main errors in order to correct them. To complete and update the subjects of French and Francophone society which were presented in the class book, websites were proposed and visited together. Students could then consult them on their own. Phonetics and pronunciation have been specially worked on. The students had to prepare the reading of the texts of the book, the research of the vocabulary and the words of the same family. To further improve this course in the future, students should be offered more material to listen to. It seems that the students are not used to it enough and that they base their learning more heavily on the written language. Students should also be better guided to carry out research on the Internet in French on their own.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義A
授業コード	33C12-001
教員名	小倉 康寛
教員コード	104530
登録人数	9
回答数	3
回答率	33.3%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

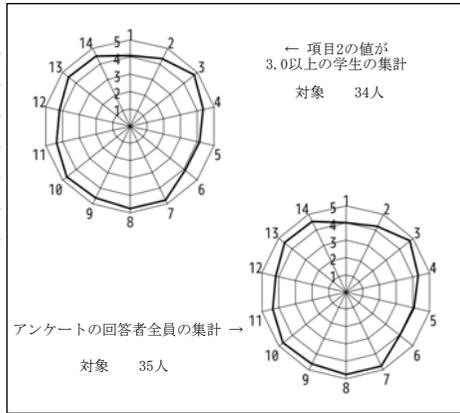
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①各学生3回の添削を通じ、「自分の考えをまとめる最適な用語を探し、900字程度で論理的に意見を記述すること」は大いに達成された。また「自らの関心を掘り下げて、身近な具体例や資料を探し、報告すること」についても、授業内のディスカッションとレポートで達成された。
- ②当初、学生らは当該授業に関心は高くはなかったようである。実際、友人に誘われて登場した学生が多かった。準備していた原稿やハンドアウトは印刷配布したが、しばしばこれは情報提供資料と位置づけ、学生の話聞くことに時間を多く取った。主体性を育てるという点で良かったと思う。授業のテーマに重ね、就職活動に重ね合わせた訓練もした。例えば「今論文の構成を学びましたね。これは就活の志望動機に応用できます。即興でやってみましょう」などである。一人一人について、興味関心などを踏み込んで話してもらい、(学生同士で傷つけあったり、お互いが嘲ったりすることもなく)建設的な形で議論できた。学生らの関心を揺さぶった実感はある。
- ③学生らがどういうテーマに関心を持つのか、関心がなかったとしても、どのような運営の仕方をすれば関心をひくことができるのか——良い感触を持つことができた。文学を扱う授業の人気は低迷していると感じ、そのことに危機意識も持っているが、ブレイクスルーになる手がかりもつかんだ。授業を任せてくれた先生方にお礼申し上げる。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽A1
授業コード	12A07-001
教員名	畑野 小百合
教員コード	104422
登録人数	53
回答数	35
回答率	66.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から現在に至るまでの西洋音楽史を俯瞰することを目的としていました。時間の制約上「西洋音楽史」として語られるべきことの全てを扱うことは到底できませんでしたが、それぞれの時代の音楽に耳を傾け、その性質を社会の状況と結びつけて考えるという開講当初に設定していた目的は、概ね達成することができました。

アンケートの数値及び自由記述から、授業内容に対する満足度が高かったことが感じられ、嬉しく思っています。急ぎ足の通史とすべきか、特定の作曲家や時代に的を絞ってもっとじっくりと取り組むべきであるのか、いずれもメリットとデメリットがあるとは思いますが、受講生の専門や関心が多様である現状において、幅広い時代と地域の音楽文化を対象としたことは、それなりに意味があったのではないかと思います。

今後の改善点として、より相応しい部屋での実施を検討したいと思います。今回のM1教室では、プロジェクターが不調なことがあったり、前方の映像を見やすくするために教室全体の電気を消す必要があったり、最大の音量にしても低音が十分に聞こえないことがあったりと、いろいろな不都合がありました。音楽を聴いて考える体験をより充実したものとするため、工夫をしていきます。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語科指導法D
授業コード	15B72-001
教員名	太田 達也
教員コード	101967
登録人数	3
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、「科学知と経験知、理論と実践の両方を見据えつつ、独力でドイツ語授業を立案・実施・反省できる自律的な能力を身につけている」「外国語教育の実践者として必要な関連諸科学（言語習得論、学習論等）について深い知識を持っている」「科学知を授業という実践の場において適切に活用しつつ効果的な授業を行う力、および発展的な自己改善力、省察能力を身につけている」の3点を目標に掲げていた。いずれの点においても、協働学習による授業作りとその発表および議論の時間を多く設けることで、学びが深まり、当初の目標は概ね達成できたと考えている。学生はみな積極的に課題に取り組み、熱心な態度で授業に参加していた。改善点としては、実践面に重きを置いたために、理論面でのインプットが少なめになってしまったため、今後もう少しバランスよく、しかし過度にならない程度に、言語習得論や学習論などに関する理論的な知識を扱う部分を導入していきたい。また、授業という可変的な文脈においてそのつど適切な教授行動ができるような自律的・実践的な能力を育成するという方針のもと、リフレクション重視の方向で今後も進めていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級ドイツ語III2
授業コード 34A12-002
教員名 RIESSLAND, Andreas
教員コード 101252
登録人数 17
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

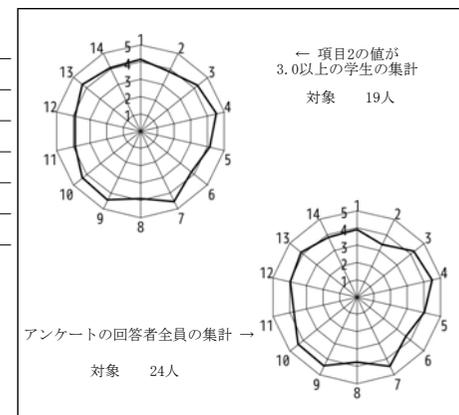
As I did not receive any student evaluation for this course, the following comments are based exclusively on my own personal observations during class and on impressions I gained when talking to class members.

All in all, we experienced the same handicaps in the teaching situation that we had encountered in the preceding semester: The corona-induced measures such as wearing masks, keeping distance and avoiding raised voices made the implementation of a conversation based curriculum very difficult. What is more, the requirement for the instructor to stick to the front area of the room behind the desk shield added a further handicap to an interaction based teaching approach. Therefore, the given situation enforced a classroom environment that was centered very much on instruction by the teacher, and consequently a markedly more passive student attitude towards learning. Zoom-based lessons experienced similar limitations to teaching, mainly due to the inability to supervise more than one breakout room student group at any given time.

Given the many disadvantages of our present classroom situation, it is admirable how our teaching staff did their utmost to keep up the students' spirits and their motivation. We can only hope that this crisis will end soon and allow us to return to a constructive classroom environment without crisis-induced limitations.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ史
授業コード 34A15-001
教員名 齋藤 敬之
教員コード 104487
登録人数 36
回答数 24
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

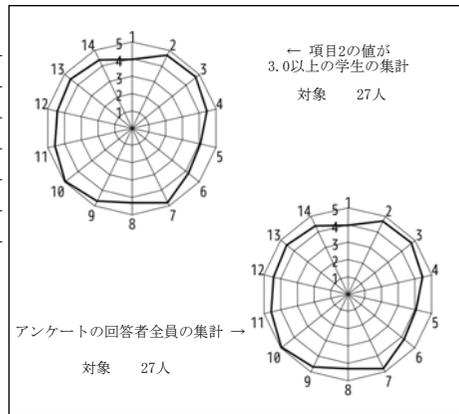
本授業では「ドイツ史をはじめヨーロッパ史の知識をさらに深めること」を目標に掲げていたが、高校で世界史を履修していないなどの事情からドイツ史に関する知識が豊富でない履修者も少なからずおり、教員側が想定した目標設定との間に隔たりがあった。この点が、授業内容や学習意欲に関する設問項目（設問1・設問2・設問11）や到達目標に関する設問項目（設問6）の評価が伸びなかった一因と考えられる。今後に向けた改善点として、履修者の予備知識を想定してシラバスの到達目標や授業計画を作成すること、予備知識や授業内容を再確認できるよう授業進度を調整することを考えている。

毎回の授業では、WebClassを用いて授業内容に関するリアクションペーパーを課した。その回答内容を次回の授業時にスライドとレジュメを通じて直接履修者全体に共有することで、履修者同士の意見の比較に役立たせるように試みた。これが設問4・設問7・設問9、そして自由記述欄での評価につながったと思われる。講義科目の中でも双方向性を確保するこのような試みは、上記の改善点のためにも今後も積極的に活用する。

授業運営について、設備に関する設問項目（設問8）で評価が伸びなかった。その一因は、マイクによるハウリングが生じたために（その都度断りを入れてはいたものの）マイクを用いずに講義を進めたことにあると思われる。必要に応じて教務課に問い合わせたりするなどの対策をこまめに講じることが今後の改善点である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献講読 (ドイツ語圏の社会)
授業コード 34A24-001
教員名 中屋 宏隆
教員コード 102885
登録人数 28
回答数 27
回答率 96.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



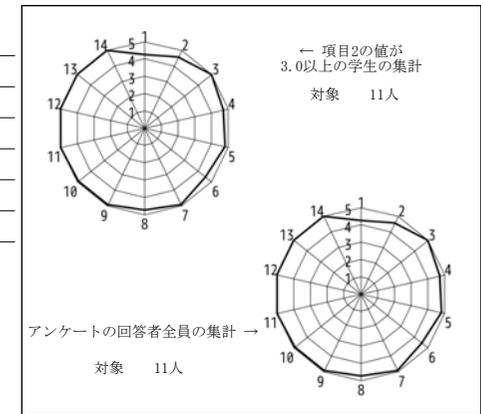
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) (2) The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved.
The goal of this course was to carefully read specialized sentences and to improve reading comprehension in German. Certainly, students will be able to read German to some extent in the third year, but on the other hand, since they can read to some extent, polite reading comprehension tends to be skipped. I tried to reset that attitude once and create a habit of practicing polite reading comprehension again. The following are the results of the questionnaire items related to the above. Survey item 9: 4.67, item 11: 4.59, item 13: 4.56. So it can be said that the goal has been achieved to some extent.

(3) Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take.
The items with relatively low numbers were "Did you understand the goals of this lesson?" and "Do you think you are getting stronger toward the goals of this lesson?" The former was 4.07 and the latter was 4.19. For the next quarter, I would like to convey the goal to be achieved a little more clearly and devise ways to raise the degree of achievement of the goal.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習A
授業コード 34D02-001
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 22
回答数 11
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course took place for the first time. There was never such a class in the German Department. I had to think about the contents of this course from scratch. I decided to let the students produce videos for later uploading onto YouTube. Creating material for releasing it to the public resulted in tremendous energy and motivation. The results can be seen on YouTube by searching for "Japanische Kultur für deutsche Studenten".
In the reports, as well as in this evaluation, the students' voices were overwhelmingly positive. They pointed out that they learned not only the German language but also how to behave in front of a camera, write a script, edit a video, and some more skills.
It isn't easy to improve this course, but, as always, I am striving for improvement and will consider how to make it better next year.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II語法I
授業コード	35A08-001
教員名	鈴木 史己
教員コード	103651
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

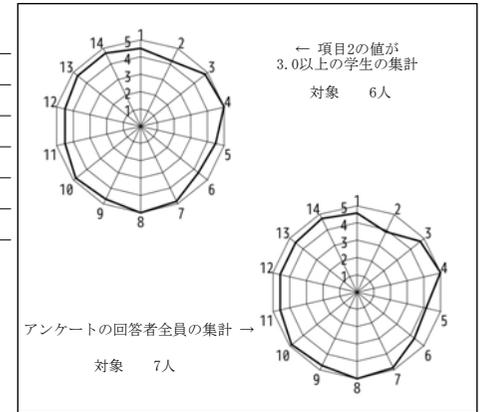
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、中級中国語 I 語法で習得した文法事項を応用し、さらに様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習することである。教科書と補助教材に沿って文法事項を確認し、応用力を養うために短い作文課題を課した。1文レベルでの表現力は十分に身につけているように思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データはおおむね高い評価が得られている一方で、反省点として自身の取り組みに対する自己評価が低い受講生がいることが挙げられる。全体に授業内容がスムーズに消化できたため、振り返りにもう少し時間をかければよりよい学習の機会を提供することができたかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
振り返りを有効利用すること、受講生が自ら考え、発言する機会をより多く設けるよう工夫することにとりくんでいきたい。また、次年度以降の中国語学習への橋渡しとして、補助教材・課題のあり方も改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II読解I
授業コード	35A10-001
教員名	中 裕史
教員コード	017830
登録人数	7
回答数	7
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

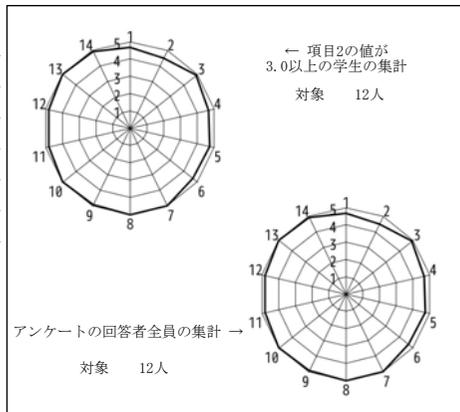


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、中国人の生活習慣や思考方法を内容とする、構造の比較的複雑な文章を材料として、読解および音読の練習をするとともに、中国に関する知識の拡充をもはかることを目的として、中国語検定2級程度に対応できる読解力を身につけていること、および2000語程度の単語を使いこなせることを到達目標として設定した。今年度は例年より登録者が少なく、またコロナの影響もあってか、各回の授業において欠席者が多かった。到達目標に向けて力がついたか否かを問う設問6の平均値が例年より低めに出たのは、こうしたことが原因の一つであると思われる。ただ、ほとんど欠席をしなかった受講生は上記の到達目標を達成しているという手ごたえを、授業内の音読や日本語訳文、および期末試験の出来ばえから感じ取れている。自由記述に回答したのはおそらく出席回数が多い受講生であろうと思われるが、こうした自由記述の回答から読み取れる受講生の反応を踏まえると、ただ読んで訳すだけでなく、文章のテーマについて解説を適宜おこなったこと、映像資料や音声資料の鑑賞を交えて授業を進めたこと、および発問の方法を活用して受講生の能動的な授業参加を促したことも効果があったと思われるので、次回以降も内容に新味を加えながら、こうした方法を引き続き活用していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国の現代事情1
授業コード 35B04-001
教員名 江口 伸吾
教員コード 104423
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

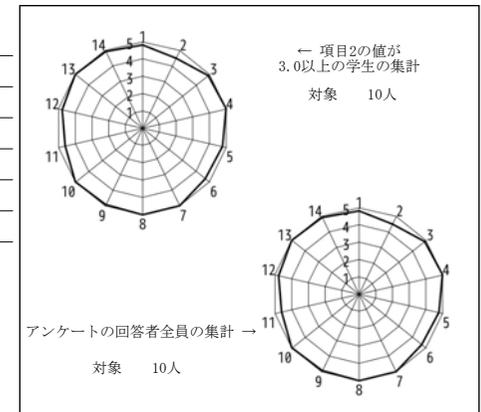
(1) 本授業は、①現代中国を知るための中国語の語彙を増やし、読解力を高める、②現代中国の社会実態を理解し、批判的に考察する力を高めることを到達目標として掲げている。本授業を通して、開講当初の目標はほぼ達成できたのではないかと判断している。

(2) 数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくにテキストの輪読に加えて、中国語・日本語の新聞資料を参考資料として配布したことにより、現代中国の諸動向に関する中国語の語彙力や読解力を高める機会を提供したとともに、議論を通じて現代中国を多角的に考察したことにより、受講生の現代中国への関心を深めることができた。具体的には、「現在の中国についての多様な記事を通して中国語を学んだことで、簡体字の読解力が高まった」「教科書で扱った内容に即した新聞記事が配られたことで、知識がさらに深まった」といった意見が寄せられた。

(3) 今後、学生一人一人の中国語、現代中国の諸動向に関する関心を高められるよう、引き続き、現代中国の多様な変化に関する新聞記事を紹介するとともに、一つ一つの事実から受講生の現代中国への理解を深められるよう工夫してまいりたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語時事B
授業コード 35C09-001
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 10
回答数 10
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は「時事」として、市販のテキストを利用せず、随時に中国のネットサイトから新しい記事を取って授業で使っていたので、適切なものを選ぶには大変苦労しましたが、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(2) (11)、すなわち授業の予習と復習を含め、主体的に授業に参加すること、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すという点では、評価が足りないものであります。これについては、自分は一方的に講義を進め、受講生の勉強状況にはあまり気を配らなかったのではないかと思います。

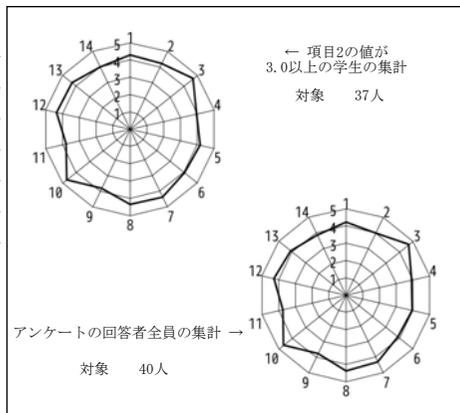
ほかには、学生の自由記述には褒める言葉ばかりですが、実はもっと努力すべきところが少なくないと考えています。

今回は在職中最後の授業評価ですので、この場を借りて、22年間拙い授業を受けてくださった受講生の皆さんに、心より謝意を述べさせていただきたいと思います。長い間、本当に有難うございました！

再見！

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A1
授業コード	12C08-001
教員名	林 尚志
教員コード	017897
登録人数	59
回答数	40
回答率	67.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、パン屋さんの売上げと利潤、原油価格の変動とその背景、コメの輸入自由化がもたらす影響など、身近な例を取り上げながら、「ミクロ経済学の基本的な考え方」に対する学生の理解を深めることを目標とした。そのために、講義中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、それら疑問への解答を探るとい形で講義を進めた。

この目標の達成度については、各項目について一応の評価が得られるとともに、1) レジユメが問いのような形式で、これを見つつ考えて理解を深めることができる、2) グラフを使ったり、具体例を挙げたりしてわかりやすかった、等のコメントがあり、まずまずの成果があった。その背景としては、あ) 授業中の受講者への問かけ等を通じて学生の理解度を確認し、次の授業で簡単な復習を行ったこと、イ) 理論的な説明と身近な具体例との対応に心がけたこと、等が挙げられる。

今後の課題としては、設問(9)と関連し、「授業進度がちょうどよい」、「とても聞きやすいし、わかりやすい」等のコメントがある一方、「板書レジメの書く量が多い」、「板書が大変で、授業のスピードが速い」等のコメントも見られたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選していきたい。また、設問(11)に関し、「原油価格と世界情勢」、「TPP交渉の進展」等を紹介したが、「関連文献や資料紹介」についても工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B1
授業コード	12C09-001
教員名	岸 智子
教員コード	100346
登録人数	13
回答数	3
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

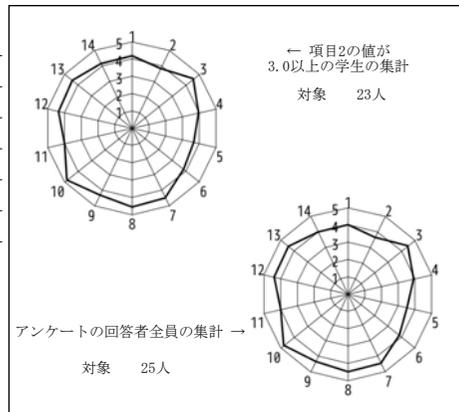
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

共通科目の「経済学B」は経済学部生も他学部生も受講しているため、教材の選定やレベルの設定が難しく、何度担当しても自分が納得できるような授業になりません。経済学には数学的な表現がついてまわり、それが他学部の学生には障壁のようになるため、数学的な表現を避け、平易な説明を心がけていますが、それによって経済学部生にとっては退屈な内容になってしまいます。何か面白いテーマ、たとえば、「多くの人は～～と思っているが真実はそれと異なる」経済現象などを交えたほうが良いのかもしれませんが。今回、設問13、設問14に評点1をつけた履修者がいたことを重く受け止めています。どういう点が不満だったのか知りたいと思いますが、この調査ではわかりません。この授業では毎回、グループで練習問題を解いてもらい、最後に正解を教えていましたが、「模範解答を示してもらいたかった」という記述があり、次回は最後に模範解答を示したいと思っています。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プライバシーと倫理
授業コード	13C03-001
教員名	阪本 俊生
教員コード	017020
登録人数	51
回答数	25
回答率	49.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

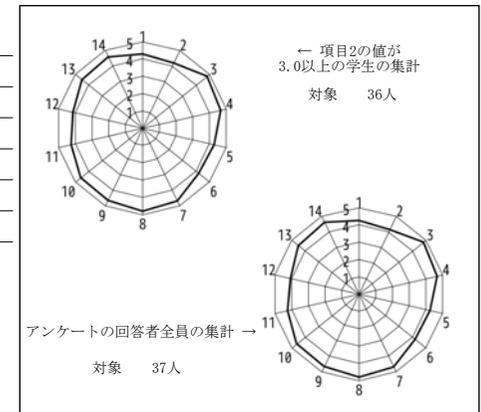
今年度は、昨年度に作成したレジュメをかなり改良して授業に臨んだ。結果は、全体の満足度に関しては何とか4に届いた程度であった。今回からは、ミニレポートを数回課し、次回に結果コメントをおこなうなどして、学生の積極的な学習を引き出すように努力した。その結果、設問11がはじめて4に到達した。これまでは4未満であった。また、自由回答にもレジュメの分かりやすさや理解しやすさの指摘があった。

項目では、この授業の到達目標が理解できたかという項目が低いのが目立つ。これはプライバシーというテーマの性格上、本講義のような社会理論的、あるいは人間学的な観点からのプライバシー論がなかなかイメージできなかったからではないかと思われる。一般的でよくありがちなプライバシーの話の期待する学生も多かったのではないか。そうした一般的话题も盛り込みつつ、わかりやすくしたつもりではあったが、本講義の趣旨そのものの理解が難しかったようだ。ただ、以前はここでの話題に強い関心や興味を持つ学生が多かった印象だが、いまは非常に実利的な話題に関心をもつ学生が多くなったのを実感している。それはレポートにも現れている。ただし、講義中はとくに注意しなかったが私語をする学生はまったくおらず、それは設問10の結果となっている。その他、授業の環境としてはよかったようだ。あと設問13も4.4となっているのがよかった。

問題点として指摘された、レジュメの番号振りの曖昧さ、また1回の授業で終えられなかった回があったことなど、今後改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相4
授業コード	13C06-004
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	76
回答数	37
回答率	48.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

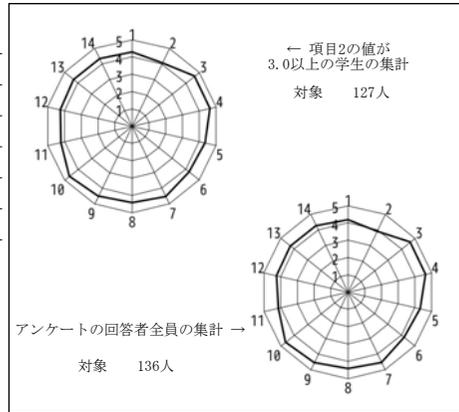
本科目では、社会福祉形成史を、社会保険・ヴォランティア活動・ジェンダー等のテーマごとに議論し、最終レポートでは、授業内容を手掛かりに、今後の日本における社会福祉のあるべき姿を論じるという課題を課した。そして、多くの受講生は、授業内容を十分に理解し、さらに独自の調査を加味してレポートを作成しており、シラバスに記載した目標は一定程度達成できたものと考えられる。また、学生からの評価に関しても、大きな問題は見られなかった。

ただし、理解を深めるために、毎回、授業時間内に実施した確認テストについて、成績評価の対象外としたこともあり、真剣に取り組んでいた受講生は全体の2~3割程度に留まった。自身では確認テストに取り組まず、解説のみをメモするといった姿勢の受講生が多く、「成績評価の有無に関わらず確認テストに取り組むこと」の意義を十分に伝えられなかったことは、今後の課題となる。

なお、社会福祉形成史をめぐる議論を、現代社会を論じる上で活用するという点に関して、比較的優れた最終レポートであっても、若干のぎこちなさが見られた。よって、今後の授業では、歴史的な背景と現代社会のつながりを、より明確に理解できるよう、授業内容・課題内容を改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代経済入門
授業コード 40D01-001
教員名 都築 栄司
教員コード 103265
登録人数 260
回答数 136
回答率 52.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

ミクロ経済学は完全競争市場から市場の失敗まで、マクロ経済学は経済指標の解説と財政・金融政策について解説した。

入門科目なので、分かりやすさを重視し、図表を多用するなどしてスライドを作成・解説した。

目標はミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を理解してもらうことであったが、それは概ね達成されたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

講義資料を毎回、事前にWebClassにアップロードし、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるよう配慮した。

ほぼ毎回、理解度の確認のための練習問題に取り組んでもらった。

講義資料の構成や練習問題はいずれも好評ようである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

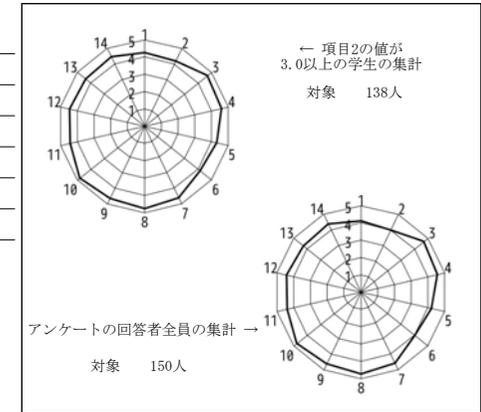
時間の制約上、実習（練習問題を除く）のようなことは行わなかった。

身につけた知識を身の回りの問題に応用できる力を養うことも重要である。

そうした時間も作れるよう工夫したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済入門
授業コード 40D06-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 301
回答数 150
回答率 49.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科1年次生以上向けの選択科目であり、現在の国際経済を取り巻く状況、またその基本的な仕組みを学習するために設定された入門科目である。今回の講義は、学生同志の教室におけるソーシャル・ディスタンスのような状況も併せて、進度・聞こえやすさ・スライドの見易さ等に十分に注意しながら進めたつもりである。数値データで見ると、全設問の平均値4.42（設問3ー設問14の平均値4.48）ということで、受講生が300名程度の講義ではあったが、充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

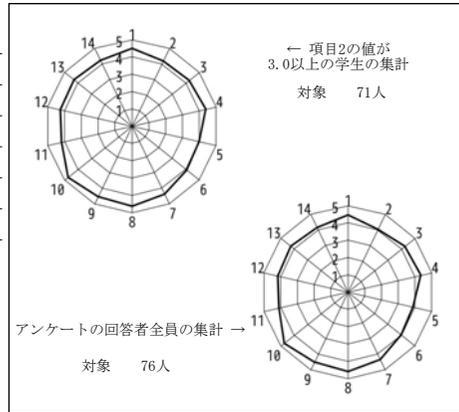
データとしては、回収率が全受講生中約50%と、ここ数年で見て平均的な値であったことが挙げられる。ただし、依然として回収率が低いことは確かであるので、この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また、アンケート結果としては、全項目で学部平均値を上回りはしたが、設問2のみが4.00を下回る結果となった。課題は毎回出していたのだが、それ以外の工夫も必要かと思っている。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

自由記述欄を見ると、スライドが判り易かった、具体的な事例説明により理解が進んだという反応が多く、今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり、非常に安堵している。今後、さらに受講生の理解が進むよう、更なる修正を試みたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ゲーム理論A
授業コード	40D07-001
教員名	上田 薫
教員コード	016832
登録人数	139
回答数	76
回答率	54.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

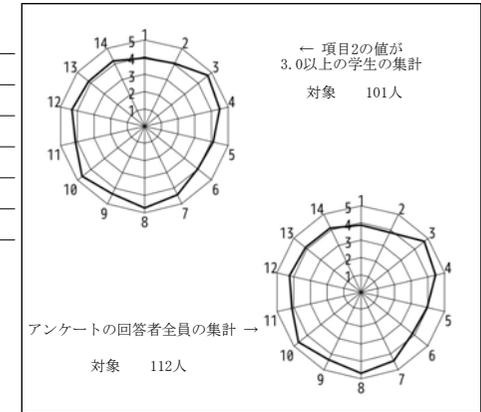
この授業はゲーム理論の基本的な考え方の理解を学修目標とし、特にゲーム理論の基本にあるゼロ和ゲームに関する理論を重点的に説明することを内容としている。例として石取りゲームのバリエーションを採り上げ、学生に実際にプレイさせるという試みも行なった。扱う事例を増やしたこと、石取りゲームの必勝法に関する一般的な議論まで説明を行ったことなどが、前回授業と比べての改善点である。

設問11から設問14までの平均値がいずれも4.1を上回っており、学生にとって概ね満足のいく授業となっていたようである。特に設問13の平均値4.24は、新しい知識を得られたと感じるものが多かったことを示しており、教師としても嬉しい。前々回平均値が低かった設問11は、前回4.07に上昇し、今回は4.12とさらに上昇した。これにはインターネットによって講義ノート配布を行うようになったことも影響しているだろう。

設問3、7、8、9の平均値のいずれも4.2を超えていることから、プレゼンテーションに関しても問題は無いようである。平均値が最低だったのは相変わらず設問5であり、3.89という数字だった。これについては、イントロダクションでの説明を一層丁寧なものにすることを検討してみたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計論B
授業コード	40D14-001
教員名	宮崎 浩伸
教員コード	101892
登録人数	292
回答数	112
回答率	38.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

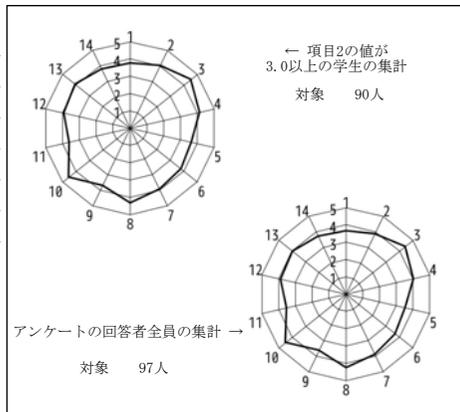
開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思うが、今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.31、設問1～14の平均値が4.24であり、前回のこの科目での結果と比べると、少しだけ改善したようである。

しかし、個々の授業評価項目では、設問5,6が低い値となっており、何らかの対策が必要である。前回の授業評価でもこの2点が低い値であったため、学生の学習意欲を引き出すため、新聞記事を活用して、講義内容の理解が深まったことを実感してもらえるようにしたが、改善できなかったようである。ここで反省点としては、新聞記事をあれもこれも多くとりあげたため、時間が足りなかったことである。今後はとりあげる記事を絞ったうえで、1つ1つをより丁寧に解説するように工夫をしていきたい。

自由記述欄では、「講義資料だけでなく、新聞記事も使って内容を学ぶことができた」、「レジュメがとても分かりやすかったです」、「程よいペースでの講義だったため無理することなく内容を理解することが出来た」、「わかりやすく丁寧に説明して下さっていた」等の肯定的な意見を多くもらったので、引き続き、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学特論
授業コード	40D21-001
教員名	赤星 立
教員コード	103866
登録人数	149
回答数	97
回答率	65.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

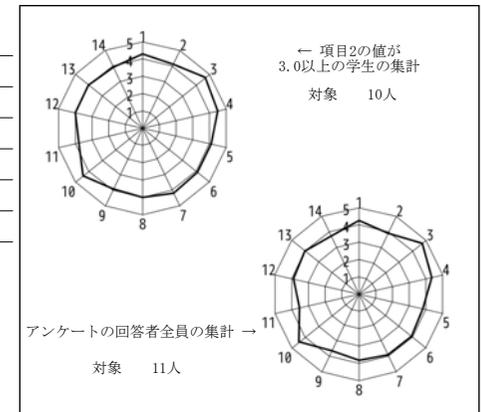


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義では学生に4つの目標を課しシラバスに明記した。授業の初回にそれらの目標を確認し、各単元の終わりにも再確認した。試験では直接的にその理解度を問うた。演習問題を作成し、そこに至るまでの段階も踏ませた。目標は十分に達成されたといえる。
- ②履修者数約150名のうち100名近い学生が回答してくれている。久々の対面講義であったが、オンラインのときよりアンケート回答率が高くなった。
評価そのものは悪くはないが2年前に同科目を担当したときよりも下がっている。教室が寒いことや板書の字が薄いことがよく指摘されている。グラフの数値など、教室の黒板のサイズ上やむを得ず字が小さくなることはあった。しかし、その旨をたびたび説明し、前方に着席することを何度も促してきた。寒さ故に前に座りたくなかったというのはアンケートで初めて気付かされた。蛍光灯の反射で後方席から字が見えづらいことには中盤の講義回まで気付いていなかった。
- ③学生からの指摘には、授業スタイルや設備の都合上やむを得ない部分も多いが、学生とのコミュニケーションにより改善可能な点も残されている。平常時であれば授業後に学生に話しかけて様子を伺ったり、授業時間中に教室を巡回して板書や空調に問題がないか確認したりしている。しかし、昨今のコロナ禍では心理的抵抗のある学生も多いのではないかと思いきや今学期はそれを止めてしまっていた。次年度以降は（可能な範囲で）こうした取り組みを復活させようと思う。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別テーマ講義(政策)B
授業コード	40D43-001
教員名	丸山 雅章
教員コード	104492
登録人数	38
回答数	11
回答率	28.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

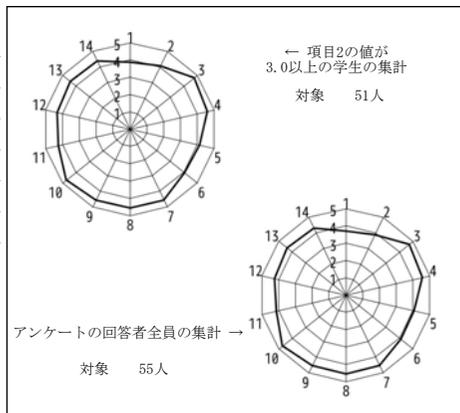


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講当初の目標（日本の財政政策、金融政策に関する基礎知識を習得し、背景・役割・課題について理解できるようになる）については、おおむね受講者において達成されているものと推量している。
- ② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
日本の財政政策、金融政策を中心とした経済政策の役割、方法、効果、課題について、できる限り最新のデータ・事実に即して具体的に説明するように努めた。個別の制度に関する説明が多いこともあり、単調な説明が続きがちで、全体のポイントがやや理解し難い面があったかもしれない。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後の授業では、経済政策の全体像や個々の政策相互間の関係についての説明を増やすとともに、授業の最後だけでなく、途中の区切りの良いタイミングで質問を受ける、理解を促す等の機会を設けるようにしたい。また、講義資料の作成に際しては、1枚のスライドにあまり多くの情報量を詰め込みすぎず、理解しやすい形を工夫するようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史A
授業コード	40D62-001
教員名	林 順子
教員コード	101007
登録人数	156
回答数	55
回答率	35.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

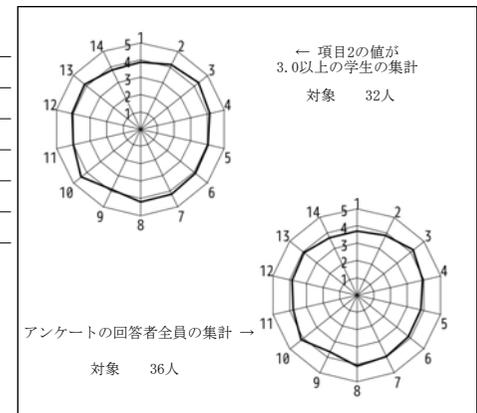
地域経済の歴史を知り現在の状況を理解するという当初目標は、試験成績をみるかぎり、ほぼ達成されていると考える。授業評価結果でも、理解の深まりを問う設問13の平均値は、大学平均値を上回っている。大学平均値を下回った項目は、設問1の、履修前における授業内容への印象と、設問2の主體的な参加、理解への努力であった。前者はともあれ、設問2については、講義中のこちらからの問いかけや講義後の習得度チェックでカバーしていたつもりではあるが、対応不足であったことがわかる。

習得度チェックおよびそこに設けた質問欄、そしてそれへの回答に関しては、自由記述欄で高い評価をいただいた。実のところ今回、資料の一部を挙げ忘れたり説明し忘れたりなどのミスを何回か犯してしまったが、その都度、何人かの学生から指摘をもらい助けられた。こうした学生のフォローが大変心強かったが、それに甘えることなく、今後は自身で注意を払っていく。

一方自由記述欄には①スライドの字が少し小さく後部座席では見えないのでは②説明のテンポが悪い③休憩時間が欲しい④マイクに息があたり聞き苦しい、との改善を求めるコメントがあった。①に関しては、教室の大きさが事前ではわからないため講義開始後に指摘があれば考えたい。わかりやすい講義であったと評価するコメントがある一方、②③のようなコメントもあり、両者のバランスと授業の進度状況を考慮しながら対処していきたい。④は講義中にも指摘を戴いた。ピンマイクの位置かボリュームの設定か、気をつけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済思想史B
授業コード	40D65-001
教員名	荒井 智行
教員コード	104493
登録人数	115
回答数	36
回答率	31.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

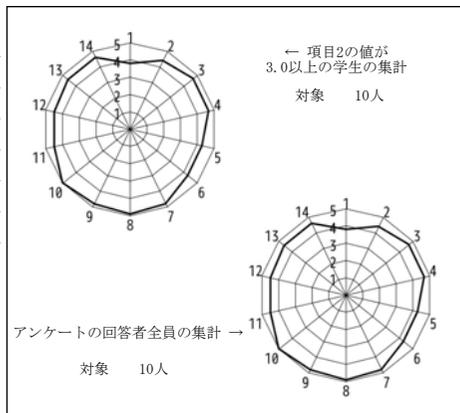


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①については概ね達成できたが、もう少し易くする必要性もあると考えた。
- ②については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用するなど、今後さらなる改善が必要である。授業では、学生の前向きな参加を促すため、学生にマイクを持たせて発言する機会を多く行ったが、項目11に反映されていなかった。この点はいずれの項目にも当てはまらなかったのかもしれない。今後は、オリジナル資料も作成するなど、工夫したい。
- ③については、アンケート項目にある質問や相談の機会を確保できるよう努めたい。受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。アンケートを行った受講生の数が少なかったのが残念であった。毎回、授業時間すべてを使って講義を行っていたが、そのなかで、予習、復習のための時間やアンケート項目の内容に見合うための授業の工夫を行うことも検討したい。また、他の先生方にも、授業の仕方についてお尋ねしながら、いっそうの授業準備に努めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済と人間の尊厳5
授業コード	10D04-005
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	15
回答数	10
回答率	66.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

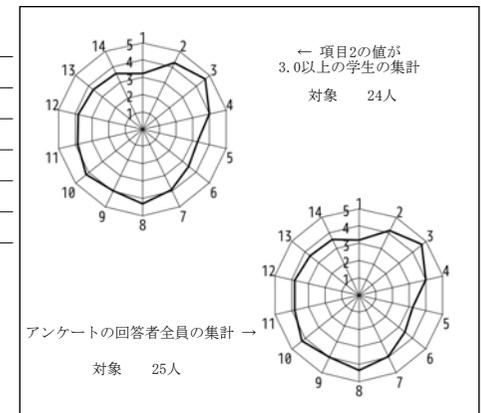


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 被験者保護政策の歴史と研究倫理の制度化をテーマに掲げ、人間の尊厳への理解を深めることを講義の目標とした。また、講義内容の基礎的理解に加え、受講者自身の意見や関心を表現することも目標に加えた。そのために、ほぼ毎回、記述式の課題を出し、また授業内でも意見交換の機会を設けた。受講状況はおおむね良好であり、期末レポートの内容から、当初の授業計画をほぼ達成できたと考えている。
- 講義内容が受講者の経験や関心からやや縁遠いためか、履修前の興味関心（設問1）は例年、低迷基調である。今年度も3.8点にとどまった。しかしながら設問全体を通じ、4.5点を超える評価を受けることができた。授業満足度（設問14）も4.6点だったことから、受講者は講義内容におおむね興味を持つことができたと考える。自由記述からも、具体的な事例や視聴覚資料を教材とする教授法が、受講者の理解促進にとり有効であったことがうかがわれる。
- 期末レポート未提出のため受講者2名を不合格（×評価）とした。受講者の意欲を喚起し、履修の可否を判断するために、初回授業で講義概要や評価方針をより詳しく説明したい。また、テレビや映画の一部など視聴覚教材を積極的に利用したことが肯定的な評価につながったと推測する。次年度に向けて教材研究や講義内容を深化させたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学III
授業コード	42B04-001
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	81
回答数	25
回答率	30.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

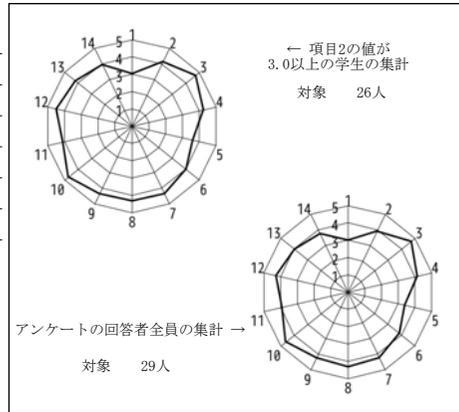


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 目標と到達の程度：1変数多項式で表される関数の定義・対応表・グラフ・微積分、指数・対数関数の定義・対応表・グラフ・微分、2変数多項式で表される関数定義・等高線・偏微分・勾配ベクトル・極値の分析、を主な目標とした。概ね、全項目を網羅した。
- 総合的な自己点検・評価：レーダーチャートによれば、授業内容に興味を持っていたか、到達目標を理解することができたか、到達目標に向けて力がついてきていると思うかの3項目で、3.5未満であった。一方、授業の前後を利用し、質問をする履修生はごく僅かであった。講義ノート、資料等を当該のサイトにUPし、予習や復習が可能であるようにした。授業では、PC内の動的講義ノートをディスプレイに表示し、復習のための演習問題、解答時間の割り振り、解答の解説、その回の講義内容提示、を繰り返した。また、CGを多用した。以下、履修生の声であった。
- プリントが詳しく書いてあった。資料がみづらい。演習時間が設けられていた。演習問題を解く時間が足りない。出席者が少ないなど。
- 小テスト2回分、期末テスト1回分を成績評価の材料とした。合計平均点は100点満点中、50点～60点の間であった。今回、登録変更するもの、試験欠席するものが多数、存在した。これは、これまでとはかなり異なる現象にあたる。今後の抱負・方針：各自が動的にアプローチできるCGサイトが構成できれば、面白く内容の理解が進む。ただ、技術的な問題が存在することも事実である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学II3
 授業コード 42B04-003
 教員名 池田 亮一
 教員コード 101880
 登録人数 78
 回答数 29
 回答率 37.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

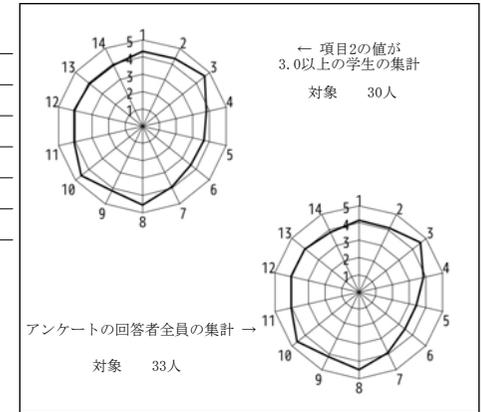


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標は(1)初等的な関数の導関数を計算したことがある。(2)導関数を使って関数の増減を解析したことがある。(3)初等的な関数の積分計算をしたことがある。(4)2変数関数の増減を解析したことがある。の4点であったが、今年は積分に関して参考資料として配るにとどめ、経営学部で主に用いる微分についてじっくり解説をした。授業に出てきた人数が少なかったため、わからないところを聞き質問をしてもらいながら授業を行うことで、それを評価してくれる学生もいたが、全体的な満足度的には余り高くなかったことが残念であった。そしてまた同時に興味深くもある。というのも、今年は異例なことが続いており、例年ほとんどいない履修中止者が20名ほど出たり、また例年せいぜい10名程度が未受験となるが、今年は倍の20名もいたり謎が多い学年である。教えている内容は例年よりやや狭く、かつ授業はより丁寧に行っているのに意欲的な学生が少ないのは、そもそも数学という授業が選択必修となっていて受講する気が起きない、あるいは卒業をするための単位を稼ぐためだけに授業を受けているがために、他の授業で単位を埋めた方が効率的と考えている学生が非常に多いということではないかと考えている。ただ、満足度が低いことを学生のせいにはしてはいけないので、もしこのような学生のスタンスが常態化するならば、今後どのようにすれば学生の満足度が上がるかを模索していく必要があると考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理III
 授業コード 42C04-001
 教員名 窪田 祐一
 教員コード 102901
 登録人数 130
 回答数 33
 回答率 25.4%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

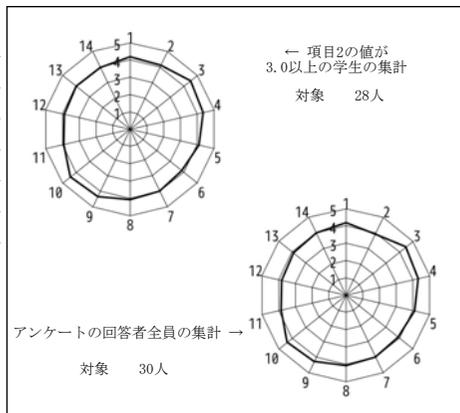


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
定期試験の結果も踏まえると、大体、6割ぐらいの学生は目標に到達しているものと思われる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今回の授業評価をみると、授業前の興味「4.15」が例年に比べて高いように感じる。学科平均は3.98である。会計原理Ⅱは、原則、会計原理Ⅰを履修した学生が受講するため、会計原理Ⅰにて会計に興味を抱かせることが上手くいったのかもしれない。
しかし、全体的評価が例年よりも低いように感じる。設問13(4.00)や設問14(3.82)は学科のそれよりも低い評価である。学生自身が力がついていると感じておらず、一部、満足していない学生がいるということであり、好ましくない結果である。自由記述をみても、一方的に話を聞いて、練習問題を解くという授業スタイルが、学生の満足度を下げているようであった。かつては、学生に発言を求めたり、学生同士でのディスカッションの時間を設けたり考えさせる時間をとっていたが、授業回数が減ったこと、またコロナ感染を防ぐため、大教室ではディスカッションを避けたことが評価に反映したものと考えられる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
声に出さなくとも、学生たちに考えさせる時間を確保することが必要であると反省している。教える内容を精査し、量を減らし、その時間を確保したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 流通論B
授業コード 42C22-001
教員名 湯本 祐司
教員コード 017533
登録人数 139
回答数 30
回答率 21.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

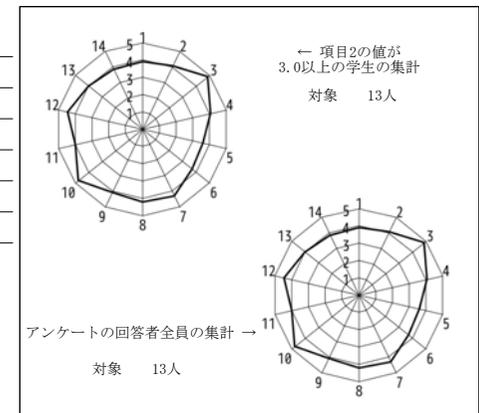


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は小売業者と卸売業者の行動の特徴および小売各業態の革新性とその変容を理解することを主な到達目標としている。経営学部の選択科目(コア科目)であり、履修者139名のほとんどは経営学部の2・3年次生である。昨年度より約40名減少しており、二年続けての減少である。宿題レポートおよび期末試験の解答をみるかぎり、およそ3/4の学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者139名のうち30名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均は4とも4.09で前回2年前の授業評価と比較して0.1ポイント低下している。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」、9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」、10「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされてきましたか」である。前回、改善点に挙げていた8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」は0.3ポイント改善されている(4.07)。しかし、「声が聞き取りにくい」という改善点のコメントが今年も2件あった。次年度の改善点として、引き続きマイクの使い方に注意して学生に聞き取りやすく話すことを心がけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際会計論B
授業コード 42C24-001
教員名 白木 俊彦
教員コード 101090
登録人数 22
回答数 13
回答率 59.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

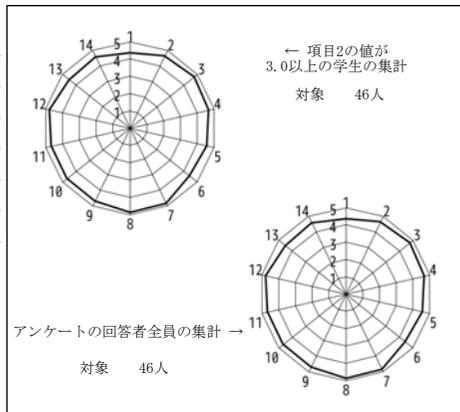


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた到達目標は、国際的に事業を展開する企業が直面する会計問題について理解を深めること、会計基準の国際的な統一化を目的とする国際財務報告基準について考察し、特に、財務報告基準の概念フレームワークについて理解することとした。少人数ではあるが、関心のある学生が受講しており、熱心に取り組んだ学生が多く、質問も多岐にわたり、大半の学生は国際会計問題に関する理解が深まった。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、他科目の授業評価の平均値に比べて低かったが、会計科目の最終レベルであることから、結果は良かったものとする。全体的な評価結果では、授業に対する講師の熱意や姿勢や授業の環境等については高い評価を得られた。しかし、問5、6、13および14の質問に関して低い評価であったことは、目標が十分には達成できなかった。自由記述では、実際のIFRS適用会社の財務諸表を提供したこと、質問に回答したことに対して高評価をいただいた。ハイレベルの学習をしている学生には参考になったものと思われるが、基礎的な知識に欠けた学生には難しかったと思われる。全体としての評価結果は良かったが更なる関心を持つ学生が増えるよう取り組まなければならない。
- ③ 今後の抱負、方針などについては、講義を、さらに分かりやすく解説し、概念フレームワークと個別取引の関連性を持つような資料作成に取り組みたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織心理学B
授業コード 42C26-001
教員名 中尾 陽子
教員コード 064188
登録人数 136
回答数 46
回答率 33.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



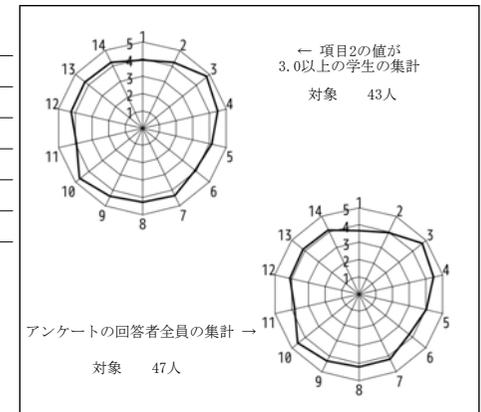
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、到達目標を「組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。評価結果を見ると、この到達目標に関する項目の点数が低い傾向にありました。シラバスと授業ガイダンスで示し、毎回の授業終了後に記述する学習ジャーナルのテーマも授業目標と関連づけているのですが、うまく理解されていないことを残念に思います。次回は、到達目標をより具体的な内容に変えて示すようにしたいと思います。

自由記述によるFBでは、グループワークを盛り込んだ内容を歓迎する声がある一方で、特に、公認心理師を目指す学生さん達より、内容が物足りなかったとの声もいただきました。このあたりの授業設計は、毎年本当に難しいと感じています。この科目の受講生は、経営学部と心理人間学科の学生さんが大半ですが、3年次生以上の受講が前提となっているため、心理学の前提知識が全く異なっています。この場合、どうしても初学者寄りの展開にせざるを得ない側面があり、特に、公認心理師という目標を持った方々には満足できない内容になってしまうのだろうと感じています。これまでの学修状況も学習意欲も様々な中でこの授業をしていくことは次年度も変わりがないと思われますので、まずは毎回の学習ジャーナルのテーマにキーワードを提示し、到達目標と試験対策ポイントの見える化に取り組んでみようと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営環境論B
授業コード 42E06-001
教員名 薫 祥哲
教員コード 018168
登録人数 76
回答数 47
回答率 61.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

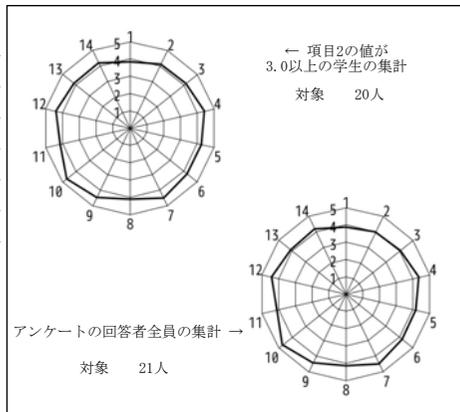
再生可能資源である漁業資源の最適利用や、資源リサイクルに関する課税・補助金政策がどのような影響を及ぼすのかについて、ミクロ経済分析アプローチに基づく講義を行った。また、米国における2大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。講義レジュメや関連資料をサーバにアップし、毎回、これら資料をスクリーンに映しながら14回の講義を行った。学期中に練習問題課題を2回出し、そのレポートが提出された直後に授業で解答を解説した。

今回は初めて白板への板書をやめ、ipadに取り込んだ講義資料に書き込みながら、スクリーンに画面を映し出して講義する形式を取った。自由記述欄へのコメントには、「説明が丁寧で分かりやすかった」「資料として新聞記事が提供されて、実例を把握することができた」「ipadのスクリーンが見やすかった」といった意見があり、ipad形式の講義がうまく機能したと言える。全体としての満足度を尋ねる設問14の平均値が4.09であり、今回の授業評価は概ね満足できる結果であったと思われる。

一方、「説明が早く、書き込みが追いつかないことがあった」「授業のスピードが速かった」といった自由記述意見もあったので、今後、これらの点に注意して授業を進めるようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論B
授業コード	42E12-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	25
回答数	21
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、ビジネスのグローバル化が進む中、アジア諸国における人的資源管理の国際比較学習である。履修者は、アジアにおける人的資源管理の基礎と実用的方法を学び、人的資源を活用するための必要な手法、戦略や視野を身に付け、日本の人的資源管理と比較研究を出来るようになる。授業は、テキスト・講義レジュメ・関連資料などを配布し、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

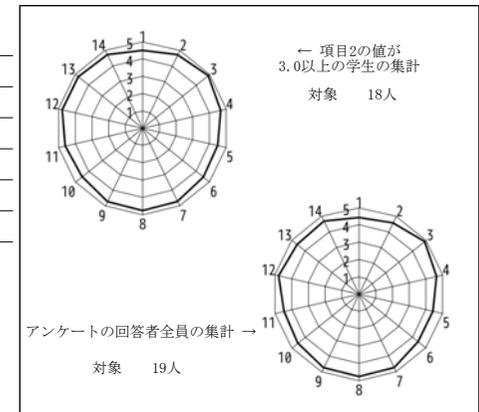
設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2021年度第4クォーター全科目と経営学部の42001-001～42H04-999番台科目群とを比較すると、ほぼ同じ評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.64、4.46、4.16、4.08、4.53 に対して、本科目の評価は、4.05、4.38、4.19、4.19、4.48となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.60、4.46、4.66、4.25、4.36 に対して、本科目は4.14、4.43、4.71、4.10、4.43となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.36、4.30 に対して、本科目は4.10、4.19となっている。昨年と比較すると全ての設問の平均値が上がり、評価がとて良くなっている。

また、設問15から17「自由記述」では、「情報がいっぱいもらった、面白かった、内容は全て1つの教科書に基づいたものだったのでわかりやすかった」、などがあった。設問17「授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）」では、コメントはありませんでした。

原因は理解できないですが、毎回数人の学生が遅れて授業に参加した。彼らに注意をかけました。本学期の経験を生かして、今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチB
授業コード	42E16-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	49
回答数	19
回答率	38.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

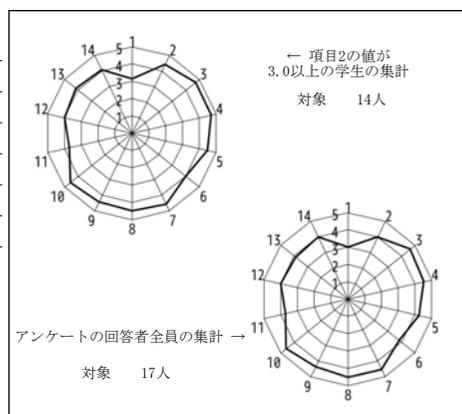
地域産業連関分析やシナリオ・プランニングを活用しながら、将来のビジネス展開の可能性を考えることができることを到達目標とした。この到達目標に対して、受講生の58%が「力がついた」、32%が「どちらかと言えば力がついた」と回答している。毎回、授業の後半には演習問題を行った。こうした演習を通して授業内容を具体的に理解することができたのではないかと考えている。

実際、設問2：主体的学習は平均4.58（学部平均4.16）、設問5：目標理解は平均4.42（学部平均4.00）、設問12：質問・相談は平均4.79（学部平均4.33）、設問13：知識・理解は平均4.58（学部平均4.18）となり、学部平均と比較しても高い値を示している。また、設問14：総合的な満足度についても、平均4.68（学部平均4.15）と比較的高い値を示している。

他方で、自由回答欄を見ると、「しゃべっている人に声かけしてほしい」、「教室が明るく、スライドが見えなかった」などの意見も見られた。教室がやや大きかったこともあり、学生と距離が離れていたことが原因であると考えられる。コロナ禍が終われば、もう少し学生に近い位置で授業を行いたいと考えている。また、スクリーン付近を暗くすると教壇も暗くなるため、オンラインでスライドが見られるようにハイブリッド方式で授業を行うことも検討してみたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳7
授業コード 10D04-007
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 80
回答数 17
回答率 21.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

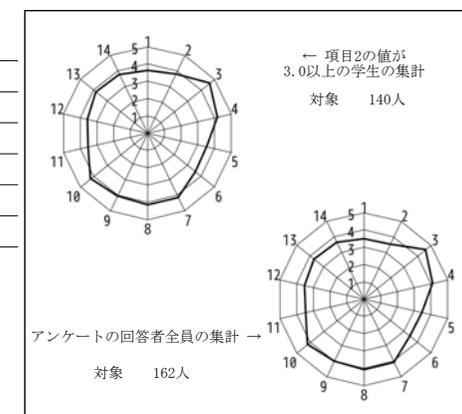


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The overall course has been carried out as plan and in general it can be said that at the end of the course, the goal was achieved. As can be seen from the reaction papers and final reports, the students began to realize and understand economics and politics as a part of their daily life, and that these two aspect of human life are very crucial for the fulfillment of human dignity.
- 2) I accept and concur with the assessment from the students. As with the students, I am satisfying with the topic, the contents and the method for delivering the material, which always trying to present the actual data and delivering them in ways that is easy to understand.
- 3) The volume of materials for some topics may be too much and need to be reduce in order to have a deeper analysis of a particular topic. Since the students made meaningful analysis in their reaction paper, there is a need to find any creative ways that can motivated students to be more dialogical where the students can express their thoughts directly in Q&A session during the class.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物権法
授業コード 44A18-001
教員名 副田 隆重
教員コード 045880
登録人数 359
回答数 162
回答率 45.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

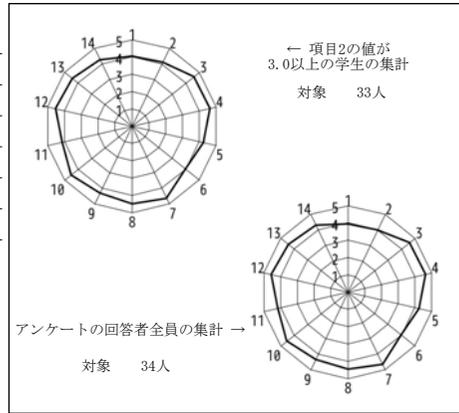


授業評価結果を踏まえた点検・評価

各項目にわたる全体的な改善、数値のアップをめざしたものの、項目3から14の平均が3.86にとどまった。せめて4点台への復帰をめざしたい。相対的に高い評価を得られた項目としては、項目3（開始時間順守）の4.60、同4（授業構成や進行速度の適切さ）の4.10、同7（教員の声・音声機器の具合）の4.06などがある。他方で、低い評価しか得られなかった点として、授業の到達目標を理解できたか、到達目標に向けて力がついてきていると感じることができたかに関わる項目5および同6があり、また、教員が学生の学習意欲を引き出し、自主的な学習を促す工夫や指導・情報提供があったかを問う項目11（3.46）や質問や相談の機会が十分であったかを問う項目12（3.53）が反省材料である。個別の意見として、講義の内容や説明、とくにレジメがわかりやすい、教科書もわかりやすい点が多く指摘され、今後とも、わかりやすい講義を心掛けたい。他方で、質問機会の確保をはじめ、改善を求める指摘として、説明にメリハリがないとか、オンライン機器に適宜に対応してほしいなどのコメントがあった。いずれも改善に向けて注力したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法B
授業コード 44B30-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 91
回答数 34
回答率 37.4%
休講回数 0 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

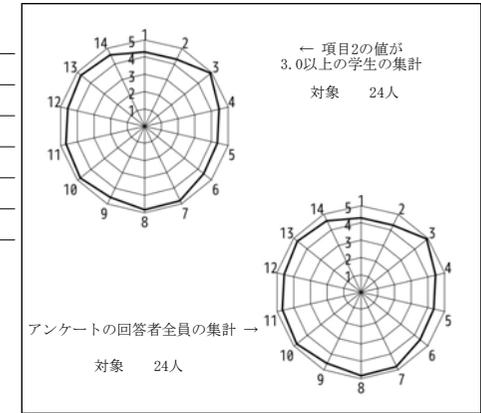
前回2021年度第2クォーターにおける「国際私法A」の評価で、項目1から14の平均が3.56、項目3から14の平均が3.59という驚くほど低い値が出ていた。今回は、前者が4.34、後者が4.41と例年並みのポイントに回復した。今回の授業は、すべて対面方式で行った。

両者の、この1ポイント近くの差は、何に由来するのであろうか。今回はオンライン授業であり、授業の実施形態が異なっている。これが最大の理由と思われるものの、他の教員の評価を見ても、オンライン授業と対面授業でそれほど差が生まれていない。自由記述欄においても、前回では「レジュメのどこを説明しているか、わからない」とか「レジュメの内容をもっと増やして欲しい」といった指摘がなされていた。これに対して、今回はそうした指摘は全くなく、理解が深まる等の評価が多かった。ちなみに、レジュメは同じものを使用している。

回答者数が、今回は104人だった。例年、回答数は30~40であり、この違いが原因なのかもしれない。とはいえ、前回と今回は、かなりの比率で受講者が重なっているはずである。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倒産法
授業コード 44C22-001
教員名 小原 将照
教員コード 102897
登録人数 42
回答数 24
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



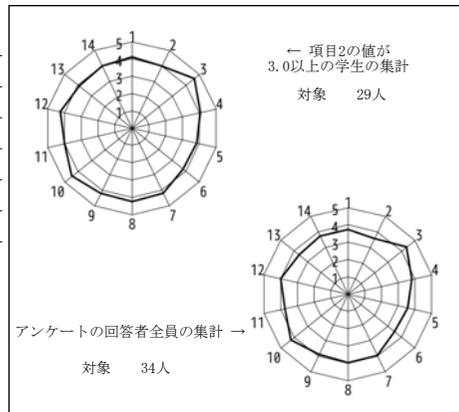
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年同様、学生から高い評価を受けられたことは、授業を担当しているものとして感謝しかない。特に、満足度が高い点は、担当教員として目標にしていることが達成できたと考えているので、学生の満足度を向上させるように努力をしたいと考える。また、ミニレポートや小テストを繰り返すことで、学生の学修度も高まったと思われる。このようなシステムは今後も継続していきたいと考える。

さて、例年のことであるが、板書の字についてである。少なくとも汚い字ではないが、見やすい字ではないのは自覚している。ただ、これをパワーポイントなどにすると別の問題が生じる。つまり、字を記入するスペースが少なく、情報過多になりやすい、という問題である。すでに様々な研究会等で、パワポ授業、オンライン授業の問題点としてあげられているこの情報過多については、むしろパワポ等を使用した結果、板書として残しておきたい内容をスライドとして映し続けられないことから生じる弊害ではないかと考える。そういったことを踏まえると、多少読みにくくとも板書スタイルの方がよいと考えている。ただ、板書が読みにくい学生に伝えたいのは、WBを観るのではなく、話を聞くのに集中してほしい点である。そこを疎かにしているの、書いている文字が分からなくなるとされる。受講生自身にも自省を求めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法（ガバナンス）
授業コード 44F05-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 139
回答数 34
回答率 24.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

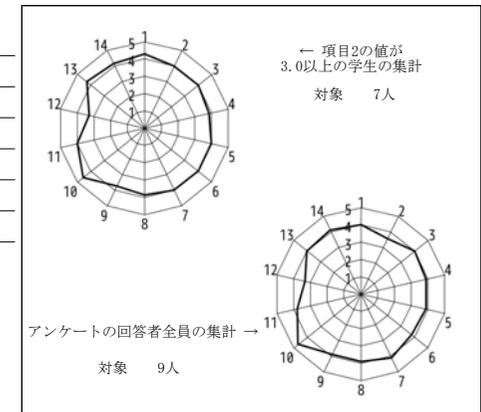
授業の出席率、Webclassにおける課題のアクセス頻度、定期試験の結果を踏まれば、開講当初に設定した目標には達しなかったか考える。その原因は、項目番号2の評点が絶対値・学部比の相対値に比して低かったことがあげられる。本授業では、授業前に、次回の授業で行う範囲（予習すべき範囲）を明示し、かつ事後には課題を提示している。大まかではあるが、Webclassのアクセスからみると、約50%の学生は、これらの情報にアクセスしていない（なお、試験直前には約80%アクセスしている）。授業は、これらを前提に進めているので、この状況では、授業の理解は進まないと思う。また、具体例を挙げて説明してほしい旨の意見があるが、限られた時間内で多様な具体的を挙げて説明することは難しい。授業では、重要な具体的については、判例を取り上げ、説明を行っている。

なお、今回は、一部の学生がオンラインであったことから、ZOOMの利用を前提とした授業を行った。このことから、板書をPC上で行い、見にくかったとの意見があった。来学期以降、改善したい。

来学期以降は、事前学習の重要性を説明すること、板書の工夫することを、自らの課題として、授業に特組んでいきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳4
授業コード 10D08-004
教員名 BOSAKAIBO, B. Georges
教員コード 104045
登録人数 33
回答数 9
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は講義形式で行われた。この講義では、アフリカとアジアを中心としたさまざまな地域における民族問題を、現代社会における人間の尊厳の概念と関連づけながら考察した。

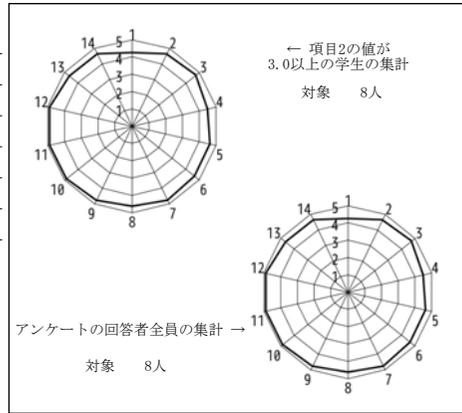
民族問題と人間の尊厳の力学を理解するのに役立つ歴史的・現代的な前提を学生に提供し、この講義の目的は達成された。クラス講義では、予定されていたすべての授業がカバーされました。休講や補講はなかった。

学生は、現代社会における民族問題を分析しながら、人間の尊厳の重要性について知識を深めた。このことは、授業中の反応や最終レポートでのいくつかの事例に対する意見に表れている。

全体的なテーマを考えると、事例には共通する点が多かったと思う。今後、いくつかの章を変えて、いくつかの新しいケーススタディを取り入れたいと考えている。これらのケースは、民族問題と人間の尊厳の関係を理解させるために、学生がより多くの情報を得ることができるように、科目の改善に貢献するものと思われる。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語III(総合)2
授業コード	11L16-002
教員名	山口 和代
教員コード	049726
登録人数	12
回答数	8
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

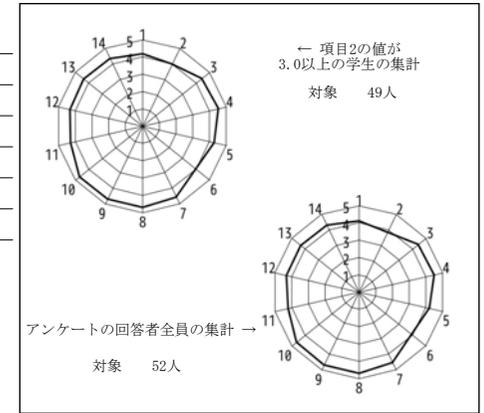


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は日本語Ⅱまでの授業で学んだことを総合し、学部の講義の基礎となる知識と技術を習得することを目標とした。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.25から4.88という結果であった。自由記述欄の回答には知識が広がり、興味深い情報を学ぶことができたといった肯定的な回答があった一方、ハイブリッド授業であったため、インターネット接続の問題に触れた回答がいくつかあった。PCとモニターの接続に不具合が生じたり、教室によって接続手順に違いがあったりしたため、オンラインで入る学生たちの音声が入りこまないことがあり、通常の授業とは異なり、時間のロスが何度か生じた。授業進行が予定通りにはいかず、最後の発表課題を予定通り行うためにスケジュールの調整が必要であった。スケジュールに余裕がなくなったことが、授業評価への全員の回答を得ることができなかった原因と思われる。また、自由に動かせるマイクの必要性に触れるコメントがあったが、対面授業とは違い、オンラインで入る学生と教室にいる学生とのやり取りに通常よりも時間がかかることもあり、距離感を解消するのが難しかった。この授業では、これまでは授業時間以外に課題発表に関する相談を受けることも多く、課題発表の時には1人1人がフィードバックをきちんと受けたいという学生からの要望もあり、時間の許す限り対応してきたが、ハイブリッドになってからはそのような要望が少なかったように感じる。ハイブリッド授業を行う場合も学生のモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう工夫しつつ、今後も学生が自主的に勉強に取り組むための手助けをしていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相5
授業コード	13C04-005
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	91
回答数	52
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



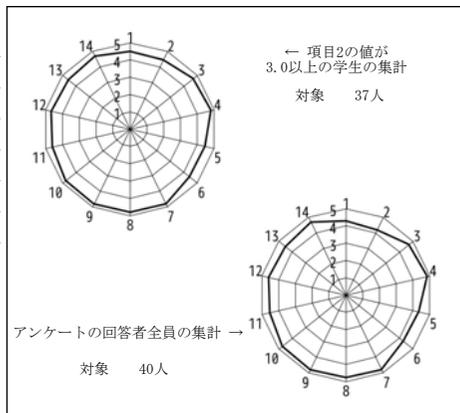
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、「自己・内集団と他者・他集団の理解や、自己と他者・外集団の関係を巡る社会的問題の解決の検討の鍵となる社会心理学の概念(自己開示・自己呈示、原因帰属、内集団びいきなど)について理解する」と「リスクを巡る人々の認知・行動の特徴やリスク・コミュニケーションの特徴と課題について理解する」の2点を到達目標として挙げていた。授業評価14項目のうち、ほとんどの項目では、5段階評価に対して平均値は4.00を超えており、4.50以上のものも5項目あった(担当教員の授業に取り組む姿勢を尋ねた項目7で4.52、学生の理解度に配慮した授業進行に関する項目9で4.67など)。基本的には肯定的に評価されていると考えられる。

授業では、講義する概念や事象などについて理解を深めるためのゲーミング体験を3回実施した。ゲーミングはオンライン授業となった場合でも実施可能なものを用意していたが、結果として対面授業で実施することができた。授業におけるゲーミング体験に対しては、「実際に自分で体験し、心理について考えることができた」といった授業内容の理解の側面だけでなく、「聞くだけの授業でなく、自主的に取り組むような気持ちになれた」「他の学生と交流することができた点です。授業にちゃんと参加しているという感覚があり、印象に残りました。」といった自由記述も見られ、学生の授業に対するコミットメントを高めるうえでも効果があったと考えられる。一方で、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」では、平均値が3.92にとどまっていた。より積極的な予習・復習には、さらなる工夫が必要と考えられるため、検討したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会保障法
授業コード	44C24-001
教員名	三輪 まどか
教員コード	102263
登録人数	117
回答数	40
回答率	34.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業より、法学部の学生のみを対象とした科目と変えていただいたため、法学部生のニーズに合うよう、条文に沿った解説、立法趣旨および法解釈を中心とした授業構成とした。この構成が学生の皆さんに受け入れられたと思われるような評価内容であった。

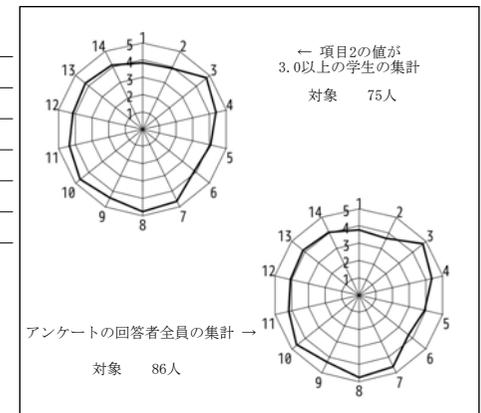
まず、回答率は34%とやや低めながら、授業評価の項目3-14は4.63、学生の主体性・自主性が問われる項目1-14で4.58と比較的高かった。これはひとえに、事前に配布したレジュメや教科書に目を通すなど、学生の皆さんの取り組みの成果と思われる。より細かく数字を見てみると、高評価であったのは、設問4が4.85、設問7、8、9が4.78であり、先に指摘したような授業上の工夫が学生の皆さんに受け入れられたものと思われる。一方で、設問2が4.20、設問6が4.28とやや低めであり、主体的な取り組みを進めるようなさらなる工夫も必要であるように思う。

次に自由記述に目を向けてみると、レジュメについて多いとする声の一部あったものの、レジュメを評価する声の方が多かった。また説明が丁寧だった、質問しやすい環境だった、といった評価のほか、テーマが興味深かった、公務志望なので、将来のことがわかったなど、学生の皆さんの将来に役立てたようで、この点は授業の目的を十分達せられたように思う。

最後に、教員の所属ではない学部の授業であったが、学生の皆さんが熱心かつ真摯に取り組んでいただき、とてもいい授業になったと思う。受講してくださった皆さんにこの場を借りて感謝を申しあげたい。ありがとうございました。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と文明
授業コード	46B04-001
教員名	大八木 英夫
教員コード	104123
登録人数	161
回答数	86
回答率	53.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

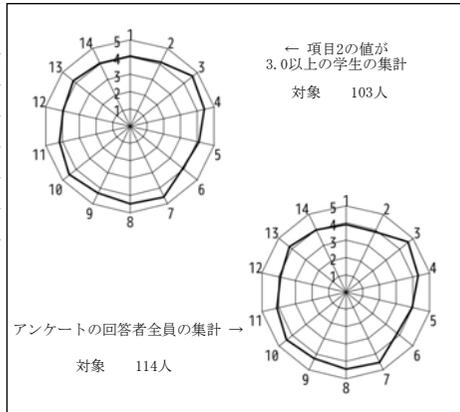


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、世界の文明とその背景にある自然環境と密接な関係性について理解について基本的な事象について解説している。特に、地球環境と文明の間にもどのような周期性あるのか？、第四紀から約2万年前の最終氷期（氷河時代）頃の自然環境が我々の文明・生活にどのように関わっているのか？、過去2千年間の気候の変化は世界の歴史とどのような関係にあるのか？、身近な地域の自然環境と都市はどのように形成されたのか？について理解させることを目標としている。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは、このような試みは、比較的评价されていると読み取れる。到達目標に向けて力の修得についてはやや評価されなかった部分があるが、概ね学生からの対応は良好であり、特に、学生の理解度に配慮し、また、教科書・配布資料・視聴覚教材などを効果的に使って適切に授業については、良好な評価を得た。今後に向けては、時事的事象は、常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、人が自然と共存し持続可能な発展についての講義を介して、自然環境と文明について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係論
授業コード	46D06-001
教員名	小尾 美千代
教員コード	102453
登録人数	233
回答数	114
回答率	48.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

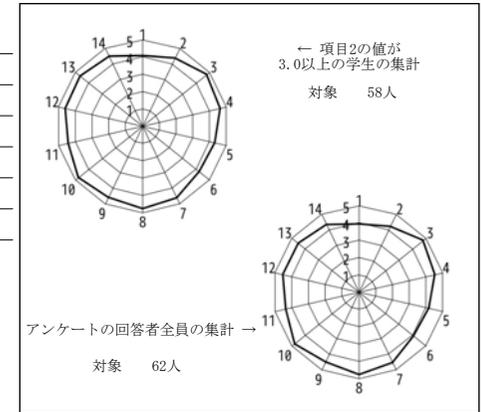
この授業では、(1) 国際関係論および国際政治学の基礎的概念や理論を理解していること、(2) 国際関係の変遷について理解していること、(3) 現代のグローバルな課題を理解していること、の3点を到達目標とした。

アンケートの回答者は114人で、項目1～14の平均値は4.17、3～14の平均値は4.22であり、いずれも昨年度より0.2ポイント程度低くなった。項目5「到達目標の理解」(3.96)と項目6「力がついてきているか」(3.82)は昨年度と同様で4点未満であったが、定期試験の平均点は例年よりもかなり高く、評価対象とした定期試験を受験した222名のうち、94%が単位取得できたことから、到達目標は達成されたと思われる。自由記述欄によると、ビデオ(動画)の視聴やレジュメ配布、教科書指定が概ね好評であった。また、感染防止に配慮した点を評価するコメントも見受けられた。

今回は対面授業を実施したものの、感染防止の観点から授業中に学生の発言を求めたりすることが難しかったが、学生にあまり負担にならない形で双方向性型の授業運営ができるようにWebClassの活用を含めて工夫していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境地理学
授業コード	46D14-001
教員名	藤本 潔
教員コード	100100
登録人数	142
回答数	62
回答率	43.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

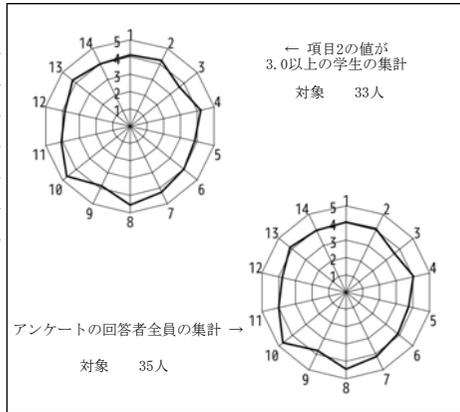


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は2017度から新たに開講した科目であり、これまでの3回の授業評価の結果を踏まえ、いくつかの改善を試みた結果、項目3-14の平均が2017年度4.15、2018年度4.30、2019年度4.48、今年度は4.50へ徐々に向上した。各項目の値に注目すると、項目5(到達目標の理解)が4.19、項目6(到達目標に対する力がついたか)が4.08と、他の項目に比べ相対的に低かった。今後は到達目標について第1回授業で周知すると共に、授業の折々に到達目標と授業内容の関係について確認する機会を設けたい。今回は対面免除の学生が2名いたためハイブリッド授業となったが、ZoomのマイクをONにし忘れるなどの不手際が数回あったものの、特に大きな問題は発生しなかった。オンライン授業では講義は70分程度で終了し、残りの時間を質問の受付とリアクションペーパーの作成に当てていたが、対面授業では学生達に質問を投げかけ、発言の機会を設けるスタイルを取り入れているため、その時間を確保することができないことが数回あった。しかし、自由記述欄を見るとこのスタイルを評価する意見が複数見られたことから、今後ともこのスタイルを維持しつつ、時間配分に気を配りながら授業を進めることとしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	対外政策論
授業コード	46L03-001
教員名	平岩 俊司
教員コード	103613
登録人数	74
回答数	35
回答率	47.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

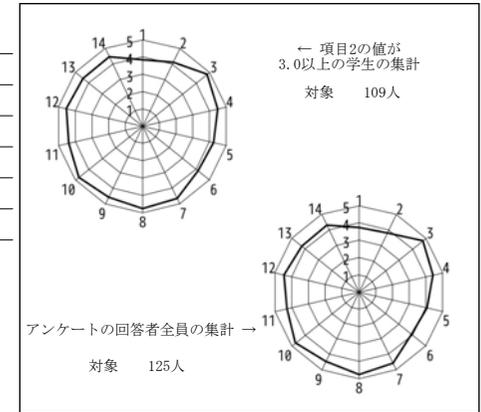


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初予定していた目標については一定程度達成できたと思うが、対外政策決定過程について、リアルタイムで発生する事象についてその都度説明したため、実際に柔軟な対応が変数として加わったため、かえって純粋な概念的な制度について混乱があったように思う。その一方、対外政策決定過程についてあまりに概念的に理解しようとする余り、受講生の理解にリアリティが欠如していたように思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
具体的な事案についての受講生の理解は一定程度達成されたと思うものの、その一方で概念的な対外政策決定についての説明が不十分だったかと思うが、私自身の実際の経験を事例にした話は興味を持って聞いてもらえてと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
久しぶりの対面講義だったため当初事前資料の配付を控え、講義での臨場感を優先しようとしたが、やはり事前資料の配付が必要と感じたので、そのように対応したい。また、私自身の実際の体験を事例とすることにより、受講生により概念化して一般化できることを意識しながら講義したいと思う。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域経済論
授業コード	46N06-001
教員名	澁谷 英樹
教員コード	151974
登録人数	367
回答数	125
回答率	34.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

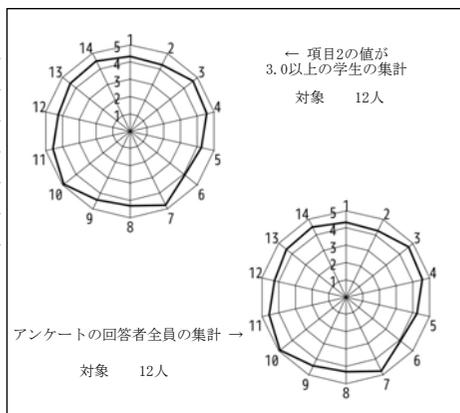


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本講義はコロナ禍の中で300人を大きく上回る受講者数を抱えることとなったため、ハイブリッド授業として開講することとなった。その中で、講義内容としてはスライド量を増やし事例を中心とした授業とすることで、学生に対して地域経済を理解するための、基礎・応用両面で経済学の理解を深める方向性を目指した。これについては多くの経済データを授業中で検証することができたため十分に達成された。
- 勿論、このような授業方針については「スライドが多いために授業速度が速いと感じられる」ことは予想された反応である。また、授業内容に対してレポート課題が簡単であるとの批判も予想された。これについても正しいと実感する。
- しかしながら、オンラインを好む学生と対面を好む学生が混在している状況下で、どちらに揃えることも困難であった。さらにレポートではなく対面試験とすること自体に不満を持つ意見もあった。これについては社会の対応ですら千差万別であり教員個人としては責任を負いかねた。
- こうした状況では、学生と教員との距離感が生じやすいことが想定されたため、本講義はボリュームを増やすことにより対応したものである。また、レポートについても易化することで学生の疎外感を小さくした。これらは確かに問題点ではあるが、承知した上での対応である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	開発政治論
授業コード	46N11-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	25
回答数	12
回答率	48.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

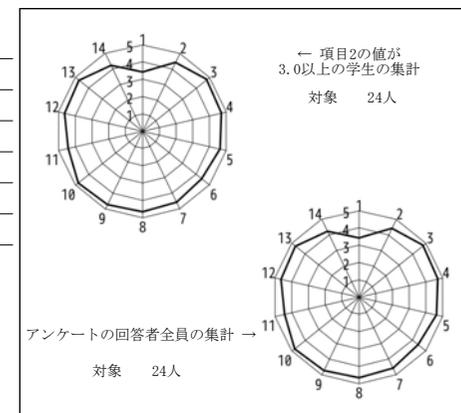
This is a lecture-based course designed to achieve three goals: 1) introduce students to major postwar approaches to development and issues related thereto, 2) to introduce them to special problems of development identified since the 1990s, and 3) provide practical experience in using standard indicators and indices to assess the level of development in a developing country. Each of these was accomplished during the course.

The students responded well to the course. The overall responses to the standard evaluation questions is high in all areas. The response rate was somewhat low, about half of the class, so caution is needed in assessing responses. There was only one written comment, which was a positive assessment of the clarity of explanation of course material.

I am considering updating the textbook next time.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FB・FF・FG]6
授業コード	10C01-020
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	34
回答数	24
回答率	70.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

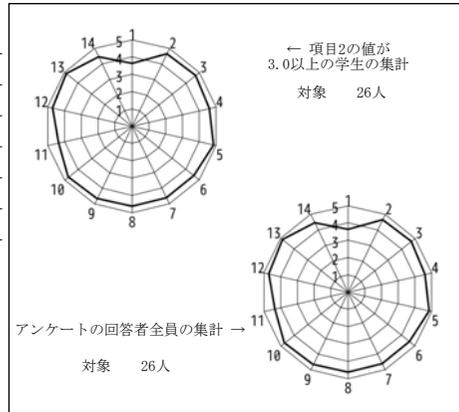
1. 本科目は情報社会における安全かつ有効なネットワークの利用方法を知り、e-learningやグループディスカッション、発表を通じて積極的な学びを身につけることを目的とした科目であり、Q1からQ4まで全ての学部・学科1年次生に対して開講している。Q4開始当初は新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、ほぼ例年と同様の対面授業で予定通り実施することができた。シラバスの到達目標についても達成できたと考える。

2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.51、項目3~14の平均が4.60であり、情報科目全体の集計結果と同等であった。個別の項目の評価では履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.42と低い値であったが、他の項目についてはいずれも4.2以上であった。この傾向はQ1に実施した授業評価とほぼ同じ傾向である。自由記述欄にはグループでのディスカッションや発表用ビデオ作成を通して理解が深まったという意見が複数見られた。本科目の授業方法が受講生に受け入れられたものとする。

3. 今年度はコロナ対策として口頭での発表を実施せず、事前に作成した動画を上映することで発表を行なった。この発表方法はおおむね順調に実施できたが、従来に比べ学生への負担は大きかったと思われる。コロナの影響はまだ継続すると思われるので、次年度の授業では学生の負担にならない方法を検討したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FS・FA]3
授業コード 10C01-025
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 35
回答数 26
回答率 74.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



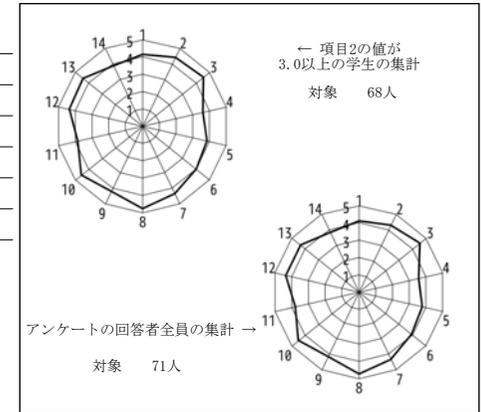
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。さらに、教室に来ることができない受講者への対応も課題となっていた。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)では多くの項目で4点台の評価が得られたが、3点台もあった。設問1(3.62)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。自由記述からは、設問15について、「グループワークを軸に授業が進んでいった点は、授業全体を通して固定されたグループということもあり、ディスカッションもしやすく、とても良かったと感じる。」などの評価がある一方で、項目16では、「授業教材が生徒任せ過ぎる」という記述があった。項目16については、教員が「アクティブラーニング」、「反転授業」の趣旨を十分に受講者に伝える必要があることが分かった。教室に来られない受講者へのハイブリッド授業による対応については自由記述で指摘がなく、問題なく行えていることが伺われた。

以上を踏まえ、諸所の改善点が必要であることが分かる。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[TC]
授業コード 50A28-003
教員名 名倉 正剛
教員コード 103899
登録人数 78
回答数 71
回答率 91.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

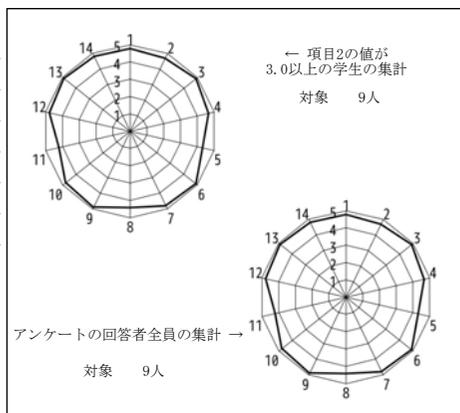
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスに記載したプログラミング技術習得に関する到達目標について、すべて実施した。またそのうえで一通りのプログラムを作成できるように実習をとって解説を行ったので、目標に対して到達できていると考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
担当科目に対して、実習を通してプログラミング能力を身に付けさせるための知識を教えていることができていることが、数値データと自由記述から評価できる。その一方で、学生個人の能力差が大きく、できる学生には「同じことを何度も繰り返す」と感じられ、できない学生には「進むのが早い」と感じられている状況である。これについては講義内容を精査する必要がある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
現状では講義内容が学生の学習に対して多い状況である。これは多くのプログラムの例を自分で実装することにより、能力を養おうとする観点では不可避ではあるが、一部説明が重複していたり、範囲を外れるような説明が存在していたりする。複数クラス開講で全てのクラスで教材を統一していることもあり整理が難しいが、次年度ではなるべく重複箇所を整理するように心がけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学実習[S]1
授業コード 52A05-001
教員名 蜂巣 吉成
教員コード 019448
登録人数 36
回答数 9
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ソフトウェア工学実習は3年生の必修の授業で、Webアプリケーションの開発を行う。

授業は対面で行なったが、作業の多い科目なので、実際にPCを使った操作を録画して

公開し、復習を行いやすくした。

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

授業内容は予定通り行った。多くの学生は到達目標に達していたが、レポート内容が

不十分な学生も一定数いた。授業では質問の時間も十分にとったつもりだが、残念である。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

評価の点数は総じて高いが、回答者数が少ない。授業に好意的な学生からの回答と思われる。

講義資料は事前に公開しているが、今年度は予習をして取り組んでいた学生がいた。一方で、

最低限の課題を未提出の学生も一定数いた。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など理解が不十分な学生を発見し、サポートしていくことが必要である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学演習VIII
授業コード 52A12-009
教員名 佐伯 元司
教員コード 100223
登録人数 7
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この科目の最終目標は、自分自身で専門分野の中で解決すべき課題を見出し、解決案を立案、実施し、結果を評価し、それらを論文にまとめ、発表することである。4つのテーマに分かれQ3までに解決案立案まではできていたため、解決案の実施、結果の評価、論文執筆、発表を行わせた。発表での質疑応答については一部質問者の意図を十分に理解できず、的確な回答ができなかった部分もあるが、概ね全員目標に到達することができた。成果の一部ではあるが、3月に担当学生が学会発表予定である。

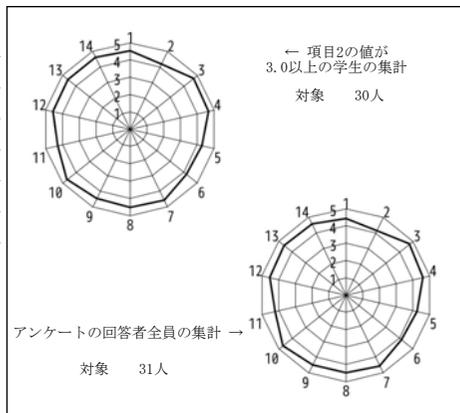
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

対面式で授業を行うことができたため、学生の進捗状況についてかなり突っ込んだ議論ができた。パソコンを使ってのプログラム実行やデータ表示のデモを臨機応変に行わせるように工夫した。また、冬休み中の2日間を使って、研究発表会を実施し、残された課題について集中的に議論を行った。このような試みは学生同士が互いに議論し合うことで刺激になり、効果的だったと思う。

③次クォーター以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて
得られた成果はいずれも学会発表レベルであったが、学生の希望により一部しか学会発表できないのは残念である。当初より、目標を学会発表に設定し、常時動機づけをしていくべきであった。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化と情報1
授業コード	13E09-001
教員名	三浦 英俊
教員コード	102259
登録人数	49
回答数	31
回答率	63.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標として次の3つを掲げている。

1. ORが実社会でどのように使われているか、いくつかの例を知っている。
2. ORの基本的手法について理解している。
3. 実社会の様々な問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを理解している。

教科書に沿って、問題とORの手法に基づく数理モデルの作成について説明し、授業内の課題や宿題の演習課題を通して理解を深めさせた。3つの到達目標はおおむね到達できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

ホワイトボードを主として使ったが、一部、プロジェクタとスクリーンを用いた。1限の授業で日光が差し込みやすく、多くの学生にとって見にくかったようだ。それに気が付かず申し訳なかったと思う。カーテンや照明の調整で対応すべきであった。

授業で取り上げた内容や進む速さについては問題がなかったようだ。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
教科書の内容をすべて取り扱っても授業時間にゆとりがあり、また、教科書と同じ話を聞いていてもつまらない、といった声もあったようなので、来年度以降、追加の内容を盛り込めるように準備したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化と情報<国際科目群>
授業コード	13E09-901
教員名	鈴木 敦夫
教員コード	016469
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

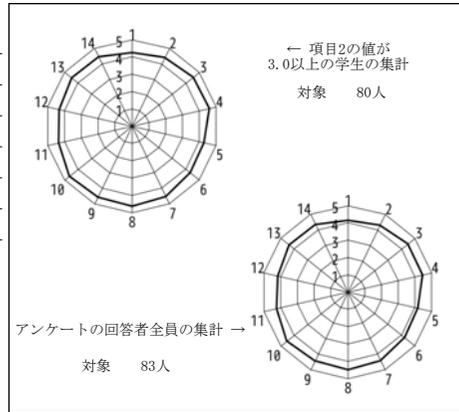
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、オペレーションズ・リサーチについて英語でその概要を理解してもらおうということだったが、この目標は達成された。受講者はいつも4名程度で、この4名が回答してくれたものと考えている。4名の回答数なので、レーダーチャートなどはないが、回答した数値をみると、いずれの項目もほとんどが5であった。自由回答欄にも、「ORについて知ることができ、良かった。」、「内容の説明がとても分かりやすかった。」、「グラフなどが多く使われていてとても分かりやすかった。」、「資料がわかりやすかった」とあり、英語での授業であるが、内容を理解してもらったと考えている。なお、病気で休講した講義については、録画して講義資料のダウンロードサーバーにアップロードした。1月に病気で入院したため、補講を行うことができなかったためである。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	幾何学概論
授業コード	51B01-001
教員名	小市 俊悟
教員コード	101691
登録人数	230
回答数	83
回答率	36.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

受講者数が多かったため、各回の対面受講者を1/2にして、学生は対面授業とオンライン授業を入れ替わりで受講する形式となった。対面授業を行ったが、記号に小さく添字をつけるようなことも多く、カメラで撮影したのでは学生は判別が難しいと考え、実態としては、教室でオンライン授業を実施するような形態であった。授業を一通り終え、反省もしているが、授業の運営方法として、それ以上の良い方法は、結局思い付いていない。そのような状況にもかかわらず、学生の方は、成績やアンケート結果からは十分に学習できたように判断できるし、特段、問題もなかったようであるので、この点については学生の適応力に感謝したい。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

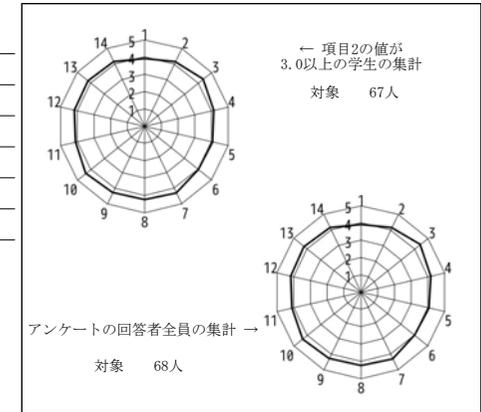
数値は決して悪くなく、むしろ良好であることは、驚くとともに安心した。授業中の学生の反応は以前に比べれば、「やすい」印象を受け、教員としては、やりやすいとは決して言えない部分もあるが、学生は集中できる面もあるのかもしれない。自由記述からは、定期的に理解を確認する問題を設けたことが良かったようであるので、この点は今後も続けていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度は不開講となるが、再来年度には、内容を一部変更して開講することになる。資料等の準備をしっかりと進めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	通信理論[S]
授業コード	53B02-001
教員名	河野 浩之
教員コード	048595
登録人数	184
回答数	68
回答率	37.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

対面授業で実施できたが、定期試験が実施できない可能性を踏まえて、「WebClass問題とレポート評価」もしくは「レポート評価と定期試験」の可能性を考えて進めた。最終的に「レポート評価と定期試験」を実施できたことで、WebClass問題による評価より適切な評価に繋がったと考えている。「レポート評価と定期試験」の記述内容から、当初設定目標に到達したと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業の流れに関して、概ね好評な自由記述が記されていた。今後も、「前回授業の発展的復習」「前回WebClass問題の解説」「今回授業の基礎説明」「今回WebClass問題による復習」といった授業構成を継続したい。

なお、「教科書販売に対応してほしい」との自由記述があったが、教科書を指定している。

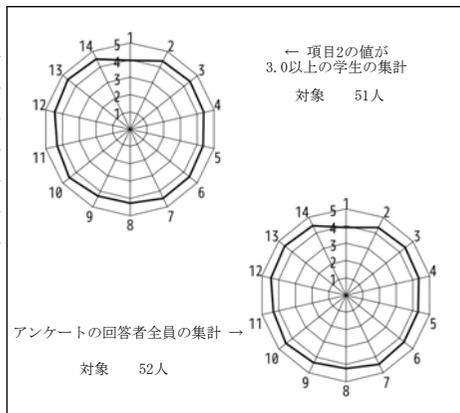
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業時間の変更により、最終回の「総括」を行わないスケジュールに変更した。しかし、定期試験を実施する場合、「総括」の必要性を感じたので、今後、シラバスを多少変更する改善を行いたい。

また、本科目は他の教員に引き継ぐことになるため、今年度単位取得ができなかった学生に、シラバスや定期試験問題などを通じて、円滑な引き継ぎを行いたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	線形代数II[TS]
授業コード	54A05-001
教員名	塩濱 敬之
教員コード	104524
登録人数	71
回答数	52
回答率	73.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達は以下の4項目であったが、

1. 逆行列を計算することができる。
2. ベクトルの一次独立性と一次従属性を理解している。
3. ベクトル空間を説明できる。
4. ベクトル空間に関する基本的概念（基底や次元など）を理解している。

設問項目番号5-6のアンケート結果より、受講者は概ね線形代数IIで到達すべき目標に達したと考えられる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

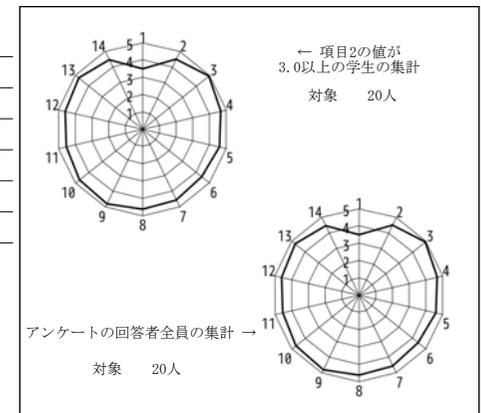
機械に弱かったとコメントがあったので、機械に強くなりたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今期は、対面とオンラインのハイブリッド形式で講義を行ったが、毎回機材設定や準備に時間を取られることが多かった。コロナ感染状況が今後どのように変化するのか不明な点も多いが、コロナ禍以降もオンライン講義の質の改善に取り組む必要があると感じる。特に、機材・配信方法に慣れる必要があること、学習者との相互コミュニケーションのとり方など、様々な工夫点・改善点がある。今回の反省点を踏まえた改善や、機材・教材・アプリの更新は次クォーターに取り組みたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FS・FA]2
授業コード	10C01-024
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	33
回答数	20
回答率	60.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。

授業はe-learningと対面授業を組み合わせ実施した。e-learningで学習した内容に関して理解度を確認するための課題、対面授業におけるレポートのピアレビュー、指定された課題に対するグループ発表、を通して理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマに対して十分に理解を深められたと思われる。一方で、一部の受講生についてe-learning教材への取り組み状況が芳しくないことは非常に残念である。e-learning教材は対面授業に参加する上での基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューに十分な時間を確保するように努めた。COVID-19の影響で教室でのグループワークは要点に絞るようにし、発表資料の作成などは可能な限りオンラインで行うようにしたが、成果物を見る限りでは特に問題なくグループで活動できたようである。情報通信技術の進化や社会の変化は絶え間なく続いているため、教材には含まれない最新の話や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	卒業研究IVH
授業コード	53A18-003
教員名	梅比良 正弘
教員コード	104425
登録人数	10
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定目標と到達の程度

通信工学の基礎を学ぶと共に、その知識を踏まえて、卒業研究のテーマに関するmatlabのシミュレーションプログラムを作成し、結果の考察を行うことを到達目標としていた。

②担当科目に関する総合的な自己点検・評価

進捗報告を兼ねた定例の研究室ゼミに加えて、通信工学の基礎学習など、個別指導を毎週実施した。

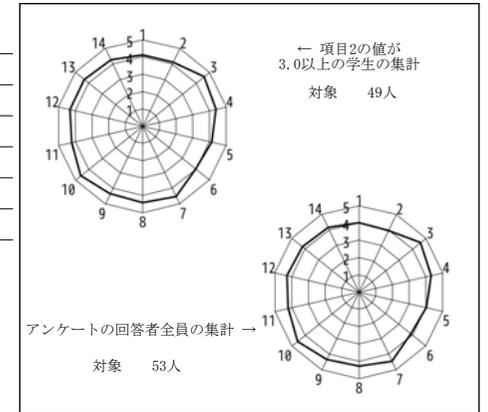
卒業研究指導を担当した学生の進捗報告、卒業研究の発表会、卒業論文より当初設定した目標は達成した。

③改善点、今後の抱負、方針など

通信工学の基礎勉強については、学習に時間がかかること、関連の数学の復習が伴うことを踏まえ、3年次のゼミより基礎勉強を行うことが必要と考えている。これを少なくとも5月末までに終えて、早めに卒業研究テーマに取り組むことができる、より高い研究成果が残せし、学生の満足度も高くなったのではないと思われる。次年度に向けた課題としたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報通信セキュリティ[S]1
授業コード	53B08-001
教員名	石原 靖哲
教員コード	103810
登録人数	149
回答数	53
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

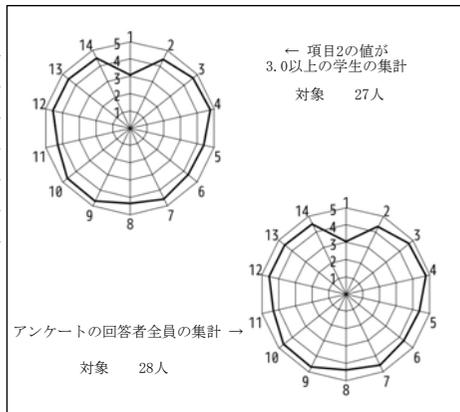
①今年度は2年ぶりの対面授業であった。完全に2年前の授業スタイルに戻るのではなく、昨年度のオンライン授業の経験を生かしてよりよい授業にすることを目指した。具体的には、毎回の授業をZoomで録画し、資料DLサーバにアップロードした。板書は、教室のホワイトボードにするのではなく、あらかじめ学生に配布してあるスライドPDFファイルへ「デジタル板書」という形で実施し、その板書画面が動画の映像部分となるようにした。これにより、対面授業とオンライン授業それぞれのよいところを生かした授業にできたと考えている。

②設問6と19～21の評価が低いことに注意しなければならないと考えている。この結果は、受講者は教わったことが身につけているという実感を今一つ得られていないということを意味している。この授業では、情報セキュリティに関するさまざまな事柄について、浅くてもよいのでできるだけ幅広く教えようと思い取り組んできた。その結果、授業時間内で演習問題に取り組むといった「知識・技術の定着」に関する部分がややおろそかになっていたかもしれないと反省している。

③上述の反省点をふまえて、来年度は、少し教える内容を絞りつつ、知識・技術の定着のための時間を確保した授業を実施したいと考えている。また、アンケートによれば、授業動画のアップロードは、教室に行くのが面倒というような学生よりもむしろ「何度も授業を見返してきちんと理解したい」というまじめな学生に好評であることがわかる。来年度以降も継続して行いたいので、資料DLサーバを来年度以降も利用できるようにぜひお願いしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FB・FF・FG]3
授業コード	10C01-017
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	35
回答数	28
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

各設問の評価値について、設問1を除くと4.32から4.79である。これは全体としての授業運営がバランスよく行えたことを示していると思う。したがって各設問に対する検証は行わないこととする。

自由記述欄であるが、これもおおむねポジティブな内容であり、次年度に向けての大きな課題は少ないように思われる。唯一の批判点としては、対面授業を充実させてほしい、というものであった。ただこれは具体的には何を指しているのか不明であり、具体的な対処が難しい。用意されている資料に補足するような内容が欲しい、ということであれば次年度の課題としたい。

学生たちがグループディスカッションする形式に関しては概ねポジティブな評価を得られている。一方で、用意されている資料に関しては、必要十分であると思うが、学生のニーズや取り巻く環境によってアップデートしていくことも必要であろう。幸い学生の作成した発表資料の蓄積も増えてきており、これらを精査して、特に対面授業に関する充実をはかっていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械<国際科目群>
授業コード	13E04-901
教員名	大石 泰章
教員コード	101405
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

○当初の目的と到達の程度

この授業は国際科目の1つとして、動的システムの基礎と応用について英語で講義し、数学が実世界においていかに役に立つかを伝えることを目的とする。文系の学生が履修できるように、高校で必修の数学だけ(数学Ⅱ、数学Bまで)を仮定し、必要なことはすべて授業中に説明する。

予定通りすべての内容を講義することができた。コロナ禍をきっかけにスライドの整備も進み、授業として完成の域に達しつつあると考える。

○数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

数値評価はほぼすべて4点を超えており、「英語で数学」というハードルの高い授業であることを考え合わせると、満足すべき水準に達していると思われる。

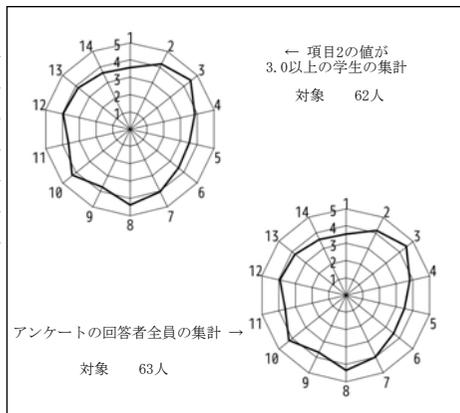
評価できる点(設問15)には、「わかりやすい」「解説が丁寧」「情熱が感じられた」などとあった。一方、改善すべき点(設問16)には特に対応が必要なものはない。学生から見ると満足できる授業になっているものと解釈して素直に喜びたい。しかし教員から見ると、全員が同じように授業内容を理解できているとは思えない。説明は非常に丁寧に行なっているが、英語なので理解につながっていない可能性があり、悩ましい。実施が難しい授業であるとの思いはぬぐえない。

○今後の改善点、抱負、方針など

せっかくの授業なので、もう少し受講者が多いとよい。自分の担当する他の授業で宣伝しているのだが、さらに努力が必要と考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	応用解析学
授業コード	51B02-001
教員名	坂本 登
教員コード	102293
登録人数	120
回答数	63
回答率	52.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

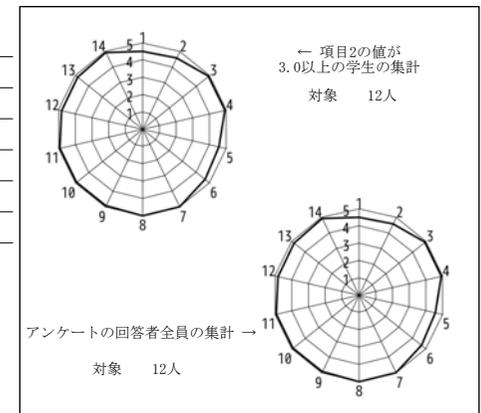


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：
講義期間中計算テストを2回行ったことにより、学生に講義の進展に合わせて計算練習をさせることができた。そのため、最も重要な到達目標である複素積分とその応用については、大部分の学生が最低限のレベルをクリアしたと言える。また、期末試験では計算以外にも証明問題を課すことをアナウンスして準備させた。上位半数程度は複素積分とコーシーの積分定理の応用について、理論的に深いレベルまで理解していると言える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：
複素関数論が理工学部の学生の将来にどのように直接かかわってくるのか、学習の動機付けに割く時間が取れなかったことが反省点の一つである。自由記述からは、毎回の講義を録画して公開したことへの評価、計算テストを行うことで期末試験だけの一発評価にならないことの安心感、毎回の講義で小テストを行って理解の確認を行ったこと、などへの肯定的な感想が寄せられた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：
複素関数論を学ぶことの動機付けへの工夫を行う。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[G]5
授業コード	11A08-036
教員名	鹿野 緑
教員コード	101092
登録人数	17
回答数	12
回答率	70.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

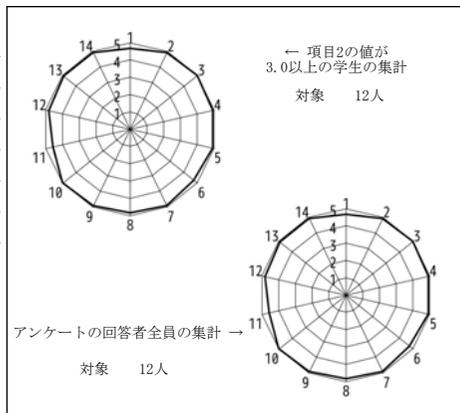


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 当初の目標は、アカデミックな読みと書きであったが、特に1年次の最終Qであるため「英文ペーパーをAPAスタイルで書く」ことを中心的課題とした。形式や構成は全員の学生ができるようになったが、やはり内容の深まりや論理的な展開は第二言語でもそう容易くはない。それがアンケートの結果でもわかる。これは、4年かけて、学科独自のカリキュラムの中で身につけていってほしいと感じる。
- ②総合的な自己点検であるが、授業アンケートの結果は平均4.87（1～14は4.82）であった。自由記述からは、英文エッセイやペーパーを書いたり、アカデミックな読みをする際の細かなフィードバックが効果的だったようだ。文法へ意識が向いたというコメントもあった。一方で、入学までの言語経験や文法力・語彙力の基礎が不足しているゆえに、伸びずに終わる学生がいる。
- ③上で述べた、入学時に基礎力が不足している学生への、適切な学び直しとなるような教材・教授法の工夫が必要となろう。英語力とはスピーキングだと思ってしまう人（一般にも）が多く、「正確さのある読みと書き」をどう意識づけるかも今後の課題である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II<G2020生・2019生以前再履修者用>
 授業コード 11C02-010
 教員名 大竹 弘二
 教員コード 101968
 登録人数 13
 回答数 12
 回答率 92.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



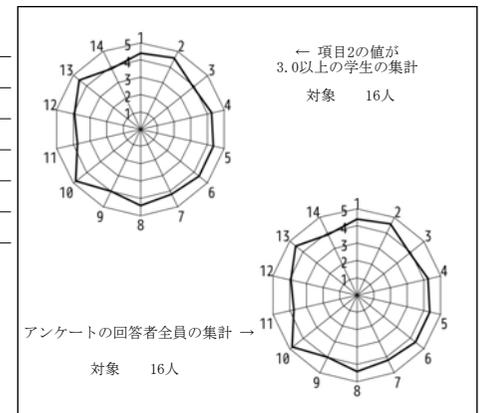
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は国際教養学部の2年次生を対象とした初級ドイツ語の授業である。いつオンライン授業になるか分からない不確定な状況であったが、基本的に例年通りのやり方で対面での授業を行った。文法の習得だけでなく、リスニングや作文の練習も重視し、映像資料なども用いながら学生の興味を引くような授業を心掛けたつもりである。昨年度の本科目はもっぱらオンラインだったので、置いてけぼりになる学生が出ないようになるべく丁寧に授業を進めたが、それに比べると対面で行われた本年度の授業は学習進度が少々早くなってしまった。学生たちがきちんと学習事項を身に着けているか不安であったが、試験の結果を見る限り、ほとんどの学生が授業到達目標を十分クリアしており、特に大きな問題はなかったようである。印象としては、外国語科目はやはり対面授業のほうが学習効果が高いように思われる。

もっとも、感染のリスクがある発音練習やグループワークなどはあまり頻繁に行うことができず、その点で学習効果が薄れたのではないかという不安はある。教員個人で対処するのはなかなか難しい問題であるが、コロナ状況のもとでもなるべく会話等の実用的な外国語運用能力が身につくような授業方法を考えていく必要があるだろう。二人一組でのペアワークくらいであればそれほどリスクはないと思われるので、少しずつでもそうした取り組みを増やしていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語II<G2020生・2019生以前再履修者用>
 授業コード 11D02-011
 教員名 安原 毅
 教員コード 017905
 登録人数 41
 回答数 16
 回答率 39.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

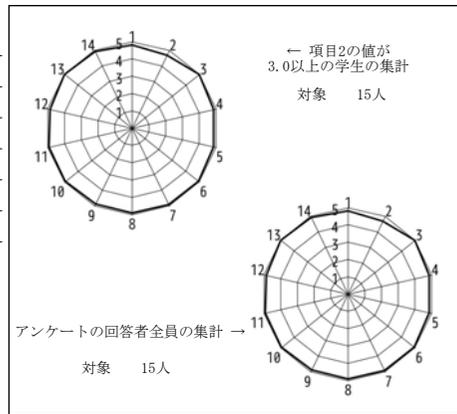
平均値4.25という数字はほぼ例年並みではあるが、学部全体の平均値よりは低くなった。とはいえ自由記述では「説明がわかりやすかった」という回答が多いことから見ても、当初の到達目標はおおむね達成できたのではないかと考える。Q4では初等文法とはいえかなり複雑でわかりにくいテーマを扱うが、小テストや定期試験の結果を見る限りでは約8割がたの学生は十分に理解してくれていると思われる。

毎年問題になる点だが解答率の低さはくい変わらずだった。今回は進度が遅れがちで授業進行を急いだため、授業中にスマホから入力させる時間が取れなかった。この点は来年度の反省材料として、最初から進度の調整に留意したい。また学生の主体的な学習を引き出すための努力については、宿題や小テストでは評価されないのどうすれば良いか判断が難しいが、今後とも反省材料と言える。

登録車が40名以上のクラスで1メートル以上の距離をとって着席させると、後部座席に座ったものには発言させてもほとんど声が聞こえず聞き直すことが多かった。来年度からどうなるかわからないが、授業中に発言せるほうが良いのかペーパーに書かせて提出させる方が良いのかはその都度考えなければならぬようだ。逆に黒板に書く文字が小さいという意見はなかったので、板書に関しては過去よりは自身で改善できていると考える。ただ教室の構造によっては後部から見えにくいこともあり、今後とも注意しなければならない。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア語II<G2020生・2019生
以前再履修者用>
授業コード 11H02-005
教員名 森山 幹弘
教員コード 100090
登録人数 19
回答数 15
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

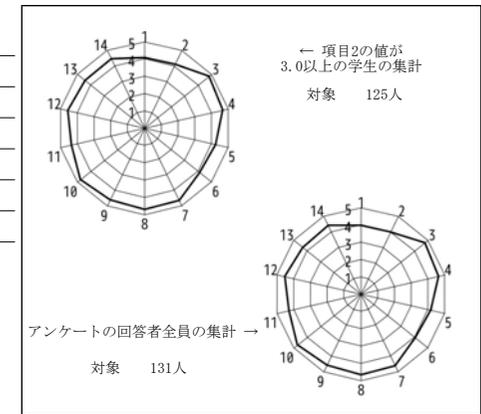


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この科目の目標は、インドネシア語の基礎文法の理解及び基本語彙の習得としていたが、毎回の授業の初めに行った小テストの結果とこのクォーターの最後に実施した定期試験の出来栄から判断すると、多くの受講者はこれらの目標に到達していたと考えられる。問の13番と14番の数値から、受講者自身がインドネシア語の基礎文法の知識を身に付けることができたと考えており、授業にも満足していたことがわかった。
- ②数値データと自由記述からこの科目の総合的な自己点検を行うと、授業の運営は円滑にできていたと思われる。文法について教科書を使って解説していく中で、受講者の集中力が継続しないような時には、例文などに関連するインドネシアの事情や関連する情報についてトーンを変えて話しをすることで、授業が単調にならないように努めた。そのことに対して、自由記述で肯定的な評価がされており、授業の運営が狙った通りに受けとめられたことが確認できた。
- ③今後の改善点としては、定期試験で一部の学生は基本文法を正確に理解していなかったことが判明したので、今後は学生の理解を一層高めるような工夫と文法の重要項目はしっかりと確認しながら授業を進めていくことが必要と考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と倫理問題4
授業コード 13D01-004
教員名 神崎 宣次
教員コード 103280
登録人数 371
回答数 131
回答率 35.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

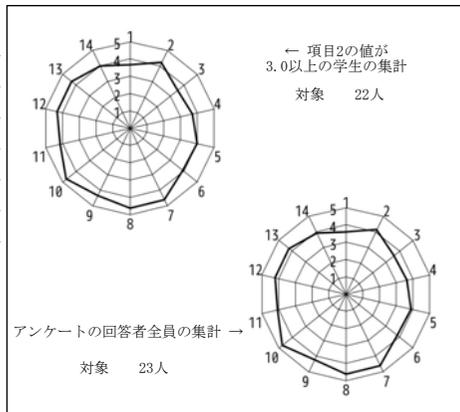


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 開講当初に設定していた目標については、おおよそ到達できた。また今年度に関しては、期末レポートの質が前年までに比べて向上したと考えている。これは主に参考文献や引用などの体裁面での向上によるもので、シラバスでも採点状の重要なポイントとして記載しているものであり、設定した目標を高い水準で達成したといえる。
- (2) 数値データおよび自由記述等を踏まえると、今年度のこの授業も問題なく実施されたと評価してよいだらう。
- (3) 今後の抱負としては、今年度の授業内容やレポートの書き方に関する指示を踏まえた上で、改善をおこなっていくことである。(1)で述べたレポートの質の向上は中位以上の学生に関するものであり、今後は下位の受講生における向上を目指していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報資源特論
授業コード 15P16-001
教員名 永井 英治
教員コード 018861
登録人数 30
回答数 23
回答率 76.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

図書館情報資源特論は昨年度まで共通教育科目「文化と情報」との相容れで開講されていたが、2021年度より司書課程向けに独立して開講されることになった。資格取得のための科目であるため、授業は火・金の5限目に設定された。第4クォーターともなると、5限の開講時刻はもう日没後であり、授業の終わりは午後7時を過ぎる。まったくの夜間開講と言ってよい。自由記述にも開講時間が辛いとあり、今後の検討が必要である。さらに私自身の反省にもつながるが、授業が終了時刻をオーバーすることが多々あった。これは説明を丁寧にわかりやすくしたことの反動であるが、わかりやすい講義は好評であったようである。

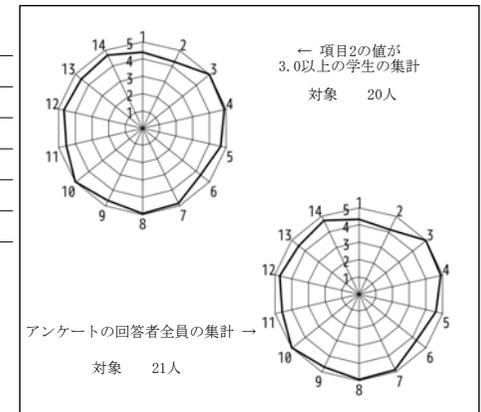
資格科目となって心がけたことは、わかりやすい説明により講義を理解してもらうことである。図書館や博物館と異なり、アーカイブズでは専門職の国家資格が整備されていない。そのため、司書や学芸員がアーカイブズ担当となることがあるので、そうした事態に備え必要な知識を伝えることが必要と考えたのである。しかし、司書の資格を目指す受講生には、アーカイブズへの関心はあまり高くないようである。履修前と履修後に授業内容への関心を示す数値が低いのは、私の技術が一方の原因ではあれ、アーカイブズへの関心が司書を目指す学生においてすら低いことを示すようである。

受講生の学習を助けるため、授業資料は詳細なものを作り、参考文献もかなり多く挙げた。とくに強調した文献については、質問に来た学生が数名いたので、実際に読んだ学生は少なからずいたようである。これは試験の解答からも窺えた。

今後はさらに内容を精査し、時間内に授業を終えるよう構成を考えていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報学 / Informatics
授業コード 48C33-001
教員名 後藤 邦夫
教員コード 016428
登録人数 30
回答数 21
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

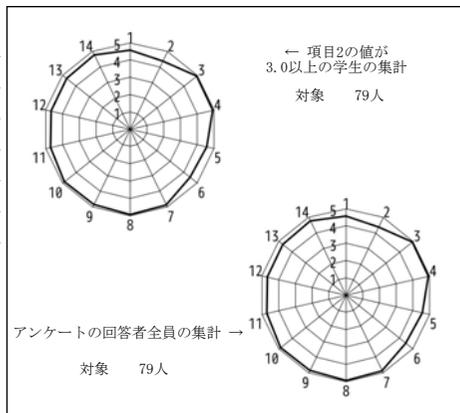
この授業は、2020年度まで2名の教員で担当していたので、今年度はじめて授業評価対象になった。当初の目的はほとんどの学生が内容に興味をもち合格レベルに達することである。受講者30名のうち1名は一度も出席しなかったのが不合格であるが、B以上の合格者が26名、Cが3名であった。したがって、当初の目的は十分に達成できたと言える。受講者は国際教養学部生、外国語学部生、数名の理工学部生であり、理工学部生以外は情報に興味はあるが授業前の知識が少ないと思われる。

アンケートは13回目の授業中に実施したので、その日の出席者21名はすべて記入したはずである。設問項目のうち4以上4.5未満のものは自己評価にあたる1、2、6、13で、他は4.5以上と期待以上のよい評価となった。自由記述は5件すべてが肯定的な内容であった。情報の基礎知識を持たない学生を対象にやさしく教えることを心がけた。また、遅刻を抑制するために毎回最初の15分にWebClassで予習小テストを実施した。予習課題、当日の復習クイズ、さらに最終回ではグループ発表を実施して、そのレポートを期末テストに代わるものと位置づけた。今年度は対面授業で、ほぼ予定通りに実施できた。Webブラウザだけで実行できるプログラミング体験やWindows/macOS/Linuxの端末での簡単な実行など、演習的要素も盛り込めた。

今年度をもって退職するので、今後の抱負はないが、いわゆる文科系学生にも工夫次第で情報の授業に興味を喚起できることがわかった。学生は特に人工知能の応用に興味があるようで、グループ発表のテーマにAIが多くみられた。理論的側面とプログラミングをとばしてAI応用の話を増やすことが今後の課題であろう。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と国際協力 / Globalization and International Cooperation
授業コード	48E05-001
教員名	吉田 信
教員コード	104481
登録人数	151
回答数	79
回答率	52.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

南山大学で初めて開講する科目ということもあり、受講生数、受講生の予備知識についてはまったく判断する材料がなかった。加えて、コロナ対応のためオンラインでの講義となり、当初予定していた講義スタイル、講義計画から大幅な変更を余儀なくされた。

こうした事情もあってか、最初の授業で講義の目標については時間を割いて説明をしてはいるものの、到達目標の理解が平均値4.59であり、次年度の課題として受け止めたい。

②数値データおよび自由記述を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

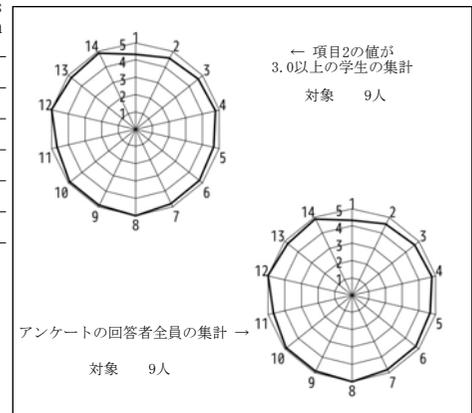
科目に対する総合的な評価としては、①で述べた急な変更にも関わらず全体的な講義の満足度が4.77であったことから、ひとまず今回の講義内容及び進捗で支障ないことを確認できた。自由記述においては、講義内容が多岐にわたる点、映像資料の活用、外部講師の招聘など肯定的な評価を確認できた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

次年度では、自由記述欄でのコメントを分析・検討し、さらに講義の改善に努めていきたい。例えば、履修登録者数が150を超える大規模講義ではあるものの、受講生からは授業中の学生同士での意見交換の場を希望する記述もあった。オンライン講義のメリットを活かしつつ、受講生の数が多い授業での学生間セッションを検討課題とすることなどである。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと国際経済 / Sustainability and International Economics
授業コード	48G06-001
教員名	平岩 恵里子
教員コード	100953
登録人数	13
回答数	9
回答率	69.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回は、経済学の知識がないと少々難しいテキストを使ったため、心配していたが、学生はよく取り組んでくれたと考えている。授業後に提出してもらったリフレクションペーパーからは、講義の目標は学生が理解し、講義を通じて達成できたと判断している。

②所属学部の平均値と比較して、劣っていた項目は、設問1, 3, 4, 7, 11, 11, であった。設問1はコントロールできないとして、設問3（講義の開始と終了時間）は、自由記述にあったように時間オーバーしてしまうことがあって、反省材料です。設問4（講義の構成や進行速度）についても、講義の構成にそった時間配分に心がけなくてはいけないと感じている。設問7（誠実さと真剣さ）については、残念な結果になった。設問11（学習意欲を引き出す）も残念な結果となった。

③残念な結果となった項目については自覚と工夫をしたい。時間管理と配分、構成や進行速度については、学生に無理を強いてしまうことのないように心がけること、学習意欲を引き出す工夫については、他の先生方に助言をもらおうと思う。誠実さと真剣さ、については、頑張ったと思ったが、しかし学生の求めるものと違っていただかもしれない。何をどうすればよいか、考え続けたいと思う。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト演習D
授業コード 44C28-015
教員名 今泉 邦子
教員コード 019505
登録人数 5
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当アドバンスト演習の目標は、①法学部の学生が通常身に着けていることが想定されるレベルの商法・会社法の知識を身に着けること、および②商法会社法の知識を論述問題等で応用できるようになること、でした。特に4クォーターでは会社の組織再編をテーマとしました。①の目標のために、法学検定ミドルの問題につき、教員が教科書の該当箇所を指摘し、解説を加えながら解きました。そのうえで、3年次生の最終クォーターであることから、会社法の重要判例の中から学生が興味を持っている判例を選び、研究報告をしてもらい、法学検定問題で獲得した知識が実際の裁判例ではどのように展開されているのかにつき、理解を深めてもらいました。②の目標のために、司法試験受験レベルの事例問題を、関連する判例を教員が解説し、当該事例問題に当てはめて分析をしてみた上で、答案を作成しました。いずれも受講者は熱心に取り組み、教員の解説をさらに深化させた内容の答案を提出したと評価しています。判例報告では、パワーポイントを作成してもらいましたが、パワーポイントの出来栄がクォーターが進むにつれてよくなりました。そのような機会を設けてよかったと思っています。

ひきつづきアドバンスト演習では、必要な知識を修得してもらうほか、調査する能力、報告する能力、議論する能力、文章を書く能力の涵養を重視いたします。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト演習D
授業コード 44C28-019
教員名 永江 亘
教員コード 103861
登録人数 10
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の当初目標については概ね実践ができた。コロナ禍での開催であったため、環境の変化に対しても学生は柔軟に対応することで、問題なく演習を実践できた。アンケート形式では無いものの、学生からはオンラインでの開催を求める声が多く、学生ニーズの変化を感じる。とりわけ、アドバンスと演習対象学生は、就職活動を強く意識して、自由な時間管理の下で、インターン等に参加したいとの欲求が強いと感じる。全学的な方針もあるが、今後はメタ社会における大学在り方として、このような制約の少ない形での演習の実践も検討して良いように思われる。もっとも、合同ゼミの実施やゼミ合宿などの課外活動を一つのモチベーションとして日々の学習目標を設定するという従来型のゼミの良い点は、コロナの環境を踏まえ、後退せざるを得なかった。次クォーター以降、状況に合わせて、従来の対面型の良い部分も再検討していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法特修演習IV
授業コード	44E04-001
教員名	倉持 孝司
教員コード	045237
登録人数	4
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

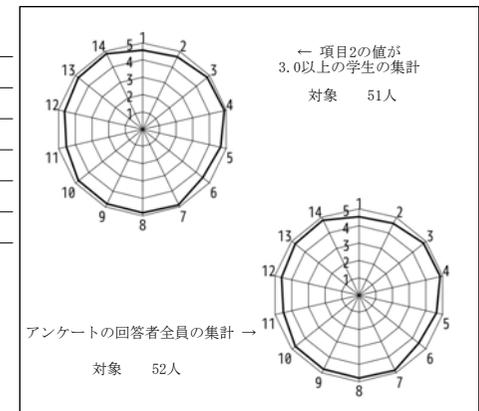
授業評価結果を踏まえた点検・評価

憲法特修演習は、司法特修コース用の科目であるが、「ロースクール、法学研究科で学ぶことができる法実践力、法理論の基礎を修得し、具体的な事例について、正確な事実の認識、法の適用、妥当な結論を明示できるようになる」というのが学習目標である。これについて、Q4では、Q3までの人権領域を中心にした学習を前提に、統治の領域を中心に学習した。その際、学習目標のうち、「法理論の基礎」学習に力点が置かれたが、各所で検討課題を通して「論述」することも重視した。「法理論の基礎」学習をさらに深めることによって、「論述」力も高まるであろうが、未だ十分とは言えず、今後の学習の進展に期待することになる。

受講生の感想としては、苦手で興味があまり持てなかった「憲法」につき、あらためて全体を学習する機会が持てたことで「憲法」に関心が持てるようになり学習の意欲が高まった、というものが複数あったことは幸いである。次年度は、司法特修コース科目につき、抜本的なカリキュラム改革が予定されている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教職入門2
授業コード	15A02-002
教員名	宇田 光
教員コード	100494
登録人数	64
回答数	52
回答率	81.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

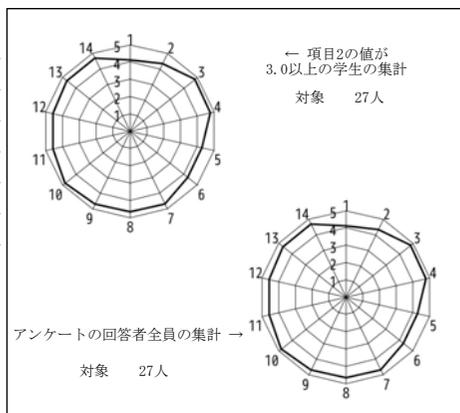
教職課程の必修科目であり、教職の基礎を学び学習を方向づけることをねらっている。主に1年生を対象としており、履修登録者数は64名、回答者数は51名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をし、後半では小グループでのプロジェクトを入れている。項目3から14の平均値は4.72、満足度を示す設問14の平均値は4.81となっている。ほぼ満足であるという回答を得た。

個別の自由記述では（a）良かった点として「それぞれの授業でレポートを書く課題があったことで、考えをまとめる力もつけられたと思う」「周りの人とコミュニケーションを取る機会が多くあった点」「穴埋め問題で学んだことを確認することができたこと」「学校教育のあり方、教員の立ち位置等、現役時代不思議と思っていたことがはっきりした」など。

一方、（b）改善すべき点については、「BRDの構想段階においてWeb検索が禁止となっていたけれど、あまり有効でなかったように思う。情報を整理して時間内に文章を書き切ることを優先すると、1番始めに書きたい情報は全て集めてしまったほうがやりやすいと感じた」「1回の授業で取り上げられる内容が少なく感じました」など。当初の目標はほぼ達成しているが今後は、BRDの進め方に関する提案なども参考にして、改善していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校カリキュラム論2
授業コード 15A06-002
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 42
回答数 27
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、教育課程に関する概念及び日本における変遷を理解したうえで、教育課程をめぐる今日的な諸課題を捉え、それについての自らの考えを述べるができるようになることを目標としている。これらは授業における講義とその感想及び感想交流、ミニテスト、レポート作成を通して達成を目指している。本年度は、学生は概ね教育課程に関する概念を理解し、また課題に関する自らの考えについて説得的に説明できる力量を身につけている。

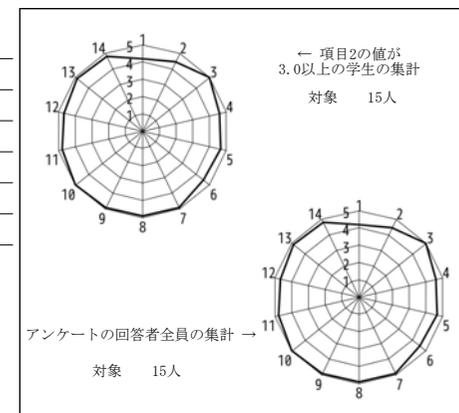
アンケート結果は比較的肯定的な評価が見られる。自由記述欄からは授業の感想交流や感想に対する教員からのコメントに対して積極的な評価が多い。一方で、到達すべき目標が十分に明確されておらず、学生自身が修得できた力量について自覚的でないこと、授業時間外での学習を十分に促せていないことが見て取れる。

以上をふまえて、今後は本授業で身につけるべきことを明確化した上で、学生同士での交流を含めた授業内容の確認の仕組み（授業終盤に学生同士が質問がないか確認する時間を設ける、簡単なチェックテストを行う等）を作り、知識の定着と授業時間外での学習の促進を行いたい。

毎年、肯定的なコメントが多いのは学生の感想へのフィードバックと意見交流である。これについては今後も改善しつつ継続して、学生同士が学びあう関係性を構築できるよう努力したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育概論4
授業コード 15A18-004
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 19
回答数 15
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価

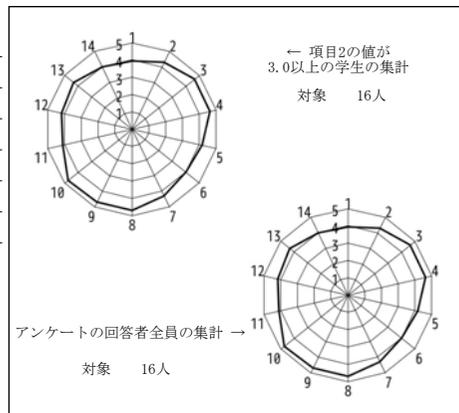
「教育の思想と歴史」という馴染みがないテーマのため、設問1「事前の関心」は4.2であったが、設問5「到達目標の理解」が4.67であり、設問13「授業の満足度」が4.80であったことから、授業目標を十分に達成できたと考えられる。対面受講者のみであったが、感染防止の観点から、対面ディスカッションを避け、チャットを利用した。むしろオンラインよりも双方向性が欠けると心配したが、設問7「教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ」が4.93、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」が4.93であったことから、教員の熱意と工夫が伝わっていたことがうかがえる。自由記述でも「五島先生の真剣さが伝わる授業でした。授業は退屈に感じる事がなく、わかりやすかったです」「対話的な授業でした。」「授業のスピードが適切で、そこまで生徒を圧迫するような課題もなく適切だったと感じる。メモを取ることでテストにも活かせるようにするなど、授業を聞く体勢を整えることもできた。」など肯定的意見が寄せられた。

2. 今後の改善点・抱負・方針

設問3以降はすべて4.6以上であったこと、自由記述に改善要望がなかったことから、授業運営は適切だったと考えられる。今学期は、「学修成果の可視化」の観点から到達目標に合わせた課題を設定し、Web Classで細かく評価の開示を試みた。自由記述で、「ディスカッションや小テスト、小論文があったので授業の内容が定着しやすかったです。評価もしっかり点数化されていて、基準が明確だったところも良かったです。」という意見がみられたように、学生にとっても取り組みやすかったことがうかがえる。今後も、学生が一つ一つの課題を通じて成長実感を得られるよう工夫を重ねたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法1
授業コード	15A20-001
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	26
回答数	16
回答率	61.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

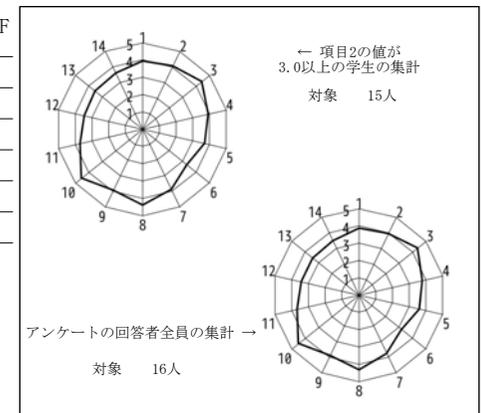
教職を目指す学生の必修科目であり、例年、この時期から教員採用試験に向けて取り組む必要があるため、今年度も教職教養の内容を加えて指導した。また、教員採用試験の過去の小論文課題をレポートとして課したり、授業毎に指導内容に関連した課題を与えて教員採用試験の面接準備となるようにしたりしたが、教員免許取得だけを目標としている学生にとっては負担感があつたと推測される。

項目3から項目14の評価の平均は4.38と、昨年度と同じ授業の平均4.02より、高い結果となった。この理由として、今年度はQ3の期間こそ、昨年度と同様にzoomによる授業であったが、Q4の期間、対面授業で実施できたこと、授業評価の対象が3時限から2時限になったこと、授業時間が90分から100分となりグループ討議の時間が確保できたことなどが考えられる。

今年度、授業評価を2回の授業で繰り返し学生に指示したため、昨年度の40%台の回答率を60%台に上げることができた。さらに回答率を上げるためにも、学生がより満足する授業を工夫してまいりたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]1
授業コード	11A14-001
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course goals of learning and practicing reading and speaking skills was clearly mentioned in the first class and were the first two activities of each class.

Although the numbers showed that there were things that were fairly good that had scores between 4 and 5 the numbers also showed that there were things to improve (3.5-3.99): taking into consideration the level of understanding of the students and effective use of course materials (3.88), appropriate structure and speed of each lesson (3.81), sincerity and seriousness of the teacher's attitude toward class (3.75), appropriate guidance and information to motivate students to learn (3.69), students understood the goals of this class (3.63), and overall satisfaction with the course (3.50).

Finally, the numbers showed that there were things that required a good deal of improvement (less than 3.5): sufficient opportunities for questions and consultation and pre- and post-guidance for assignments (3.44), gained new knowledge/skills or deepened understanding (3.44), felt getting stronger towards the goals of this lesson (3.19).

The free descriptions were fine:

"The teacher was able to deeply understand the meaning of the easy English songs" and "I enjoyed learning English."

In the future, there were several things that were weak that needed improvement, but the main thing is to make sure students know about the course goals better.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ<全>8
授業コード	11A14-035
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

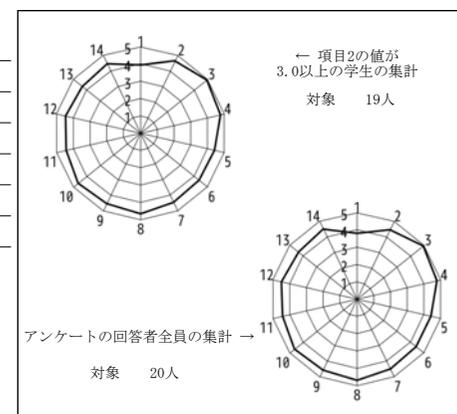
The goals for this course included improving conversation skills, giving 3-5 minute presentations, maintaining a conversation for 3-7 minutes, being able to use general reading skills, and reading an average of 5,000 words a week in English.

Everyone was able to meet the goals for presentations and conversations. Everyone also did a good job with extensive reading reports, especially after the first report. I do suspect that some students didn't read the minimum word level (5,000 words), so next year we may use M-Reader to make sure that everyone does this. Overall, the course met most of the goals we had at the beginning of the term.

Next year I hope to increase the number of opportunities for practicing conversation skills in class. This year it was challenging as many students missed class due to the COVID pandemic, so we didn't get to practice all the skills together. Next year, I will put these exercises on WebClass so it is easier for students who join by Zoom to complete these exercises and improve their skills.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリーディング<全・T>13
授業コード	11A24-013
教員名	石崎 保明
教員コード	102444
登録人数	21
回答数	20
回答率	95.2%
休講回数	1回
補講回数	1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

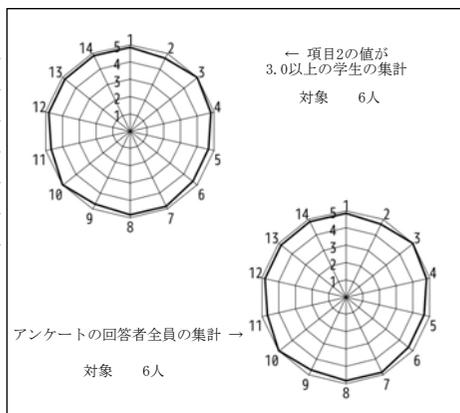
今回授業評価を受けた科目は、英語読解力を育成する選択必修外国語科目です。英文を楽しく読み他者に口頭・英文で簡潔に伝えることを目標にした多読課題と、学術的文章の特徴を押さえて読み進めることを目標とした精読課題、を両輪とした授業を計画・運営しました。同科目は、受講生の所属学科も学年も異なることから、多読課題では各自のペースで取り組めるよう配慮し、テキストの内容だけでなく英語の豆知識的な話題も交えながら丁寧な説明を試みました。

項目4-14のすべての項目で回答者の90%以上から5または4の評価を受けた一方で、前回はなかった当該項目で2以下の評価をつけた受講生が2人(3項目)いたこともあり、今年度Q1で授業評価を受けた同趣旨の科目と比べると、わずかではありますが評価が下がりました。他方、前回の評価で最も低い評価であった項目6が0.34ポイント、満足度を尋ねた項目14もわずかではありますが上昇しており、前回の改善方策に挙げていた、到達目標を授業内で明確化し振り返りの機会を授業中に設けたことが上記項目の評価改善にも繋がっていると考えます。

自由記述欄では概ね好意的な意見ではありましたが、中には「フォーマットがしっかりして安心して取り組めた」という意見もあった一方、「良くも悪くも堅実」という意見もあり、学生個々の表情にさらに目を配りながら授業運営を心がけたいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語VIII<全>1
授業コード	11B08-001
教員名	OLIVERO, Regis
教員コード	104119
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal I was setting for this group of second year students was double: I wanted them to be able to express themselves more and to acquire a certain autonomy in the way they were studying. Without focusing only on oral expression, I made sure to include a speaking tasks in every chapter of the manuel that we went through.

Over the course of Q4, I notice that most of the students made substantial progress and also gained self-confidence in oral and written expression tasks that they were assigned. The final work that they had to do consisted in an essay and a voice-recording oral exercise that they had to submit before a given deadline. they all performed well and came up with creative ideas which is another point I wanted to focus on.

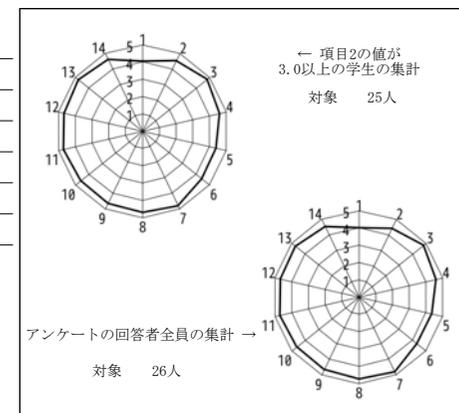
They also greatly improved their time management and proved that they could organize themselves quite effectively.

As the results of the enquete show, they seemed to have adjusted quite well to that way of working and were satisfied with it.

I also made substantial time for grammatical explanations and communication, which I believe had a positive effect on their learning process.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語IV<E・B>1
授業コード	11G04-004
教員名	陸 心芬
教員コード	101225
登録人数	30
回答数	26
回答率	86.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4の授業目標であった初級レベル基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業評価設問項目の平均値が4を超えており、評価にそれが現れていると思われる。

Q4の対面授業では、先生と学生が直接コミュニケーションをとりながら指導及び学習ができた点が学生の伸びに繋がったことが再確認できた。

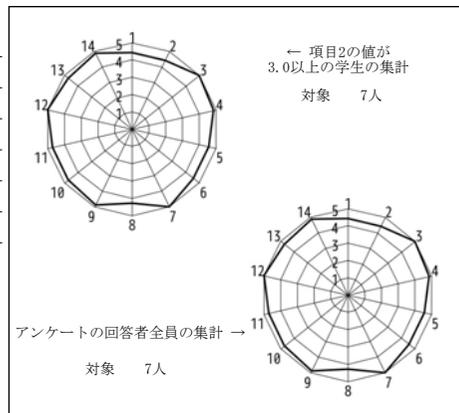
学生の自由記述欄の良かった点としては、「授業プリントの内容が充実」「会話練習」「文法説明がわかりやすい」「楽しい、面白い」「何度も繰り返し練習するので、知らず知らずのうちに身につけていること」「先生のやる気」「みんなで声に出して読んだりして間違いをお互いで確認し合うこと」「自分が理解できないときでも先生がいつも熱心に教えてくださるところ」「韓国語を学べること」「先生がミスがないようプリントを確認してくれたこと」などがあつた。

改善すべき点としては、「復習の時間が長すぎること」「授業の理解度が低い人に合わせていたので、その時理解できていると少し暇だった」の意見があつた。

改善点においては今後工夫するつもりである。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)2
授業コード 11L17-002
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 8
回答数 7
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

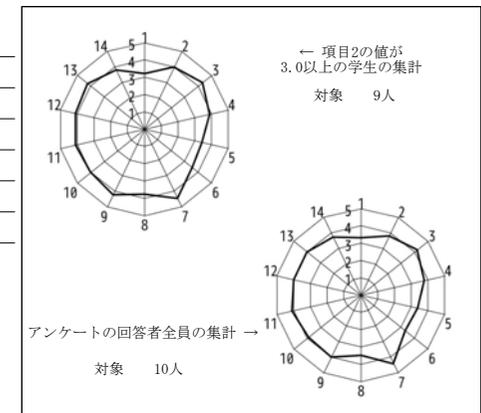


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、留学生が、多くの情報の中から必要なものだけを抜き出した
り、まとまった文章を読んで内容を正確に理解したりした上で、自分自身の考
えを日本語で表現できるようになることである。授業評価の集計結果と実際の
到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ(4.76
)から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問4(授
業の構成や進行速度)、設問7(担当教員の授業に取り組む姿勢)、設問9(学
生の理解度への配慮、教材の適切さ)、設問14(全体的な満足度)などの項目
で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメント
を読んでも、「全部よかった」「学生の学習意欲を引き出す」「講義はわかり
やすい」「言葉も覚えだし、日本の生活や歴史、文化や漢字など多くのこと
を学んだ」「先生は面白いpptを作る」などの評価が多く、受講した学生たち
の満足度の高かったことがうかがえる。ただ、設問8(ネットワーク環境)だ
けは「4.29」と低めであった。自由記述欄にも「声が聞き取りにくいことがあ
った」とのコメントがあった。来学期以降もオンライン授業が続く場合は、常
に教師の声が学生にきちんと届いているかを学生の表情や反応などから確かめ
、教師側の設定の問題であればすぐに対処するよう心がけていきたいと思っ
ている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触6
授業コード 13A02-006
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 29
回答数 10
回答率 34.5%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業では、日本社会の歴史課題を取り上げ、主体的な関与を養うという
目標に対して、学生の多様性を重んじた自由討論、課題設定により資料の読み
取り・分析力の形成を試みた。また学生なりの事実関係の発見や解釈、分析の
力を形成させるために、毎週キーワードの自主調査、分析課題を課して提出物
を定め、教員からそれへのフィードバックを行った。

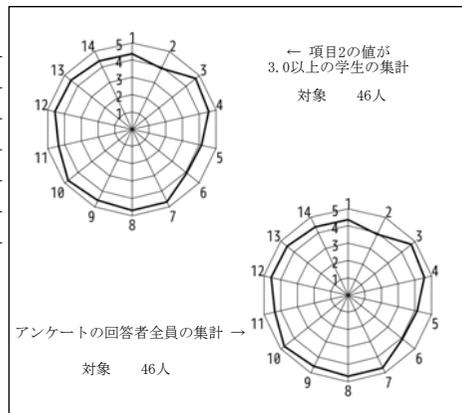
得られた授業評価は高得点から順に、#7 教員の真摯誠実な態度4.40点、
#11 学習意欲を引き出すための、積極的な授業参加促進、自主的学習をさせ
る指導、情報提供 4.10点、 #9 教材、視聴覚など効果的な資料 4.0点、
#12 課題、実習等に対する事前・事後指導 4.0点、 #13 授業で新しい
知識を得たり、理解が深まった 4.0点、 となっており、自由記述にある「
ビデオ教材」「資料の多さ」「グループワーク」「主体的に関われた」との言
及にもあるように、日本社会における異文化課題について自主的な関与、資料
分析、情報提供は達成されたと考えられる。

一方で、#6 力がついてきたという実感 については、学生の個別の提出物
にも「今後一層」「これから自分で調べて」などと将来の努力に対する言及が
多く、点数も3.30点と低かった。#13が高得点だから良しとするか、さらに突
っ込んで #6を実感するにはどうすればいいのか、講義型の授業では今後こ
の部分を考えていきたい。

補講は、映像資料を欠落なく視聴するために連続開講する必要がある、後の授
業を休講という形にしたものによる。今後とも多様な資料および設定を工夫し
、学生が楽しみながら異文化とのかかわりを深めるための授業へつなげたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解6
授業コード 13C01-006
教員名 丹羽 牧代
教員コード 055715
登録人数 68
回答数 46
回答率 67.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

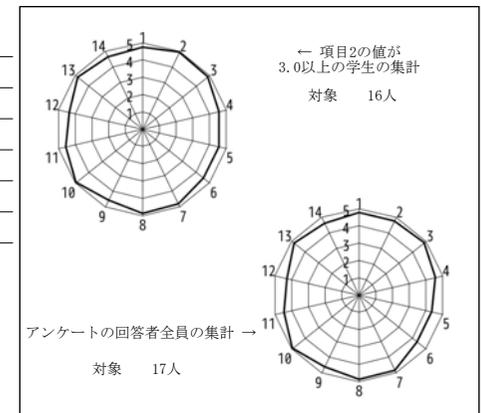


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、1年生の受講者が半数近くを占め、2年生まで合わせると3分の2を超える登録となった。これを踏まえて授業内容は例年より若干修正を行った。そのことも踏まえて以下3点を述べる。(1) 到達目標とその程度 評価としてはおおむね高かった各項目のなかで、目標を達せられたかたどうかという点についての問が低くなっている。これは知識伝達ではなく考察を伝えるあるいは、学生自身が考察をするというタイプの内容に、まだまだ慣れていない学生が多かったことにも関連するかもしれない。しかし、それを見取って、授業デザインを工夫していくのは教育側の責任であるので、まだまだ足りない部分が多かったとも感じる。(2) (1)と関連していくが、内容的なものについて時代に合わせた改良の余地があるかもしれないとも感じる。言語文化についてあらたな見方ができるようになるという大きな目的には変わりがなく、それはレポート内容等や学生の授業内応答からも手ごたえがあるが、ある視点を講義するとあまりに素直にその視点を飲み込んでしまう学生も散見されるため、留意が必要である。(3) 多様な見方を涵養するための講義内容であるのだが、「言った通り」にしか応答できない学生の増加や、しかも学年が低いとその傾向が強くなるということをも踏まえて、次期はまたいくつかの仕掛けを工夫しなければならないと考えている。受講態度や状況等は例年とても良く、非常に集中度も高いので、学生の意欲を生かしながら、あらたに内容構築する部分を考えたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学演習B
授業コード 12D11-001
教員名 笹川 慶
教員コード 103190
登録人数 31
回答数 17
回答率 54.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

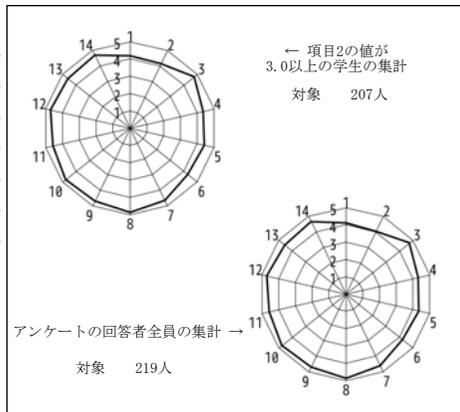


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. アンケート項目番号5と6において、開講授業全体ではそれぞれ4.16、4.08ポイントに対し、本講義ではともに4.35ポイントと比較的高い値であった。また、学生のレポートの内容から、おおむね目標に到達していたと考えられる。
- ②. アンケート項目番号3-14における開講授業全体の平均値は4.40ポイントであったのに対し、本講義では4.63という高い値を得られた。これについては素直に評価したい。その中でも、項目番号13で高い値(4.82ポイント)を得られたことに嬉しく思う。
- ③. ①で述べたように、アンケート項目番号5と6において本講義は開講授業全体のポイントに比べて高い値を示した。しかしながら、本講義内では比較的低い値であった。また、アンケート項目番号12は最も低い値を示した。したがって、これらの改善を当面の課題とする。そのため、次年度は到達目標と関連の深い内容をより明確化するために授業内容を更に精査し、そこへの時間を増やしていきたい。また、授業時間内やWebclassで質問や相談の機会をより多く設けるように授業を設計していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境3
授業コード 13D02-003
教員名 加藤 孝基
教員コード 104117
登録人数 510
回答数 219
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

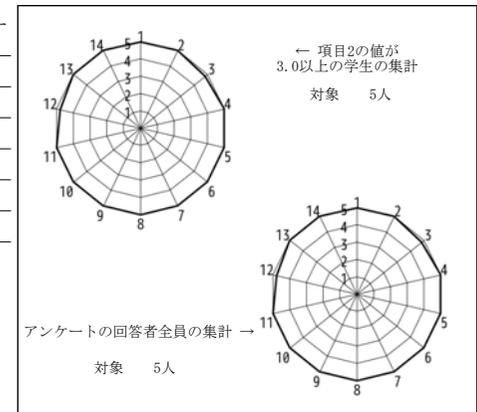


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義では、身体メカニズム、運動学習および発育発達について理解していることを到達目標とした。受講者が500名を超えたことからzoomを用いたオンライン方式となったため、受講者の学習効果、集中力維持等を常に意識して講義する必要があると考えた。より身近でキャッチーな話題を取り入れたり、学生が退屈しない講義構成を行う等の工夫を行った。毎授業後に設けた感想や最終レポートの出来からは、概ね目標を達成できたと考えている。
- ②各授業の初めに、前回授業で挙げた質問・疑問について学術論文等を引用して回答する時間を設けた。可能な限り多くの質問に回答するよう努めたが、それを良かった点として挙げている学生が多かったようだ。一方で、少数ではあるが質問回答の時間が長かったことを改善点として挙げる声も散見された。オンライン授業では、学生の反応が見えないため講義中の雰囲気を感じ取ることが出来ないが、上記意見があることも念頭に置き、次回からの講義に活かしたい。また、授業レジュメの配布を希望する学生がいるようだったが、全てのレジュメを公開しているため、こちらの意見は解決できていると考えている。
- ③本講義では、学生の今後の人生に生きる知見を分かりやすく伝えることを第一に考え、授業展開してきた。オンライン授業のため一人一人と目を合わせて話すことや講義の雰囲気を感じ取ることが出来なかったが、この方式だからこそ学生は質問等を行い積極的な授業参加が出来たのかもしれない。今後も、学生目線に立ち、面白く、為になる授業を展開していきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(健康スポーツ)ストリートダンス
授業コード 14E04-009
教員名 飯田 祥明
教員コード 103610
登録人数 19
回答数 5
回答率 26.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の目標は「ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる」「リズムによってダンスを楽しめるようになる」「グループでダンスルーティンを作れるようになる」の3つであった。概念の理解については、第1回の授業にてダンスやリズムについての講義を実施し、今回は全員出席であったため理解度はとても高かったように感じる。ダンスを楽しむ姿勢については、自主練習の時間にも積極的に練習をこなす姿が多く見え、踊ることへの抵抗感がほとんどの受講生で取り払われたように感じる。当初はグループでのルーティンづくりを課す予定だったが、受講生の特性を見て個人での作成も認めた。結果として個々人の学習がスムーズに進んだと感じられたので、次回以降もこの形式を継続したい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
回答率は30%弱と低かったが、数値データは非常に高評価であった。基本的な動作から高難易度の動作まで幅広く取り上げたことに対する肯定的な意見も得られた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本来ダンスはハイブリッド形式の授業を展開しやすいスポーツであるため、オンラインでも受講できるような形式を模索したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人文地理概説

授業コード 22C05-001

教員名 岡本 耕平

教員コード 049502

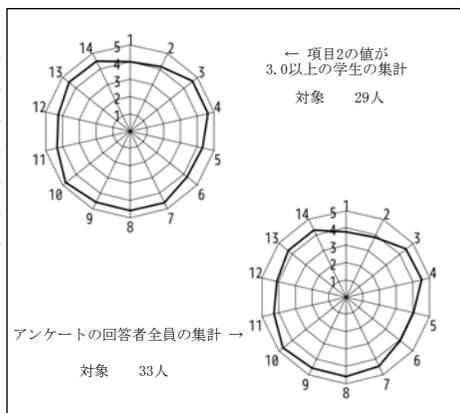
登録人数 114

回答数 33

回答率 28.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設問5と設問6のどちらの評価も全科目平均を下回った。この原因の一つとしては、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」の評価が、全科目平均より低かったことにあると考えられる。興味がなく履修した学生に授業によって興味を抱かせることができなかったということであろう。一方で、設問11の評価は、全科目の平均以上であったので、適切な指導はあったが、それでも興味を抱けなかったということであろうか。いずれにせよ学生によって評価が大きく分かれていた可能性はある。
- ②自由記述の設問15「この授業の良かった点」に対しては、「とても楽しく授業を受けることができた」といった肯定的な記述が計8つあった一方で、設問16「改善したほうがよいと感じた点」については、「資料の印刷が薄くて、見にくいこと。」「かなり前の方の席でもホワイトボードに書いていただいた文字がほとんど見えなかったので、パソコン上で打ち込む等の方法で見せていただけるとありがたいと思いました。」の2点であった。したがって、選択評価で低評価をした学生は、設問16での意見表明はしていないが、おそらく教え方よりも、授業の内容に興味を持てなかったのだと推測できる。
- ③上記の設問16での指摘は重要であり、今後は、ちょっとした板書もやめて、コンピュータ画面に表示させようと思う。授業内容に興味をもてない学生が一定割合いることに対しては、内容の変更が必要であるが、一方で、上記の設問15の自由記述にあるように、内容に興味を持つ学生も一定割合いるので、難しい問題である。とはいえ、新しい時代に即した内容を取り入れていくことは今後も行いたい。設問15の回答の中に「コロナ禍の状況も検討しながら授業で扱う内容が再編されていた点。」という意見があったので、学生もそれを望んでいるであろう。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の哲学

授業コード 22C09-001

教員名 長滝 祥司

教員コード 100764

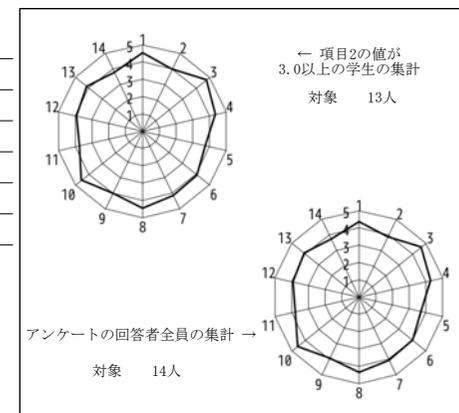
登録人数 40

回答数 14

回答率 35.0%

休講回数 2 回

補講回数 2 回

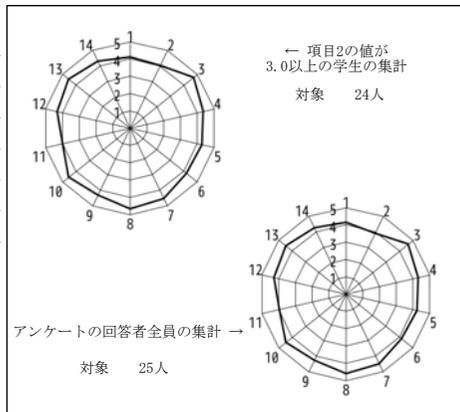


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業の目標と到達については、規定回数の質問の内容やレポートの内容から斟酌することができた。概ね到達できていると考えられるが、個々の学生をみると、到達度の高い者とそうでない者とに分かれた。
- ②ほとんどの項目で4を越えているのでその点は満足しているが、5「この授業の到達目標を理解することができましたか」14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」がともに、3.71とやや低い数値が出た。科目の性質上抽象的な概念を理解してもらうことも多く、その点はビデオ教材などを用いて理解の助けとなるようにした。だが、ひとによっては、それでまだ十分でなかったと感じる者がいたということである。質問と成績を連動させたためか、12で1をつける者がいたことは反省材料である。質問は自由にしてもいいと言うことをアナウンスしていたが、それが一部に伝わっていなかった可能性がある。これについては、配付資料などに書いて、読むように促すなどして対応することとしたい。
- ③5「この授業の到達目標を理解することができましたか」14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の項目でさらに高い評価が得られるよう、個々の学生に細かく対応していこうと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用哲学A
授業コード 22C19-001
教員名 竹下 至
教員コード 103135
登録人数 65
回答数 25
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について

開講当初に設定していた到達目標は、(1) 死と生についての理解を深める、(2) 様々な哲学的議論について知る、というもので、アンケートの回答と小テストおよびレポートの結果を見るに、概ね達成できたように思われる。

②について

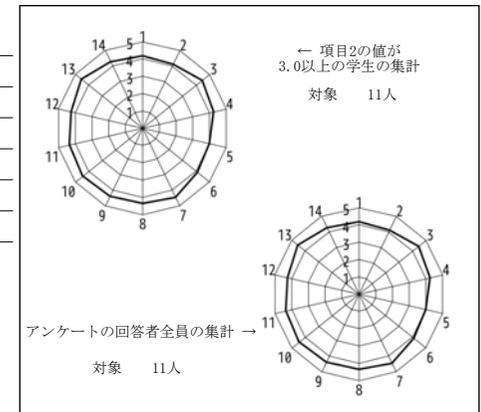
・扱ったテーマに対してある程度学生の関心を引くことはできたものの、自主的・主体的な学習を促すには足らなかったと感じられる（設問2）。
・スライドが多すぎるといった意見があったが、これは連続する2回分を1つのファイルにまとめていたため、そのように感じた（錯覚した）のではないかと考えられる。ただ、実際に多いかどうかはともかく、そう感じさせないようにする工夫も必要だという気づきを得た。

③について

単に学生の関心を引くだけでなく、そこから具体的な自主的学習に繋がられるような工夫を試みたい。また授業内容以外でも、教室の空調や照明等、良好な学習環境を整えることも忘れないようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と進化
授業コード 22C32-001
教員名 小田 亮
教員コード 104486
登録人数 38
回答数 11
回答率 28.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

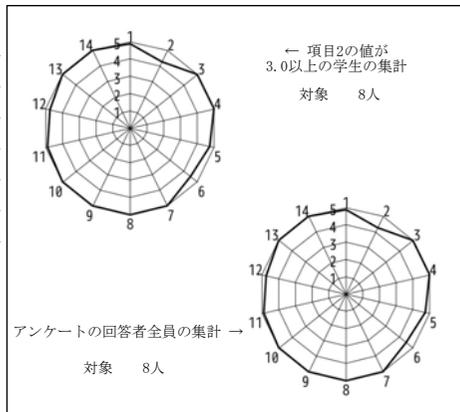
①到達目標は、1. 生物の進化と、その主要な要因である自然淘汰について正しく理解できる。2. 遺伝と行動の関係について正しく理解できる。3. 血縁淘汰理論について正しく理解できる。4. 文化が人類の進化に果たした役割について理解できる。であった。十分に到達できた。

②正しい評価は、評価対象の価値や意味について正しく理解できる場合にのみ可能である。学生は授業内容の価値や意味について分からないからこそ授業を受けているのであり、またその価値や意味が理解できるのはしばしばずっと後になってのことであったりする。つまり、授業について正しい評価ができるのであればそもそも授業など受ける必要がないということだ。よって、学生による授業評価はそれ自体が矛盾したものであり、数値データを出してみたところで何の意味もない。

③感染拡大防止の観点から、受講学生との対話があまりできなかった。今後の状況次第ではあるが、可能であれば学生の理解度をその都度確認しつつ講義を進めていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)
授業コード 22C48-001
教員名 門脇 誠二
教員コード 102240
登録人数 15
回答数 8
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

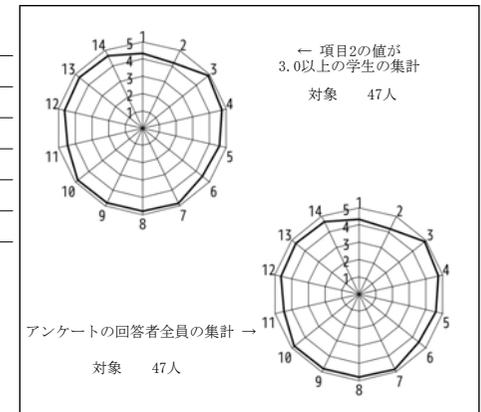


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドを印刷し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
- ② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。今回はすべてオンラインで講義を行ったため、できるだけ毎回、講義に関する実物資料（考古遺物やそのレプリカ、関連文献）を回覧してもらおうようにした。それが良かったという学生からのコメントをいただいた。また、動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。
- ③ 今回から100分授業で、2時限続けての授業であったため、単調だと学生にとっても集中力が欠けると思う。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論
授業コード 23C19-001
教員名 伊藤 修毅
教員コード 103837
登録人数 89
回答数 47
回答率 52.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

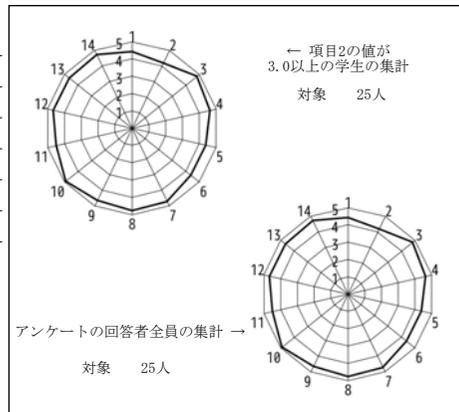


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① まずは、100分×2コマ続きで7日という新しい形態での講義の「感覚」がわからない中、手探りで講義を設計しました。講義中には、想定より時間にゆとりがあり、「予定にない話」もずいぶん取り入れましたが、到達したいところには十分に届いていたと認識しています。
- ② 数値データ、自由記述ともに、おおむね良好な結果をいただくことができ、安心しております。1つめの質問より、そもそものモチベーションのない学生も履修していたことがわかりましたが、そういった学生も含めて、良好な結果を得られたことはよかったですと考えます。
- ③ 今年度は、対面講義の形で実施されたが、いつ「リモートに変更」ということになっても大丈夫なようにしておく必要があるという気持ちが私自身の中には強く働きました。半分くらいの講義を終えた時点で、「この内容ならリモートでもよいのでは？」というご意見を学生から頂いたのですが、それはその通りだと認識しています。来年度、どのような状況で、開講を迎えるのかまったく予想ができませんが、常に臨機応変に対応できる準備は続けたいです。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 37
回答数 25
回答率 67.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

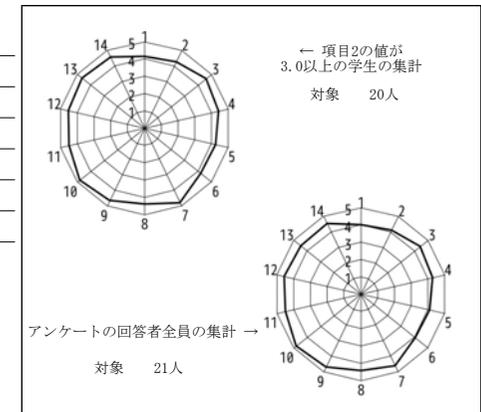


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体としては、比較的良好な評価をいただけたようである。今回の授業は、受講生が非常にまじめに取り組んでいる雰囲気が伝わってきたこともあって、私自身も比較的良好な授業を行えたと思う。ただ、コロナ禍ということもあり、学生とのやり取りが少なかったところが残念である。授業の終わりに授業へのコメントを書いてもらうなどして、なるべく学生から質問を引き出し、それに答えるようにはしたが、できれば、今後は状況が許せばグループでの討論等も取り入れていきたい。結果にあった到達目標に関する項目が低かったのは、毎回、課題としてあがってきているが、いろいろなことを網羅的に解説する授業であることもあり、目標を明確にしぼることは難しい面もあるが、まずは私自身が何を一番伝えたいかということを明確にしていく必要があるかもしれないと感じた。また、自由記述にもあったように、2コマ続けての授業になるため、もう少し時間を取ったりするなどして、学生が過度に疲れないよう工夫をしていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会言語学
授業コード 24C53-001
教員名 安井 永子
教員コード 102889
登録人数 55
回答数 21
回答率 38.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度：

評価項目6（平均値4.05）と13（平均値4.48）からは、多くの受講生が授業の到達目標に向けて力がつきたことや、授業を通して新たな知識を得たことを実感していることがうかがえる。また、課題や試験結果からも、受講生がトピックに関する理解や関心を深めたことが見て取れた。よって、目標は概ね到達できたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

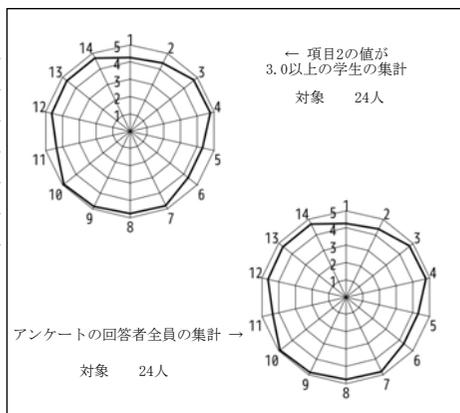
授業を通して、できる限り頻繁に受講生の理解度を確認しながら、質問等には丁寧な答え、明解な説明を行うことを心がけていた。授業内では必ず練習のためのアクティビティを取り入れ、受講生が自ら考える機会を設けていた。また、課題へのコメントも一人一人に対して行い、授業内での解説も行った。アンケート評価項目9、11、12、14での平均値が4.5以上であったことや、自由記述のコメントより、それらの取り組みが、受講生の理解を深め、意欲を高める上で効果的であったと考えられる。

③今後の改善点、今後の抱負、方針：

上記を踏まえ、今後も同様に、受講生とのコミュニケーションを通じて、受講生の理解の度合いに合わせた指導を行うことを心がけたい。一方で、授業の進行が遅かったとのコメントもあったため、説明が冗長になりすぎないように適切なスピード感も心がけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language E3
授業コード	31C15-003
教員名	吉田 江依子
教員コード	103084
登録人数	39
回答数	24
回答率	61.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



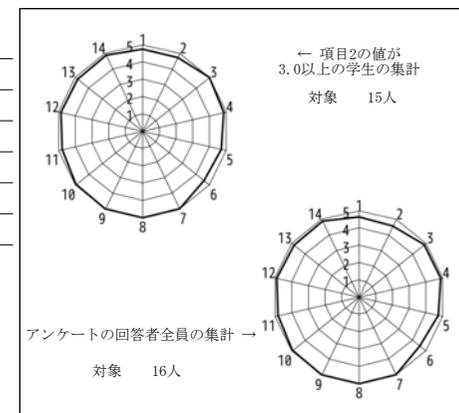
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義は、身近なことばの特性から始め、最終的には生物学的観点から人間言語の特性を捉えることを目標としている。シラバス通りに授業を進めることができ、開講当初に設定した目標と到達については、ほぼ達成することができたのではないかと思います。②数値データから、項目3～14の平均値が4.66と本講義に対する評価は比較的高かったのではないかと分析する。特に、教員としては、設問13、14について4.67の評価を得たことは、大変良かった。これらの設問について、回答者の7割近くが5の評価をつけてくれた。授業に対する満足度が高かったことは、大変良かったと思う。また自由記述から、資料について、良い感想を持ってくれた学生が多いことが分かった。また、一つの授業の構成について、毎回、前回授業の内容に関するグループディスカッション⇒講義⇒講義の確認のための小テストをルーチン化したが、これについても、分かりやすいとの意見をもらっているので、良かったと思う。

③次年度についても、今年度の資料をベースに、自身で足らなかったのではないかと思います。資料をさらに加えることによって、よりよい資料を作成したいと思います。ただし、文字の大きさについて、大きくしてほしいとの要望も出ていたので、その点については、次年度の参考にしたいと思います。また、授業構成についても、今年度で用いた構成を次年度にも生かしたいと考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IID1
授業コード	32A17-001
教員名	古川 亜矢
教員コード	101179
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

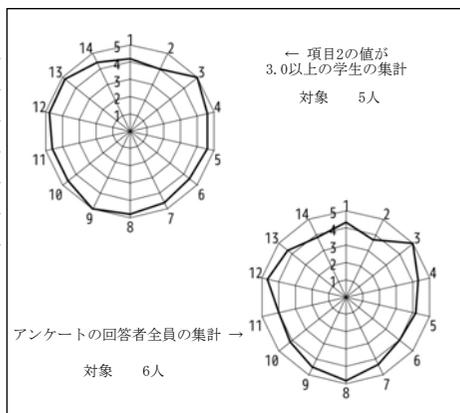


授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価報告文：全体的にまずまずの評価を得られたことから、授業目標は概ね達成できたものと判断しています。なかでも、新しい知識の習得と理解の深まり（設問13(4.81)）と全体の満足度（設問13(4.88)）で、比較的高いポイントを得られて安心しています。この他に、教員の授業に取り組む姿勢（設問7）、声の聞き取りやすさ（設問8）理解度への配慮（設問9）で5ポイントという高評価を得られたことを大変うれしく思います。自由記述欄には、分かりやすかった、授業中の添削がよかったなどの他、単語テストのおかげで語彙を覚えられた、全体の復習ができた、練習問題がたくさんできた、などのコメントがありました。語彙力をアップさせることと復習をしながら多くの問題にチャレンジすることがこの授業の目標でしたので、それができたと言ってもらえて良かったです。自由記述欄の改善点に、少しペースが早いときがあった、とのコメントが一件ありました。16人中15名が進行速度の設問で5をマークしていて、記述欄にもペースがゆっくりで良かったとのコメントがあったことを考えると、進行速度はさほど問題なかったと思います。ペースが早いと感じた学生はおそらく理解が追いついていないところがあったと思います。問題を解いているときに机間指導をしていたのですが、その際、もう少し長めに指導をする時間を設けてもよかったのではないかと反省しています。来年度からはこの授業の担当はなくなりますが、別の授業に今回の反省点を生かしたいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの政治
 授業コード 32C22-001
 教員名 中川 智彦
 教員コード 102940
 登録人数 20
 回答数 6
 回答率 30.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

不可となった受講生1名（出席率7割）以外、期末筆記試験の素点で60未満はなく、平均79点（素点一桁の1名を含む）、最終評価でも90点台が4名となり、受講生全体の目標到達度に関しては、比較的高いものとなった。これは、学生自身の努力と教員に対する協力の賜物であり、感謝している。

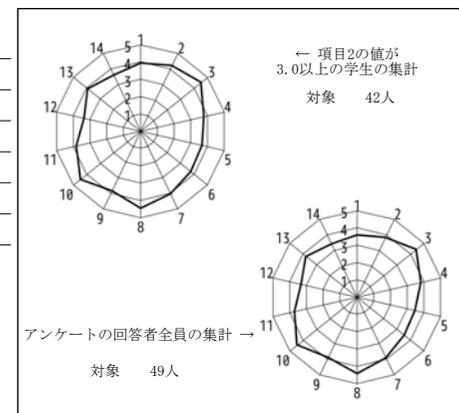
授業評価自体については、回答時間を今年度は授業中に取ったつもりであったが、回答してくれた学生が極端に少なかったのが、残念である。評価は、項目3～14の平均は4.35あり、低くはなかったが、14の全体としての評価が4を下回っていた。

回答者6名中1名が8と12以外の評価が1・2ポイントと厳しいものだったことが直接的な要因であるが、6（自分の力が付いてきた自覚）と11（学習意欲・積極的参加の引き出し）の評価が4と低めだったことから、14の総合評価で厳しめになったと推測している。

6と11と14（総合評価）が低くなったのは、テーマが難しいと自信を得られない傾向もあるようで致し方ない面もあるが、わかりやすいレジュメや資料で復習ができた、「グループワーク等で自主性を高め、、、分からない部分を丁寧に教えて、、、生徒の意欲を引き出し、、、」してくれた、「映像をみることができ、、、勉強になり、視野を広げ」られたという声を大切にしながら、次年度以降は、さらに「具体例などを入れ」とともに、マイクの使用を忘れないようにしていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス文学史
 授業コード 33A05-001
 教員名 永田 道弘
 教員コード 101176
 登録人数 112
 回答数 49
 回答率 43.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

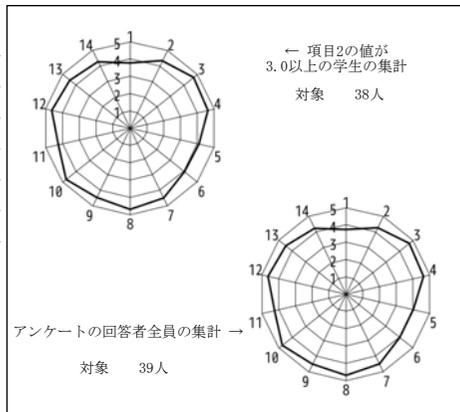
フランス文学史の講義であるが、フランス文学を専門としない学生も多く、ヨーロッパ文化をより立体的に理解してもらうために、文学以外の諸芸術ジャンル（建築、絵画、映画etc.）も授業に取り入れた。これに関しては好意的に受け止める意見が多くあったが、残念ながら、なかには文学以外の話題を「無駄話」ととらえる視野の狭い意見もあった。「教養」とは、幅広い知識を通じて物事に対する理解力を涵養するということを理解してほしいものである。

毎回の授業のあとにリアクションペーパーを課した。文字数も800字以上という、決して片手間で片づけることのできないものではあったが、リアクションペーパーの積み重ねが自ずと学期末テストの準備となり、結果として効率的な試験勉強になっていたことは、真剣に取り組んだ学生には理解されたであろう。

他にも、授業のスライドが早すぎるといった意見もあったが、そもそも大学でノートをとる修練が足りないのではないだろうか。「アカデミック・スキルズ(第3版)——大学生のための知的技法入門」（慶応大学出版会）などを参照して、ぜひともノートのとり方を身につけてほしい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの思想
 授業コード 33A22-001
 教員名 飯野 和夫
 教員コード 043513
 登録人数 57
 回答数 39
 回答率 68.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた授業目標、その目標の到達程度

フランス語による思想の重要な成果を、翻訳等の資料を用いて具体的に理解することを目指した。フランス文化の諸特徴にふれた後、17世紀以降時代順に代表的な思想を取り上げることとし、具体的にはデカルトによる哲学の革新、ルソーの社会契約論、フランス革命期の人権思想、19世紀の植民地主義、フォーコーの性をめぐる議論、現代のジェンダーをめぐる議論を扱うことにした。受講者参加型の授業にすることも考えた。本授業の期間中はコロナ感染症が小康状態であったため、対面授業で予定通り講義を行なうことができ、授業目標は達成できた。

②総合的な自己点検・評価

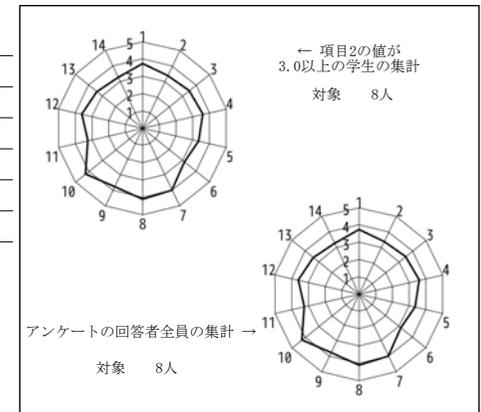
目標どおりの授業ができたと思う。学習目標を明確化し、授業日ごとに、授業内容にかかわる設問への解答をWebClassを通じて私に直接提出させる取り組みも行い、有効に機能したと思う。受講者の興味を保つためビデオ教材も導入した。また、受講者を受身にさせないため、授業期間中に全受講生が発言するよう求めた。できるだけ授業はしたつもりである。学生による授業評価の結果も、授業内容が学生にとってとすれば難しく感じる「思想」であることを考慮すれば、まずまずの結果であったと思う。

③次回以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

長年南山大学で非常勤講師を勤めてきたが、定年により本年度が最後となる。比較的よい形で本授業を終えられてよかったと思う。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学史
 授業コード 34D05-001
 教員名 中川 佳英
 教員コード 104128
 登録人数 22
 回答数 8
 回答率 36.4%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に予定していた目標と到達の程度について：目標として挙げていたのは1) 学生がドイツ文学の作品を手にするための導入になること。2) 文学思潮を座標軸にしながら、作品を理解すること。の2点であった。前者の到達度をアンケートから測り知るの難しいが、ドイツ文学の名作をできるだけ多く読む目標については、大方出来ていないことが提出レポートから伺えた。作品の魅力をより強く訴えるための工夫が足りなかったかもしれない。もっとも週2回の1クォーターの授業で読める冊子数は限られているという面はあるだろう。2)については学生のレポート内容からも、文学思潮そのものを十分に理解していないことが読み取れるので、これについても到達目標は達成していないと言える。なお、授業アンケートの5、6については、そもそも学生の多くはシラバス上の到達目標を知らないと思われる。そういう意味でこの質問に対する評点の低さは中川の授業をあまり理解していないことを物語っているであろう。(授業ではたびたび作品の読書と呼び掛けたが。)

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

とくに低い数値があげられていたのは①で触れた、2, 5, 6の質問と並んで、11, 13, 14の質問に対する回答であるが、数値が低い原因は、何より学生に向けて質問を振ることを怠り、一方的な講義になってしまったことにあると思われる。

自由記述に対して：毎回授業で用いたパワーポイントファイルをその都度すべて同サーバーに載せている。(ただし2月下旬にサーバーから消去。)

③次のクォーター以降を貴学で授業する予定がないため回答するのは不適切。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アメリカ経済論A
授業コード	40D56-001
教員名	大橋 陽
教員コード	102462
登録人数	21
回答数	4
回答率	19.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

アメリカの経済事情について知識、理解を深めること、アメリカ経済の重要問題について把握し、それについて自分の意見を根拠に基づいて説明できることを目標としていた。毎回のコメントシートに加え、プレゼン動画、レポートという形態で学生の到達度をはかったが、授業内容をしっかり理解していた学生が多かった。

②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

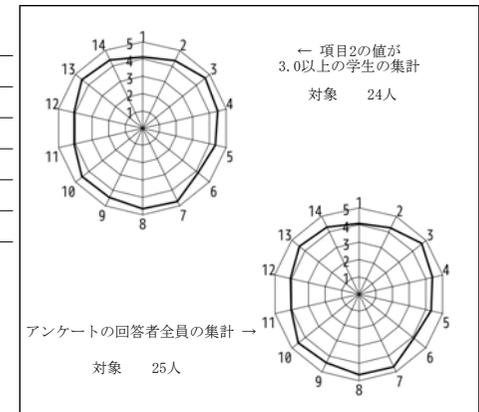
履修生21名で、毎時間出席をとったが明らかに出席の足りない学生が多く、アンケートも4件しかなかった。主に2年の少数の履修生は欠席もなくまじめに出席しており、興味を持って受講してくれたものとコメントシートからも分かった。3年及び4年生以上の学生はほぼすべて欠席という学生が多かった。金1・2限という2時間の出講形態でも過去もっとも少ない履修者数は残念だったとの一言に尽きる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本務校での役職の都合で出講できなかった年もあったが10年近くお世話になりました。セメスター制時代の200~300名の履修生と様変わりし、授業も2コマから1コマに減りました。尻すぼみになって終わるのは残念ですが、長らくありがとうございました。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学概論
授業コード	40F08-001
教員名	滝谷 英幸
教員コード	104298
登録人数	39
回答数	25
回答率	64.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

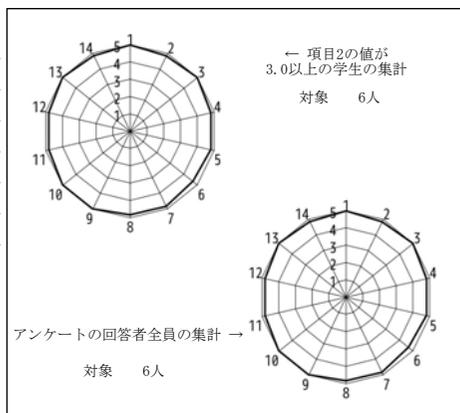
課題に対する解答やアンケートの結果を見ると、「知識を増やすのではなく、法的な思考の枠組みを学ぶ」という目標をある程度達成することができたのではないかと感じています（一部に「『結論』を知りたかった」という趣旨の感想もありましたが、この授業は、誰かが決めた「答え」を知ることが目的としたものではありません）。

ただ、これは自由記述回答でも書かれていたことですが、学生に意見を求め、リアルタイムで議論を行うという（本来想定していた）方法がとれなかったことは、私としても非常に残念でした。その代わりに、授業内でさまざまな問題につき考える時間をとったり、課題の解答に対するフィードバックを行ったりしていましたが、やはり十分ではなかったようです。いうまでもなく感染リスクを考慮した判断ではあったのですが、授業期間の大半が感染拡大状況の落ち着いた時期であったことを考えると、もう少し柔軟に運用してもよかったのかもしれない。

次年度は、（もちろん状況次第ではありますが）できるだけ双方向的な形で授業を進め、履修者が授業内容についてより理解を深め、かつ、力がついていることを実感できるよう努めたいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト会計B
 授業コード 42C18-001
 教員名 木下 勇人
 教員コード 102242
 登録人数 21
 回答数 6
 回答率 28.6%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

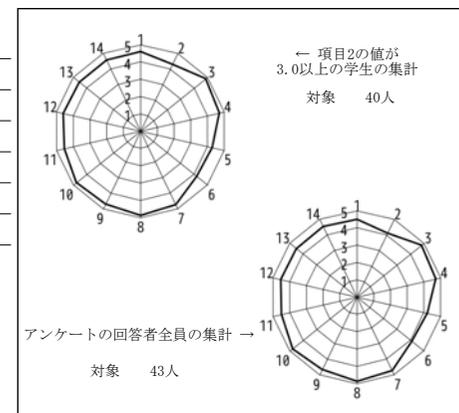


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アドバンスト会計Aと比較すると、アドバンスト会計Bは半期通しの内容になり積算的な内容になるため、一度欠席するとなかなか理解度が低くなる傾向があります。そのため、適宜復習を入れながら進めましたことは学生にとっては有意義なことだと感じております。授業目標は概ね達成できたと考えております。実社会を写す鏡が会計であるため、実社会の出来事がどのような形で会計に反映されるかを講義を通して伝えることも実施しました。単なる学習を生きた経験にできるよう今後も工夫を凝らしながら講義を進めていければと考えております。基本的にはディスカッションを通して、自分なりの方向性を芽生えさせることを主目的としました。他の学生の意見を聞き、自分を客観的にみる視点を持ってもらうことが、これから社会に出ていってから必要になることと考えています。自主的に自分自分と向き合ってもらえるよう、来年度も工夫を凝らした講義を心掛けたいと考えております。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)
 授業コード 42F05-001
 教員名 藤榮 幸人
 教員コード 103879
 登録人数 96
 回答数 43
 回答率 44.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

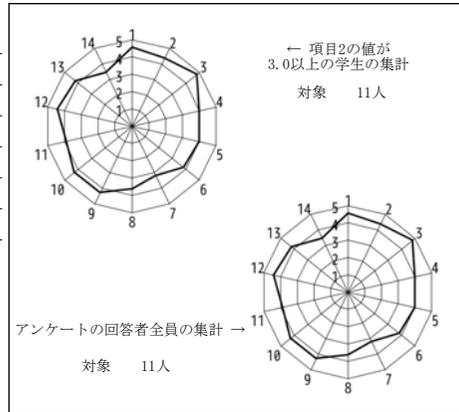


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
 起業論というテーマということで、日本社会における起業の意義を理解するとともに、卒業後の長いキャリア生活において起業家やフリーランスで働くということを選択肢に入れることで豊かな仕事人生を送ることにつなげてほしいとの思いを授業の到達目標に込めている。
 起業した経営者に現実にはふりかかる困難や、必要となる起業家精神など厳しい面も強調しているため、学生の反応は自分ごととして考えづらい面もあるようであった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
 低く出ている数値として、5番、6番の設問が目立つが、仕事そのものを経験したことがない学生にとって、就職でなく経営という一段も二段もハードルが高い世界を自分ごととして咀嚼することは困難な面があるためと認識している。その対策としては、実際に講師が直面している経営場面の事例をたくさん話すことや、ケースメソッドでのディスカッションで、実感を持ってもらうことを取り入れている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 コロナ禍の情勢にもよるが、コロナ対策と授業の効果をバランス良く運営していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III1
授業コード 46F03-001
教員名 Jean Claude AHWENG
教員コード 104148
登録人数 37
回答数 11
回答率 29.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



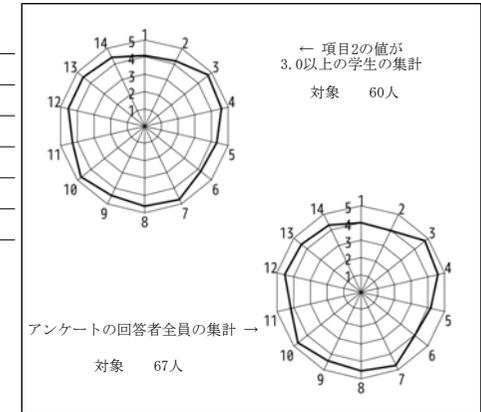
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were for the students to: (1) undertake independent research and think about the assigned policy related topics; (2) convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research. A good learning environment and teacher-student communication prevailed during the semester. Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments. The students found the assigned topics to be interesting and thought provoking, and took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports. Based on the feedback from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. The teacher concludes, therefore, that the course attained its goals. In the future, the content of the course and the way it is delivered will remain basically the same, with some minor improvements.

(217 words)

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア政治社会論
授業コード 46L02-001
教員名 鈴木 隆
教員コード 102972
登録人数 110
回答数 67
回答率 60.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

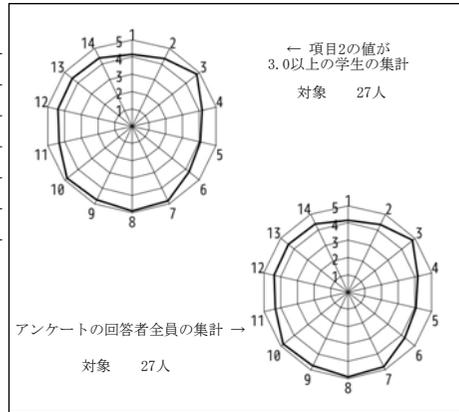


授業評価結果を踏まえた点検・評価

レーダーチャートのうち、項目番号(2)「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」について、3.94と低かった。毎年同様の点数であるが、率直に言って、教員側の授業の工夫だけではどうしようもない。授業は教員だけでなく、学生もともに作り上げていくものである以上、最終的には、学生の主体的な取り組みに委ねるほかない。自由記述回答の中で、建設的な改善の指摘として、以下のものがあつた。来年度は、授業の進度に注意しつつ、全体のコマを通じて、ムラなく板書を行うことを心がける。
↓↓
「板書は、記憶も定着するし、疑問も生まれやすいので後半の授業でも板書をしてもらえるとありがたい。(前半授業は板書が豊富だったが、後半はあまり板書がなかった。)」
自由記述回答で、以下のような回答が比較的多かったことは、教員としてはうれしく、また学習効果を実感できた。
↓↓
スライドもわかりやすく、話もわかりやすく、内容も充実しており、とても面白かった。他にも授業をやってほしいと思った。専門的な知識まで得ることができた。レジュメが時代ごとにまとめられ、わかりやすかった。集中しやすい講義だった。教わった中国の政治の歴史によって、普段ニュースをみて疑問に思っていた中国の行動の一端が理解できるようになった。今後の中国がどうなるのかということを知れる。メディアに取り上げられる中国のことだけでなく、実際はどうかとの解説があり視野が広げられる。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と法
授業コード	46M05-001
教員名	岩崎 恭彦
教員コード	102072
登録人数	42
回答数	27
回答率	64.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

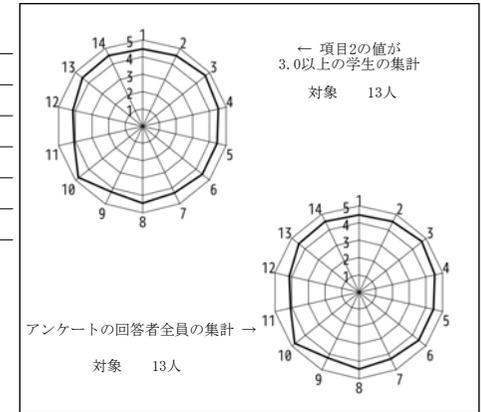
南山大学総合政策学部では、かつて瀬戸キャンパスで「環境法制論」という科目を担当し、名古屋キャンパスに移行後は「環境と法」という科目を担当しています。授業の方針としては、オンラインやオンデマンドを併用しつつ基本的には対面方式に戻して授業を実施した本年度も、従来と同様、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払いました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストなどの資料をパワーポイントで作成したスライド上で共有して学修内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しました。また、法学関係科目の未履修者に配慮し、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけました。これらの点に対しては、今回のアンケートでも多くのみなさんに評価していただいているのではないかと感じています。

他方、自由記述欄では、口頭説明の仕方や速度の適切さ等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても適宜対応を図ることを通じて、数値データの更なる向上をも心がけようと思っています。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学科指導法B
授業コード	15B81-001
教員名	杉浦 洋
教員コード	100769
登録人数	31
回答数	13
回答率	41.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標

講義と受講生の模擬授業からなる授業である。講義では、近代日本の数学教育の流れと問題点について述べる。また、高等学校の数学単元の基礎について述べる。模擬授業では、25分の授業と相互評価を行う。

授業の他に、英語で書かれた数学教科書の翻訳と、教科書の作成のレポートを課す。2つのレポートにより、英語を通して数学に触れ、数学的経験と視野を広げ、また、知識を整理し、説明力を養う。

・実践状況（目標達成度）

今年は受講生が31名だったので、3.7回を講義、10.3回を模擬授業に当てた。

第1回は近代日本数学教育史、第2回は数学教師の高校数学1、第13回は数学教師の高校数学2、第14回は数学教師の高校数学3について講義した。

模擬授業は、概ねよく準備されていた。板書法、授業組み立ての要点、生徒の学力に対する配慮などについて、指導した。

英語翻訳、教科書作成は積極的に取り組んでいた。

・授業評価

アンケートを見るとこの授業は好評である。受講生は目的意識があり、積極的に授業に取り組んだことがわかる。

・改善点

アンケートの回答数が13で、非常に少ない。アンケートが実際に授業改善に貢献していることを知らせるべきである。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際教養日本語II
授業コード	11L20-001
教員名	石川 美紀子
教員コード	104482
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

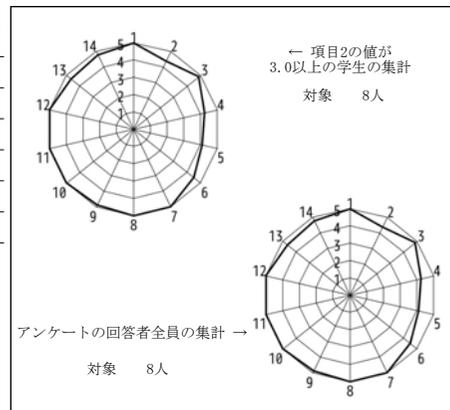
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は中上級レベルの日本語を、読み、書き、話すことができるようになることを目的として開講した。例年と比較して今年度1年生の留学生は日本語レベルが高く、大部分の学生は教員が求める日本語レベルを容易に達成できていた。これに対して成績下位の学生は、読む、書く、話す、のうち、それぞれの苦手分野の改善があまり進まない傾向にあった。
- ②Q4は対面授業に戻ったこともあり、教室内での学生同士の意見交換等も活発に行われ、効果的な日本語学習ができたのではないかと感じている。ただ、全8名の受講生のうち2名は日本に入国できていないため、ハイブリッド形式の授業となっている。両者の発言機会を平等に保つのは難しく、国外にいるからこそ日本語の授業内で最も発話量が必要なオンライン2名にとっては、若干物足りない授業となってしまったのではないか。
- ③成績上位と下位の学生の差が開いてしまっている。英語を流暢に話し、日本語に対する学習意欲が低い学生には特に、2年生以降の大学生活においてアカデミックレベルの日本語の重要性を理解してもらい、学習意欲向上につなげていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際協力論 / International Cooperation
授業コード	48C12-001
教員名	大濱 裕
教員コード	104578
登録人数	26
回答数	8
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

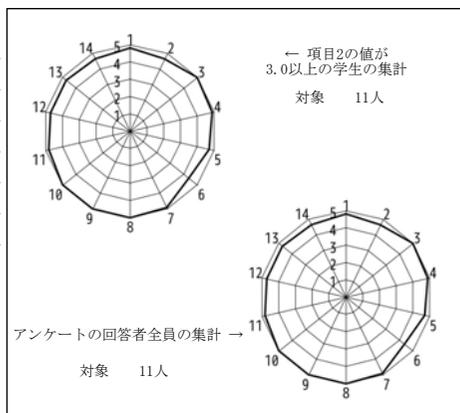


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本年度から開始した講義であり、学生諸君の関心所在や理解度の把握が十分できない状況のまま、これまでの研究成果・現場経験を基に内容を組み立てたものであった。当初は学生諸君へ講義要点を先ずは提示し、反応を見ながら進めたが、毎回のコメントから多くの学生諸君が真剣に耳を傾け、普段耳にすることのなかった現場の実態・状況や、理解・分析の新たな理論的視点・枠組みや実践手法に興味・関心を深めていくプロセスが確認できるものであった。内容的に学部生に多少ハードルが高いことは承知していたが、当初設定していた目標や理解程度に就いては多くの学生諸君が満足できるレベルに到達したものと講義中の反応・質問・コメントならびに期末レポートの内容から判断している。
- 学生諸君は、回答数がやや少ないことはあったものの、全体としては想定どおりと云ったレベル・内容の評価をしているものと判断している。特に、講義の進め方や講師の姿勢・熱意については極めて高い評価を頂いたが、内容の理解においては若干評価数値が下がる傾向があったのは致し方ない（学生諸君の一般的知識と講師の専門的知見・経験の距離）ものであったと思う。とは云え、多くの学生諸君が基本的に理解しておくべき内容はきちんと習得できている点では問題ないと判断される。
- 次年度の講義においては、学生諸君の理解度・満足度をより高めてゆくために講義資料の更なる充実や学生相互間の意見交換・対話の場をより増やし、講義のより深い理解を促進してゆくことを実現してゆきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIA2
授業コード 33A13-002
教員名 NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

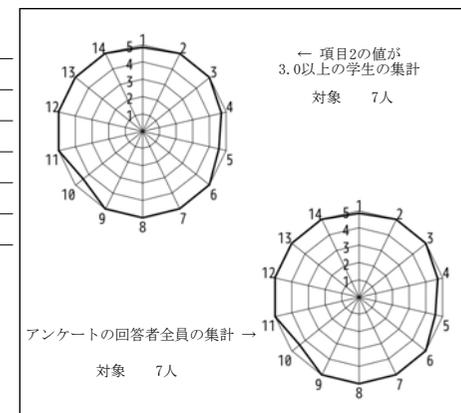


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach to them. They didn't get the situation bother their studies and we managed to reach a very good level of French. The class really improve the level of oral, they follow the directives and managed to reach a good level.
2. This year was special and with the situation, I think that the class did very well. In fact, they manage to do a lot of very high-quality videos, presentations as groups an as individuals. The quality of their work was really amazing and it was nice to see their improvements through the quarter.
2. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2
授業コード 11L09-002
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 15
回答数 7
回答率 46.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

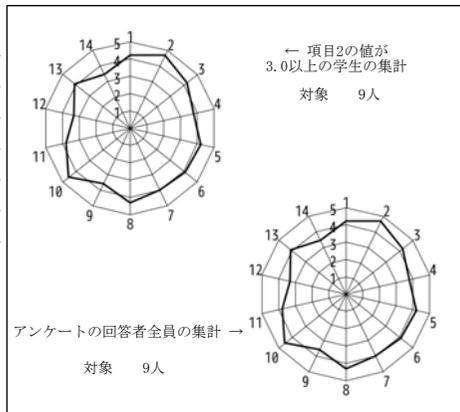


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。
- コース開始時には、初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られた。しかし、コース終了時には、学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、読解文等を理解した上で、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこと、文章を適切に要約することができるまでになり、回答者全員が日本語力の向上を感じられたようである。(設問6平均値5.00、設問13同5.00)
- 今回は半数以上がオンラインのハイブリッド授業で、オンライン履修者からは、教室にいる学生の姿が見えず、声も聞こえにくかったことで気を遣わなければならなかったとの記述があった。また、試験等に遅刻して来た学生と教員との会話が集中力の妨げになったという声もあり、これはどの学生のものかは不明だが、パソコンから大きく聞こえたことが問題であったらうと推測される。オンライン履修者への配慮が不十分であった。
- 次学期は、どのような状況であっても全ての学生がより交流しやすい授業運営を心掛け、一人一人の理解度に配慮しつつ、学生がより興味を持って学習に取り組めるよう授業を運営していきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術A)2
授業コード 11L10-002
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 22
回答数 9
回答率 40.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

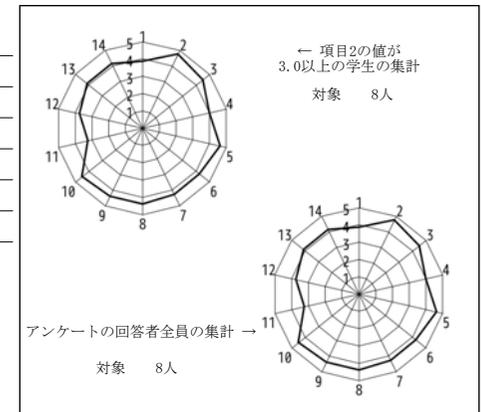


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は社会的なトピックについて調べて発表したり発表を聞いて質問やコメントをしたりする中で、これまで学習してきた日本語が運用できるようになることを目指す、初級の日本語クラスを修了した留学生を対象とした口頭表現の授業である。新型コロナウイルスの影響でビザが下りず、半数以上の学生が本国からの受講となったため、ハイブリッド授業を行った。口頭発表は問題なく行われたが、質疑応答が上手くいかなかった。全体に評価が例年になく低く、ハイブリッド授業の進め方への工夫や学生への説明が十分でなかったことが原因ではないかと考える。また、学生の取り組みも十分ではなく、期日までに発表のための資料が提出されない問題も散見され、学習意欲を継続させることに苦労した。受講者数の関係で発表が冬休みを挟んで4週にわたって行われたため、早い段階で発表ができる学生に加点を与える条件を付け意欲向上を図った。学生のコメントに「発表の順番がわかっていたらよかった」とあったが発表日は前週には告知しており、「その日の何番目に発表になるか」が問題になったようだ。発表前日までに準備をし、当日は他の発表者の発表も聞いて質問やコメントをしなければならぬはずなので、この点については周知できていなかったと反省する。来期もハイブリッド授業が続くようであれば、音声十分に届くような配慮、特にオンライン受講者への指導に気をつけたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2
授業コード 11L11-002
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 19
回答数 8
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

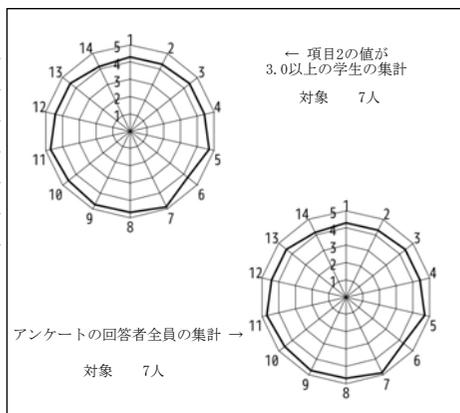


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目では、作文・レポートの基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書くこと、研究計画書の作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、既習表現を使用した研究計画書の作成だった。受講したほとんどの学生が作文・レポートの基礎知識を理解し、書きことば表現で文章が書けるようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においても課題に対して努力する姿勢が見られ、当初の目標がほぼ達成できたように思われる。但し、研究計画書作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。②学生からの授業評価平均値がほとんど4ポイント台であり、授業に関しては概ね評価できると考えられる。詳細な説明により理解が助けられ、間違えた際もう一度考えさせてくれてよかったなどのコメントもあった。しかし、講義の説明が早すぎて大変だったというコメントもあった。レベル差によるものであると考えられるが、次回はレベル差にも対応可能であるようにメモを取る時間を設けるなど、授業時間を工夫したい。③今学期はハイブリッド型授業であり、対面の学生とオンラインの学生との距離感の差に苦慮した。また、オンライン参加の学生からは、先生の姿や声はよくわかったが、教室内にいる学生の声がよく聞こえず様子がよくわからなかったため発言しにくかったとのことで、来学期は活発な教室活動への改善にも努めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2
授業コード 11L15-002
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 10
回答数 7
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

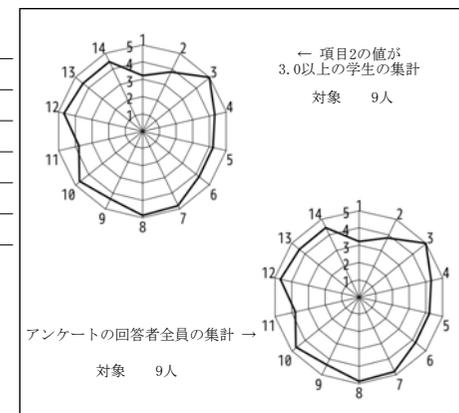
① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得である。今学期の授業では、非常に高いレベルまで到達できた学生がいなかったのは残念であるが、全体的にはアカデミックな文体でまとまった内容のレポートを書くことができるようになった。

② 授業の到達目標は学期を通して学生に意識させるように努めたことから、学生自身が目標を理解し、到達度の判断をすることができていたと思われる。テキストを使用するだけでなく、予習用・授業用のプリントを準備することにより「今何を学習しているのか」がわかりやすくなるように工夫したが、学習の助けになったと評価されたようである。自由記述では、授業のペースの速さについての指摘が見られた。留学中といえど未入国でオンラインの受講の学生には、もう少し配慮が必要であったかもしれないことは反省点である。

③ 次の学期もハイブリッド授業の可能性はあるが、臨機応変に対応し、授業の質を維持したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]3
授業コード 10A01-020
教員名 大庭 貴宣
教員コード 103877
登録人数 21
回答数 9
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

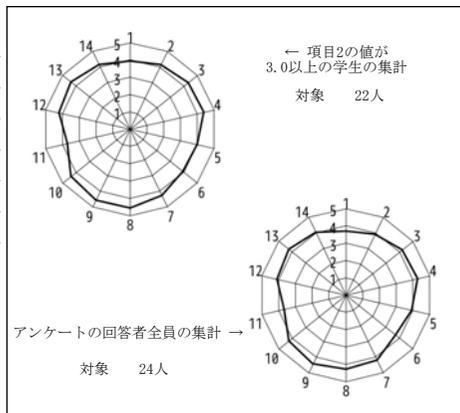


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度は、90分15回の講義であったが、今年度から100分14回の講義となったため講義内容を変更した。実際に、講義をし、当初目標としていた内容まで教えることができた。また、100分の講義となったことで、ほぼ毎回、講義終盤に質問の時間を設けることができた。その時に、学生の質問を聞くことで、彼らの興味を知ることができた。質問に対する答えを次の講義の冒頭や講義内容に組み込むことで、一方的な講義にならないように努力をした。また、学生に毎回の講義後に小レポートを提出することも課題の1つとしたが、そうすることで学生の理解度を把握することができ、目標の到達度に向かうように説明の補足などもすることができた。宗教論は講義前に学生の期待が低い講義のため、学生の意欲を引き出すことが難しい面もあるが、今後は、より参考文献の紹介も増やし、学生が学びに積極的に進んでいくことができるようにしたい。今後の改善点としては、今回の講義内容をもう一度見直し、学生からの質問で得た興味のある人物や思想も取り入れるようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3
授業コード 10D01-003
教員名 長澤 壮平
教員コード 102718
登録人数 61
回答数 24
回答率 39.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

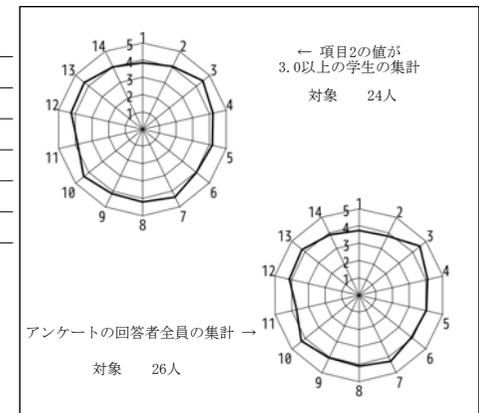


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した、目標と到達の程度は、毎回確認してきたコメントペーパーの出来具合から推測すると概ね達成されたように思われる。しかしながら、アンケート項目の6を見ると、3.71と数値はあまり芳しくない。質量ともに大変すぐれたコメントペーパーがある一方で、ほとんど意味をなさず学習意欲も感じられないコメントペーパーもあり、こうした理解度の格差が本講義の課題だと思われる。前年度の授業では、若干、一方的に講義が進められているとの指摘があり、本年はこれに対応して授業内で十分なりプライを行った。このことが評価されていることが自由記述に見て取ることができ、講義内容の進歩につながったように思う。しかしながら、理解度の格差はやはり問題として残っている。本講義は宗教現象の映像資料を多用するので事例が面白いかもしれないが、それを抽象的な図式へ落とし込む理論的な内容であり、これを理解しなければ意味がない講義である。そうであるゆえに、来年度はさらなる理解の浸透を目指したい。また「学生の目を見て話したほうが良い」との意見があったので、この点も気を付けて講義を改善したい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5
授業コード 10D01-005
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 33
回答数 26
回答率 78.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



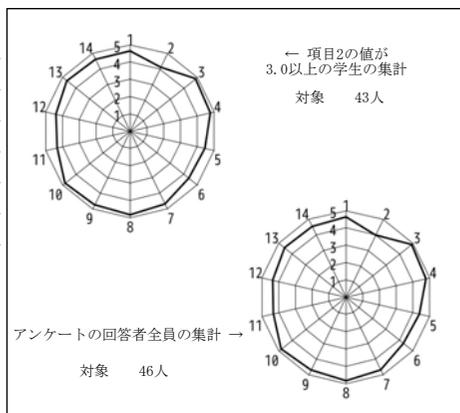
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標はおおむね到達できたのではないかなと思う。不合格になった学生は多くなかったし、0評価の学生も多くなかった。授業中の印象としては、寝ている学生が多かったので、これについては来年度からは注意したい。

評価の数値データを見ると、ほどほどに良かったのではないかなと思う。ただし、平均値があまり良くなかった項目として「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」がなかった。振り返ってみると、確かに私の授業は講義中心であった。来年度からは、学生への働きかけに注意したい。また授業評価の平均値とは別に学生による評価の内訳を見ると、5段階で1と評価している学生が1人、2人、3人といいて、平均値を下げていることが分かる。多くの学生が5や4や3と評価してくれている中で少数の学生が大いに不満を覚えている理由を考える必要がある。1つ考えられる理由は、「教室が寒かった」というものである。これについては、いつも注意を払っているつもりであるが、現に寒かったことがあるので、来年度は授業の初めだけではなくて途中でも温度管理を適切に行うようにしたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋史A
授業コード	12B07-001
教員名	大橋 真砂子
教員コード	100233
登録人数	85
回答数	46
回答率	54.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

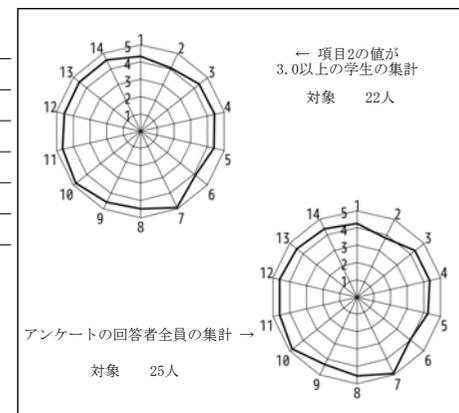


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の当該科目では、ヨーロッパの文字文化（言語やツール、識字層のあり方など）について古代から近世までの歴史的な流れを概観しながら紹介した。内容に関しては、対面授業を実施できたこともあり、シラバス通りに扱うことができた。毎回の小レポートを課すことで各学生の復習の機会を設け、また文章による説明の練習を適切にすることができたと感じている。学生による評価の数値は比較的良好であり、自由記述も好意的な評価が目立った。特に、対面授業を通して関連する物のレプリカ等を実際に手で触れてもらうことができたので、それが良かったと思われる。PowerPointを用いた解説も、適切であったようである。授業の進行については、100分授業が長すぎるとの意見も一部にはあった。また、今年度は小レポートの期限を短めにしたが、負担に感じる学生も一部にいたようで、対面授業とWebClassの併用について、より現実的な利用方法を模索する必要があると感じた。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学A2
授業コード	12C06-002
教員名	松戸 武彦
教員コード	100357
登録人数	45
回答数	25
回答率	55.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

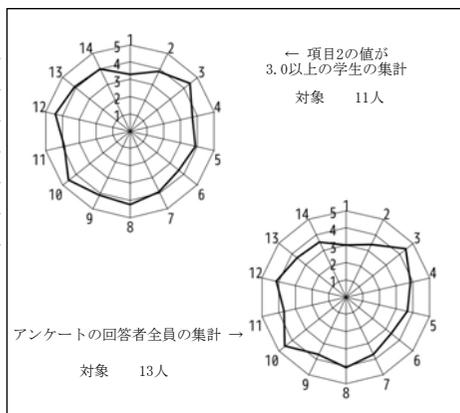


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はおおむね達成できたと考えられる。今回受講生の人数の関係上対面授業が可能になり、受講生自身も対面授業を希望する学生が多らしく、近年になく緊張感のある良い授業になったと感じている。実際、各質問項目に対する評価もおおむね良く、講師の立場としても一定の達成感のあるものになったと感じている。また、毎回任意で簡単なリアクションペーパーを書いてもらっているが、今回は真剣に書いている受講生がほとんどで中には非常に必要なコメントを書いてくる学生も多く、理解度も講師として把握しやすかった。さらに、次回の授業でそれらに対するコメントをつけることもしたが、より深い議論に彼らを導くことができたと考えている。授業に対する積極的参加度の良く、毎回こちらの投げかける質問に対しても例年になく、反応する学生が多く、議論のキャッチボールが可能になったと感じている。社会学を講義するうえでこのような状況は非常に望ましいものであり、このことが可能になる学生に参加には講師として感謝している。さらにwebclassのメール機能を使ってのやり取りを可能にしたので、ある程度の量をもつ文書にやり取りも可能になり、内容へのコメントだけでなく、社会科学系論述の書き方への言及も多少はできたと思う。この点への参考になったという意見も述べられた。総じて積極的な受講生が多く、そのことが授業の質にダイレクトに影響することの良い例になったと感じている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生物学B
授業コード 12D13-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 38
回答数 13
回答率 34.2%
休講回数 4 回
補講回数 4 回

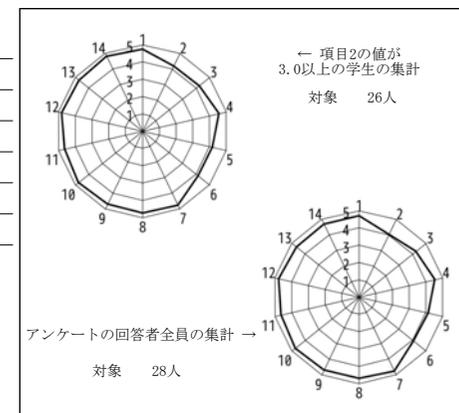


授業評価結果を踏まえた点検・評価

21年度4Qの学生による授業表対象科目は「生物学B」であり、項目3～14の平均数値は3.87であった。担当者は平均数値4を一応の目安としているので、今クォーターでは目安を達しなかった。理由は、いくつかあるはずが、一番大きな原因として、休講数の多さが響いたと考える。来期以降は、今以上に体調管理に気をつけ、このような事態にならないようにする所存である。チャートレーダがいびつなカタチをしていることから、受講生の授業への物足りなさが想像できる。順不同だが、質問ごとに評価数値をチェックしていく。この授業の総括である質問13「授業を通して、理解が深まったか」、質問14「授業に満足したか」への回答は、3.62、3.54と残念な結果だと考える。質問9「理解度に配慮し、・・・配付資料を適切に使われていたか」については3.69。相当の時間をかけて準備したが、空回りのようであった。質問7「教員の誠実さ、真剣さ」については、4を切ってしまったことは反省する必要がある結果だと考える。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1
授業コード 12E04-001
教員名 齋藤 菜月
教員コード 104282
登録人数 58
回答数 28
回答率 48.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

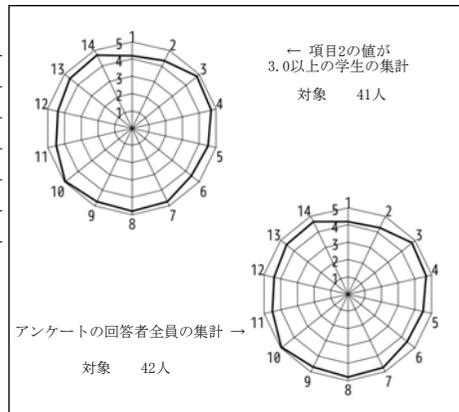


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、各分野の①概要理解および②基礎的項目の理解であった。また、③生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識の関連づけができるようになることも目標としていた。本講義はシラバスに沿って進行しており、①と②については内容に不足なく進められていた。また、③の達成のために日常例、社会問題、心理学が間違っ使われている例などを多く紹介した。小テストや最終テストの結果を見ても、この授業に十分出席した学生はこの目標を達成できていることがわかる。数値データを見ると、全ての設問で平均値が4点を超えているので学生の主観としてもおおむね学びのある授業とみなされたと感じる。特に点が高かったのが「担当教員の誠実さ、真剣さ(4.75)」「質問や相談の機会(4.79)」であり、これは毎回授業後に収集したリアクションペーパーの内容を次の授業で一部取り上げ、実際の実験場面でのどのようにその問題が解決されている/されていないのかを紹介したことによるだろう。実際、授業の良い点として「発展的な研究についても知ることができた点。リアクションペーパーの質問に答えていた点。」「自身の体験や研究の話をして話していた点。一般的に関心の深い話題を心理学と絡めた視点から話していた点。」などが多く挙げられていた。今後は、これまでのように具体的事例をとりあげ学生との相互のやり取り(質問対応)に力を入れていきたい。「寒かった」「印刷が見づらいときがあった」などの意見もあったので授業の環境にも気を配る必要があるだろう。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2
授業コード 13A01-002
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 114
回答数 42
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

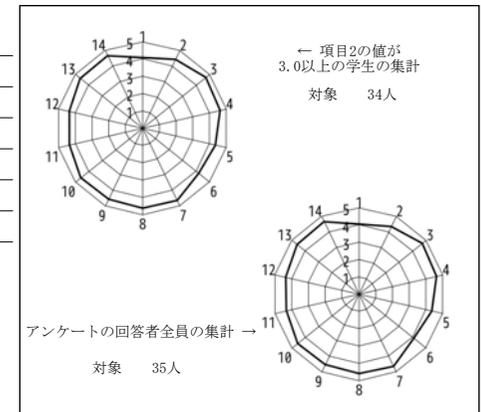
「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。自由記述欄には「アイルランドの歴史や文化について様々な資料が用いられており分かりやすかった」などのコメントがあった。

今クォーターもZoomによるオンライン授業であったが、映画・ドキュメンタリ映像・音楽などのオーディオ・ビジュアル教材を使用したことについては「映画や音楽などによって具体的にアイルランドについて楽しく学ぶことができた」「映像資料なども含めて、一回一回の授業の中で得られる情報量が非常に豊富だった」といった好意的な感想が寄せられた。

Q2において「毎回のクイズと感想は、メールではなくWebClassから受け付けてほしい」との意見があったため、今回より採用したが「改善すべき点」にWebClassに関するコメントは見当たらなかったため、不便はなかったようで安心した。次クォーターでも、引き続きWebClassを採用する予定である。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解3
授業コード 13C01-003
教員名 杉尾 浩規
教員コード 102055
登録人数 91
回答数 35
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

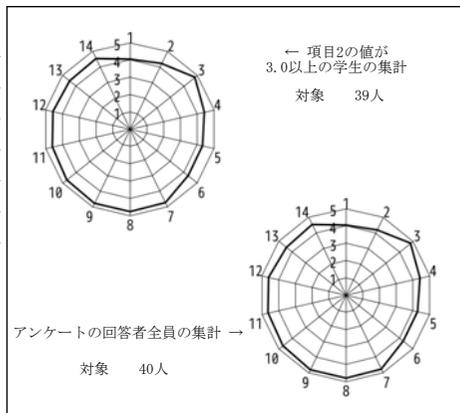


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「集団主義」と「個人」をキーワードにしなが、日本における文化と人間」を多角的に検討しました。そして、「日本における異文化理解」の在り方について問題意識を共有することにつとめました。重視したのは「独断的・独善的な感情論に流されることの危険」と「自分の意見を他者に伝えることの大切さ」です。評価方法は、毎回の授業で提出を求めたリアクションペーパーの記述に基づく100%平常点評価でした。対面授業でしたが、コロナ感染症の状況を気にしながらのイレギュラーな授業運営であり、受講者にとってはストレスを感じる学びの営みだったと思われます。しかし、このような状況下でも、深い自己分析を伴う丁寧なリアクションペーパーを作成し続けてくれた人が一定数いました。「考える」という主観的営みの達成状況を客観的に判断することは困難です。しかし、このようなリアクションペーパーを作成し続けてくれた受講者が一定数いたことを踏まえると、「考える」ことの意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。アンケート記述には授業への肯定的評価がありましたが、次年度は、授業内容のさらなる充実を目指し、毎回のリアクションペーパーのテーマ（お題）をより書きやすいものにするなどの工夫をしながら、授業を改善したいと考えます。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	視聴覚メディア論
授業コード	15M09-001
教員名	宮下 十有
教員コード	103580
登録人数	107
回答数	40
回答率	37.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は1：学芸員資格取得に当たって、博物館・美術館における情報・メディアの意義と活用方法とその課題を理解している。2：博物館・美術館、および学校教育における視聴覚メディアの活用方法を理解している。3：博物館・美術館での情報提供方法、メディア活用方法についての提案ができるようになる。であった。

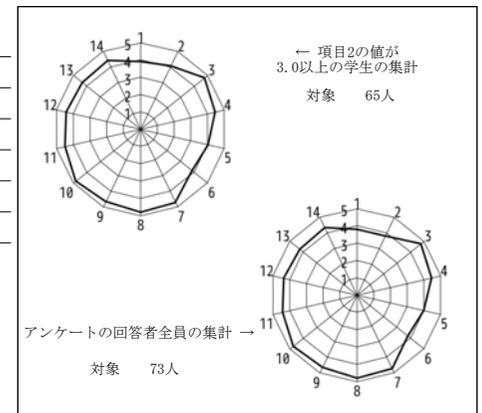
アンケートから目標の理解が4.28、力がついているという自己評価も4.28であり、提示していた内容・目標は、おおよそ到達したと考える。特に3については、最終課題とともにプレゼンテーションバトルを行うことで、学生自身の学びだけでなく、他者の課題の評価を行うことで学びを確かに行うことができたと思える。

授業の中では、取り扱う内容に関連して多くの映像資料や参考ウェブサイトを紹介し、できる限り具体的な事例を提示することで、興味を持って理解を深めることを促していたが、自由記述回答からこうした取り組みが評価されていた。ファイルの準備時間や、前回の振り返りを丁寧に行ったことについては、他の人の学びから自己の学びにつなげるポジティブな評価をする自由記述があった一方で、やや準備に時間がかかっていたことや、授業後にわかりやすくするためのまとめを提示することなどの改善も提示されていた。

次クォーターでは、具体的な事例を提示することは継続しながら、時間のコントロールなども、受講生の意見も取り入れつつ適切に行うように努めたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生涯学習論
授業コード	15P08-001
教員名	河野 明日香
教員コード	102729
登録人数	109
回答数	73
回答率	67.0%
休講回数	3 回
補講回数	3 回

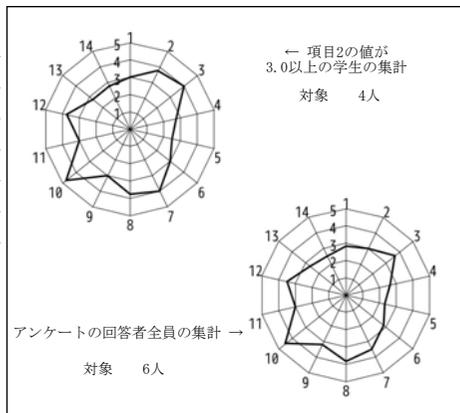


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、学生の理解度や評価などから概ね達成できたと考えている。学生のコメントにも、「参考文献などがきちんと提示されていたため、興味のある問題について自ら調べることができた」「色々な参考文献を紹介してくださり、よりその分野について興味を持つことができた」といったコメントがあり、授業を通して学生自身が主体的に学ぶ意欲が高められたのではないかとと思われる。担当科目に関する総合的な自己点検・評価では、映像資料や参考文献が充実しており、文字だけでなく実際の様子を見て学べる、映像資料の有効活用により非常に授業がわかりやすかった、補講の授業を動画で残していた点などが良かった点として挙げられた。一方、改善すべき点として休講が多く、補講の日程の提示が遅かった、スピーカーの音が大きすぎた、授業資料を事前にDLサーバーに公開してほしい、もう少し進行スピードを上げてほしい、というような意見があった。次年度以降は、前出の点を踏まえ、資料の公開や授業時のスピーカー、休講の場合は補講日程の提示、授業の進行の検討などに留意し、授業を進めていきたいと考えている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(大陸哲学)
授業コード	22C67-001
教員名	星 揚一郎
教員コード	100986
登録人数	34
回答数	6
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

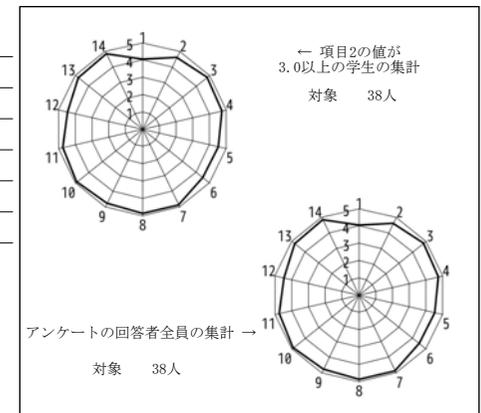
シラバスのとおり、クリッチリー『ヨーロッパ大陸の哲学』岩波書店（2004）を下敷きにして、フッサール、ハイデガー、ガダマーらの現象学・解釈学について、時事的な問題や周辺領域との関係をふまえて講義をしました。哲学が専門でない幅広い学生が受講しているからです。新型コロナウイルスの感染状況が不確定でしたので、対面授業を基本として、事情のある学生はリアルタイムかオンデマンドで聴講し、全学生に対して、毎回、課題をWebClassで提出しました（したがって欠席のありえない授業です）。その課題に対する回答や質問や意見に配慮しつつ授業を進めました。予想よりも多くの方に参加していただき、活気のある授業となりました。感謝申し上げます。

その結果、授業の核心を各自の関心に応じて自由に展開してもらった期末レポートでは、この授業にふさわしい力作が多く見られました。他方、遠隔で受講をしていた学生のなかには、かたちだけ条件に合わせたものも見られました。そうした学生が厳しい評価をしているのかもしれませんが、冒頭で触れたように、シラバスのとおり準備した内容を学生の反応を見ながら授業で展開しました。

2022年度は受講生全員の顔を見ながら対面授業をすることで今回の難点はクリアできると思います。引き続き、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ研究の基礎（政治）
授業コード	34A09-001
教員名	山口 宏
教員コード	101552
登録人数	79
回答数	38
回答率	48.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず到達目標（政治的諸概念やドイツの現代史・諸問題の理解など）についての設問5・6は、他の項目より若干低くなっているものの、知識・理解の深まり（設問13）も高めの値となっており、目標はまずまず到達できたかと思う。全体的な満足度（設問14）もかなり高く、自由記述でも「面白かった」といった声が多く、興味を持ってもらえて良かった。

また、教員の真剣さや聞き取りやすさ（設問7・8）などは授業として当然のこととして、授業では多くの短い映像を随時挟みながら話をしていき、自由記述でも多くあるように、映像から興味を喚起されたことも多かったようで、教材の効果（設問9）も高めの値となっている。

ただ、質問・相談の機会（設問12）がやや低く、リアクションペーパーに書かれた質問などに対しては翌週の授業で答えていたが、人数も多く、濃密な対話はなかなかできなかった。

次年度も、基本はこのままで、内容はさらに磨きをかけ、また受講生の人数にもよるが、対話の機会も増やしながらか進めていければと思う。

（最終日にアンケートの時間をとるつもりが、コロナ濃厚接触で来られない学生が一部の学科で集中するなどバタバタしたのもあり、回答率がやや低くなってしまいました）

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B]]2
授業コード	11A04-009
教員名	岩城 奈巳
教員コード	049601
登録人数	23
回答数	4
回答率	17.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

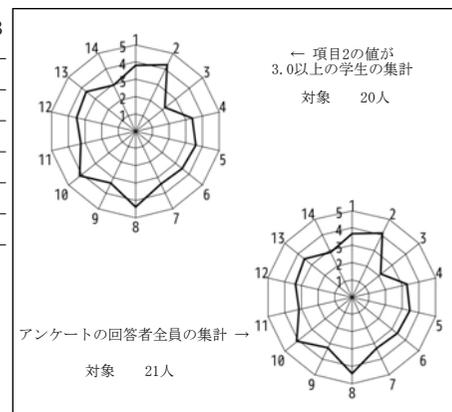
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義での目標は（シラバスに記載）概ね達成できたと考える。授業は「全員参加」であることを第一クォーター開始から常に伝え、意識させ、学生にも開始直後は頻りに声かけを含め参加を促していたこともあり、最終クォーターでは指示が無くても全員がペアワーク、内容確認、情報共有などを自発的におこなっていた。途中で緊急事態宣言が輩出されたため、オンラインでの授業に切り替わったがその間もブレイクアウトルームで学生は対面と同じ形で積極的にグループワークをしてくれた。また、学生一人一人の興味が持続するよう、教科書以外のプラスの教材を用いて授業も実施した。特にTOEICは高い点数設定された教材を選んだが、学生は熱心に取り組んだ。理解度の確認のため毎回授業の冒頭に、前回の復習及び確認、その日のテーマと目標の設定をし、授業終了時には目標の達成度の確認をさせた。週1回のペースで実施したミニクイズも学生の力になったと感じる。来年度も学びの多い講義にしていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B]]4
授業コード	11A04-011
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



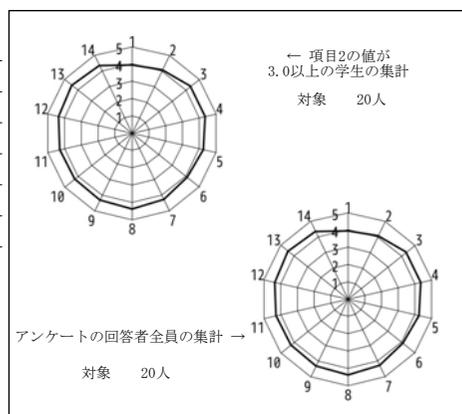
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results of the radar chart were the lowest I have ever received, and thus shocking. Then I looked at the written comments, which were all positive, largely stating that they benefited from the class and gained the ability to use English. On the other hand, and unlike my second period OC class, the positive learning atmosphere (which includes student camaraderie, engagement in the lessons, speaking English when required, etc.) never quite jelled. I also noticed a willingness to cooperate and engage in the lessons was lacking from the start. The students looked tired. In addition, we had to keep the windows and doors open for obvious reasons. We were all cold, but it couldn't be helped.

However, the positive written comments left by a large number of the students seems to indicate that the class was a success, despite the radar chart results. Nevertheless, I will more intensely work with students in the coming year to make sure the class jells.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]4
 授業コード 11A08-011
 教員名 JONES William M.
 教員コード 100263
 登録人数 23
 回答数 20
 回答率 87.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

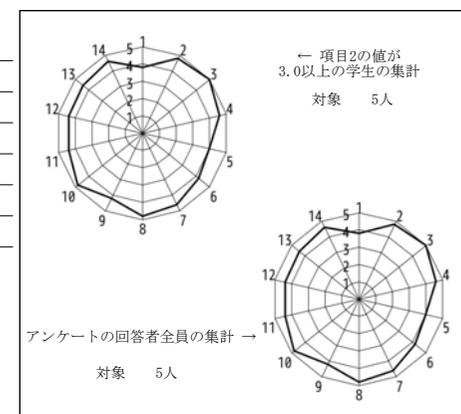


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor was once again blessed to have a wonderful group of students, varying as always in motivational levels and abilities. As always, I'm often more interested, and find the feedback much more helpful from qualitative data than quantitative data. I believe most of the Ss improved their writing significantly from Q1. Most importantly, Ss were able to enjoy classes, even though they were challenging. In particular, the use of playing cards can turn a typical "boring" reading and writing course into an atypical adventure of excitement and joy whereby Ss not only learn what they are supposed to learn as listed in the goals and objectives, but more importantly, form human bonds that can last a lifetime. Thinking ahead towards the next term, I was able to learn quite a lot about ZOOM lessons and how to improve them and make them more interactive. In fact, I believe that on ZOOM with Ss not wearing masks, offers several significant advantages over in-person classes when Ss are forced to wear masks and therefore it's difficult to judge their facial expressions as to whether or not they understand a particular point. Overall, I believe that almost all students and instructor were satisfied with the course and made significant progress. Finally, instructor was worried about the forced wearing of masks on students who have severe existing medical conditions such as asthma or other serious, congenital breathing birth defects that are not visible externally.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]6
 授業コード 11A08-013
 教員名 BONDOC, Jeffrey
 教員コード 103469
 登録人数 23
 回答数 5
 回答率 21.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

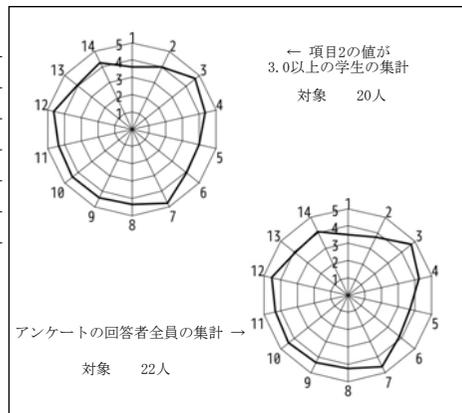


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that classes went very well in the final quarter. I was difficult with the covid situation but students did their best and I was able to provide lessons that were in line with the goals of the course. Reading component was achieved with the vocabulary and class reader. Vocabulary covered the last three chapters of Reading Explorer 3. Students did a range of vocabulary activities and reading activities. The thing I would like to change in the class reader. Many students did not connect with the novel. The novel was The Three Musketeers. Students did their best and handed their work in on time. However, the average score was on the low side. I will choose a different novel. One that is more timeless. For the writing, students did well. I was able to provide feedback well to every student. Each student did their best to revise their work. This quarter the main theme was opinion writing. We focused on more current affairs affecting the world and society. Lastly, we completed a compare and contrast essay using both whole-to-whole and par-to-part method. The topics were chosen by the students. The only thing I would change is to provide a rubric for the students to see so they can know where objectively where they need improvement.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]9
授業コード 11A08-016
教員名 橋爪 真理
教員コード 104272
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

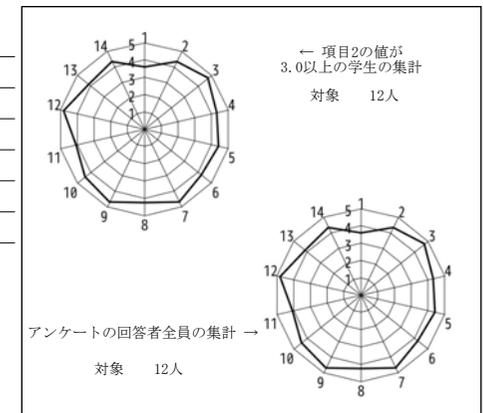


授業評価結果を踏まえた点検・評価

一年間を通してアカデミックな文章を題材としたリーディングとライティングの知識と技能を身に着けることを大きな目標として授業を展開してきました。このクラスは英語に苦手感を持ち、知識や取り組む意欲も低い学生が多くいます。英語は感情によって取り組み姿勢に影響を与えやすい学問なので、学習意欲を高め継続した学習努力につなげるような課題、講義を配慮しながら実践しました。約8割の学生が満足し、技術、能力が深まったと回答している結果より、目標の設定は適切であったと考えます。学生たちが自分の英語力に期待することを把握し、クォーターごとに学生に独自のアンケートを実施し、改善点、問題点を明らかにして、学生の要望にも回答しながら実践してきました。自主的な取り組みが必要なので、小テストを継続的に導入したことについて、負担に感じてしまう学生がいる半面、地道な努力が良い結果となり、自己効力感を高めることにつながったという記述もあり、一定の成果があったと思います。途中でオンライン授業となり、環境の変化が学生の学習意欲に影響していたようで、安定した学習環境は重要であると再認識しました。今後、大学生として知っておくべき英語論文の書き方、読み方についての授業を継続して行い、小テストの導入については、学生の特性も考慮に入れながらその都度検討し、学習意欲を向上し、自主的な取り組みを育む授業展開を実践していく所存です。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]12
授業コード 11A08-019
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 20
回答数 12
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

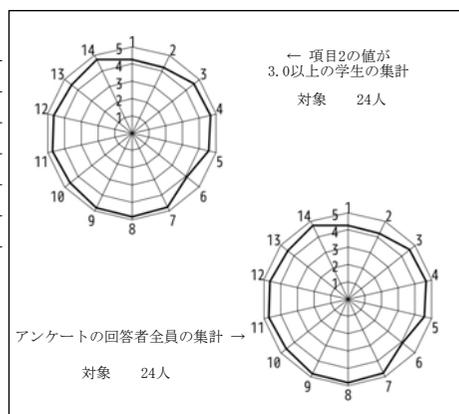


授業評価結果を踏まえた点検・評価

ほとんどのクラスが対面授業の中、オンライン授業による不満が出ることを危惧したが、杞憂に終わり正直なところほっとしている。昨年度mixed classで使用したテキストを今年度も使うことにした。特に、Q4のwriting課題についてこられるかと心配したが、語数を300 words程度に下げ、他の要素も必要最小限に絞ったところ、望外の結果が得られた。考えてみれば、別に論理的思考にかけているわけではなく、どこかで英語につまずいた学生が多いだけなので、当然といえば当然のことなのかもしれない。設問では、問11の学習意欲を引き出すとの項目が4.08と低かった。クラスの特異性から元々英語に対する学習意欲が低い学生が多い。この状態の底上げを図ることは難しいが、英語と直接関係のないことでも、個々が持っている良い点を積極的に褒めて認めることが、結局は本人のやる気を引き出す事に繋がるのではないかと。学生が評価できる点として挙げてくれたのは、進度や課題提出のスケジュールの提示、writingの課題の細かな説明、授業中に考える時間を十分取ったことなど。また授業終了後の質問相談タイムも好評だったようだ。今年度の経験を活かし、来年度もよりよい授業環境を作っていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]11
授業コード 11A12-011
教員名 LANDSBERRY, Lauren
教員コード 103626
登録人数 26
回答数 24
回答率 92.3%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



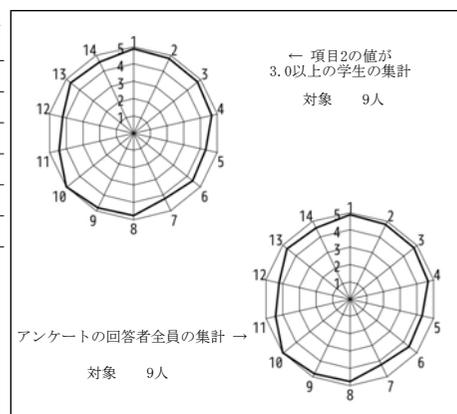
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year was challenging for both the students and myself. Not being able to move around the classroom freely or have the students move around limited our activities and also the class potential. Despite this, the students worked hard in pairs to complete the class activities. It was also difficult as we never knew when classes would suddenly be moved online. The students were focused and interested in improving their English. I was happy to see one of the comments that said they came to like English through our class.

I also employed a number of online quizzes and games which further gave them motivation and they openly seemed to enjoy. All of the goals set for this course were reached. I enjoyed having these students for the entire year as it gave me a chance to get to know them and have some personal communication with them. I look forward to teaching more Nanzan students in the coming year!

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]4
授業コード 11A12-018
教員名 KENNY, Thomas
教員コード 102984
登録人数 22
回答数 9
回答率 40.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

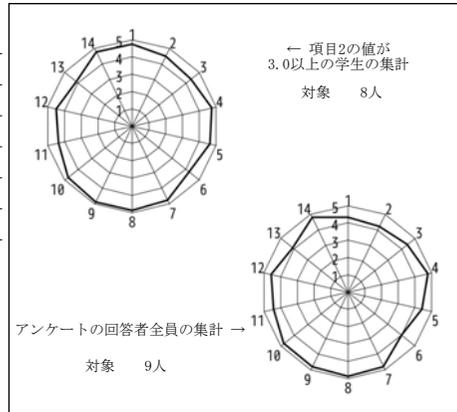


授業評価結果を踏まえた点検・評価

If I am reading the data correctly, only 9 of 24 students bothered to make an assessment of the class, or only 37% of the class. As for question 7, "the teacher's attitude is sincere and serious," students rated me 4.22 against an average of 4.5. I teach with great sincerity and exude a tremendously positive attitude during class time. I think students might believe that a "serious" teacher smiles and laughs less, lectures more and engages individuals less. Perhaps students equate unconventional behavior with insincerity, I am not sure. I think that it might be worth rewording question 7 so that it has fewer variables for students to process. Next, question 12 "Did the teacher give time for questions, consultation, post-guidance, etc.," I am not sure how much post-guidance students require after an assignment, or how often, and I'm guessing that neither do students, so I feel this question is a bit problematic. However, I will endeavor to prompt students to ask questions during class and after class by email so that they never feel that I'm dodging their questions. Despite these below-average scores, most comments from students were quite positive. It's unusual to get a comment longer than a short phrase or one sentence, so I was delighted to read this: 日常生活でネイティブスピーカーが用いている会話術をネイティブから直接学ぶことができ、すぐにペアと用いて身につけることができたので貴重な機会になった。回ごとに題材がありそれに基づいた資料なども見せてもらうことができたので良かったと思う。Comments like these help me to realize that, despite a few criticisms, I remain on the right track.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]5
 授業コード 11A12-019
 教員名 SIMMONDS Brent
 教員コード 103050
 登録人数 22
 回答数 9
 回答率 40.9%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

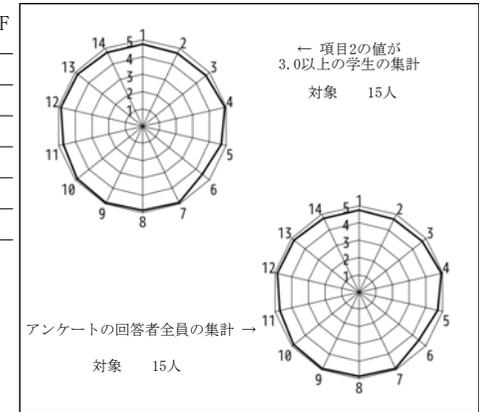
I was generally pleased with the students evaluation which will help my development in the future. It was a difficult year but hopefully teachers and students are adapting the the rapidly changing environment and appreciate their comments. I will endeavour to give the students time at the start of each lesson to speak about topics that interest them at the start of each lesson.

There were several problem areas. Firstly, students had difficulty accessing on line readers and secondly several students copied book reports.

The class reading activities went well, the students were able to adapt and seemed to prefer reading online which is a useful reference for the future. During this academic year I would like to build on the previous years work and explore ways to connect context to the students majors.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]8
 授業コード 11A12-022
 教員名 NICKSICK, Thomas
 教員コード 102113
 登録人数 22
 回答数 15
 回答率 68.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

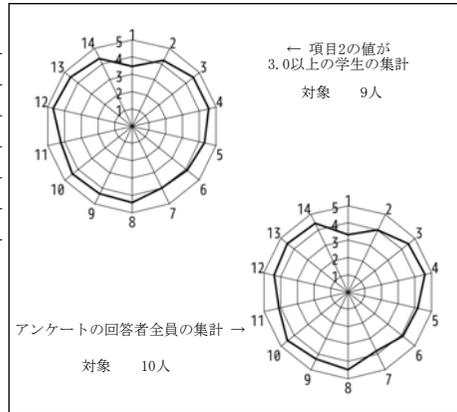
The purpose of this course is to help students become more confident and proficient English communicators. Some of the goals include using vocabulary for contemporary topics, giving opinions on general topics, and asking questions for clarification. Overall, most of the students achieved the stated goals.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.93. Regarding the instructor's sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.93. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.93. Regarding enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.87.

However, the instructor was not as successful in other areas. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.47. When asked if the instructor provided appropriate guidance and information to motivate the students to learn, the rating was 4.73. The instructor must improve on these aspects of the course in the future.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E]]5
授業コード	11A12-029
教員名	柴田 直哉
教員コード	102751
登録人数	23
回答数	10
回答率	43.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

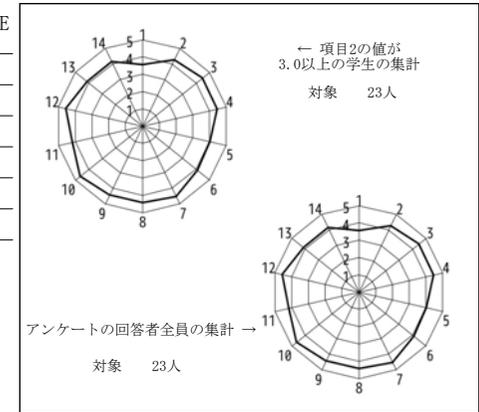


授業評価結果を踏まえた点検・評価

可能な限りインターネット資料やPowerPointスライドを用いて内容理解を深めさせるように講義活動を行っていった。加えて、ペア・グループ活動を行う事で学習者間で意見交換をさせ、より深い内容理解に繋がるように心掛けた。学習者の大半がペア・グループ活動を日本語で行っていたため、スピーキング力における目標は到達できなかったが、内容理解という点ではレポートを読んだり、ペア・グループ活動中のやり取りを見ている限り、到達できたのではないかと考えている。次のクォーターや新年度では英語でのペア・グループ活動状況をより焦点化して行わせ、英語でのやり取りが続く状況にしていきたい。そのためには、ここ数年行っていなかったが、スピーキングテストを行う必要性があるだろう。スピーキングテストをすることで、英語での会話が評価されるという意識が芽生える可能性が高くなるため、学生の多くが可能な限り英語でのやり取りを続けるように試みるのではないかと予想している。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E]]10
授業コード	11A12-034
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

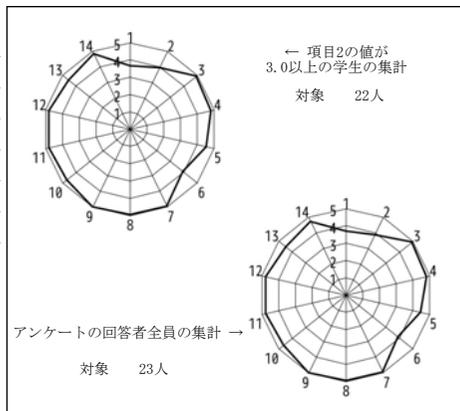
この授業はリーディングとオーラルコミュニケーションの授業で、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ英語を聞くことへの苦手意識を克服させることに重点を置いて行っています。

例年この授業の不合格者は多くても10%程度で、0のこともあります。この授業と履修者が同一だった1~3学期の授業も同様でしたが、残念なことに今学期は不合格者が多く、普段の3倍以上でした。前学期はオンライン授業だったのが全対面授業に切り替わって勝手が変わったことが影響したのか、もしくは最終学期になって息切れしまった生徒が多かったのか、理由は定かではありませんが来年度に向けて何らかのテコ入れをする必要があると感じております。

しかし授業評価の数値データを見ると、1番の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」との間以外低い数値は目立たず、また自由記述回答も前向きなコメントが大変多く、ありがたく思います。これを励みに来季以降も可能な部分で改善を図りながら授業の質を上げられるよう努めたいと思います。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]
]11
授業コード 11A12-035
教員名 大竹 万里
教員コード 047084
登録人数 23
回答数 23
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



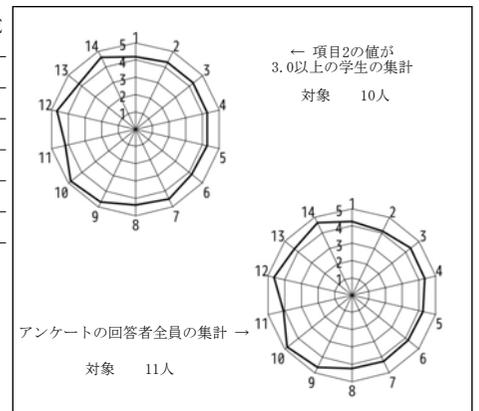
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグなど様々な教材を聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とした。金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。MRReaderを利用して多読学習を進め、期限までに35,000単語を読み終えることを目標とした。週2回の効果的な授業を目指して毎回課題内容を明示し、ペア及びグループワーク学習を教室の換気や学習者間の距離など感染対策に十分留意しつつ進めた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設定問3から14の平均数値データが4.57、学生の授業に対する全体的な満足度については4.74であった。授業の良かった点、評価できる点として、「先生がとても接しやすく授業内容が理解しやすかった」または、「スライドが効果的に使用されていて、説明がわかりやすい」とあり、授業内容の理解はスムーズであったことが評価された。次に多く挙げられた点は「楽しく友達とグループワークができた」ことであった。学習者中心の授業を心掛けた点が評価されたと考える。改善点の指摘はなかったが、来年度も到達目標に向けて力がついてきていると学生が実感できるような授業を目指して、学生の積極的な課題取り組みを促す授業を心がけていきたい。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]
]12
授業コード 11A12-036
教員名 SWEETLOVE, Douglas
教員コード 102522
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① Goals

The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. However, there were obvious limitations due to the covid situation. I am looking forward to getting back into the classroom!

②Assessment

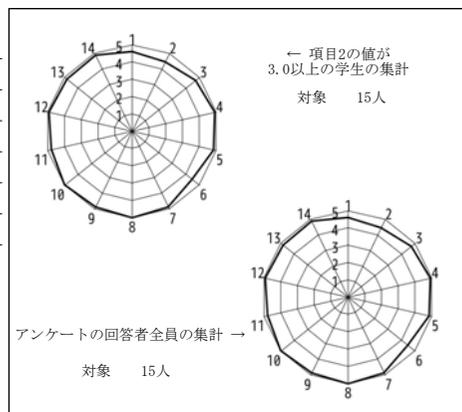
I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③Looking Forward

Given the health pandemic, there isn't really much we can do differently. I worry that the students will become tired and maybe a bit depressed by having to stay home for so long. I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention. This is a stressful situation for them and I want to help them in any way I can.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]4
授業コード 11A14-004
教員名 FOX, Aaron
教員コード 103869
登録人数 19
回答数 15
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

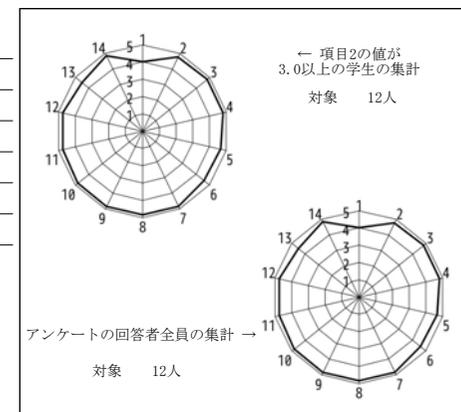


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. They were achieved. The reading goals were quite satisfactory and based on the outcomes of the test scores and application of the skills covered. For the next quarter, my primary goal is to increase the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<HA, HP, HJ>3
授業コード 11A18-003
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 24
回答数 12
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

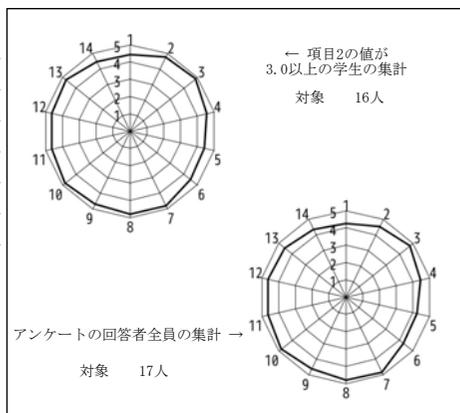


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第一の反省点は、授業評価アンケートを実施したタイミングが、学期の最終日に近い日であったため、実際出席していた人数の2/3程度の回答しか得られなかったことだ。授業中に時間を取り適当な伝達をしたつもりだが、様々な課題の締め切りが迫っていた時期だったためだろうか、実行できなかった学生が複数名いたことは残念である。次回以降はゆとりのある時間帯を確保しすべての出席者の実施を促す工夫をしたい。学生からのフィードバックは肯定的で、一人ひとりの参加者へのできる限りの対応を目指した本講座の目標はおおむね達成できたようだ。ライティングの技術を磨く、という実践的な授業であったため、授業の多くの時間も自分の文章を練る作業に費やされたため、「もう少しライティングの知識を身に付けられたらよかった」というコメントがあり、とても参考になった。パラグラフの構成、種類については十分指導できたと思うが、学生が書く文章の内容についてはかなり自由度を大きくしていたので、個々の対応はある程度できていたと思うが、全体への指導については私も行き辛さを感じていた。対策としては、学生が選ぶトピックについて選択肢を作るなど、少し範囲を限定することもできるかと思っている。

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全・T>8
授業コード	11A18-009
教員名	HAYES, Mary
教員コード	103625
登録人数	24
回答数	17
回答率	70.8%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

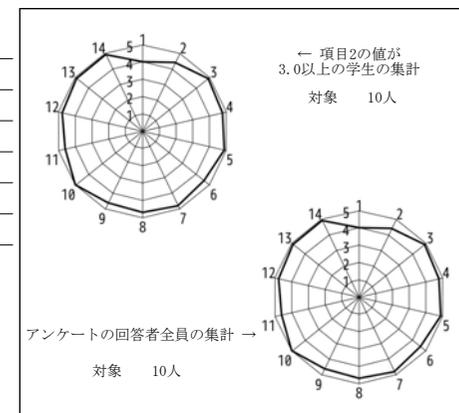
1. The goals of this English Writing class were to give the students opportunities to improve their fluency in written expression both for formal and informal purposes. By practicing timed writing without translating, good progress was made in general. By learning how to plan and organize ideas logically, improving drafts, and typing their work in standard format, the goal of writing intelligible academic essays was achieved to some extent. All members succeeded in writing correctly formatted email for business.

2. The feedback was positive in general. I made efforts to guide the class by setting achievable goals and choosing a variety of themes, some light, some serious. The textbook was helpful, as it provided good writing models. The result was that students kept up their motivation, cooperated well with partners, and as I consulted with each class member on how to improve their work, they were able to get some individual attention which helped them to make progress.

3. In future writing classes, I hope to improve by giving more feedback, encouraging students to think of their own themes and compose more original essays.

2021年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コンピュータと言語学
授業コード	24C56-001
教員名	古泉 隆
教員コード	101035
登録人数	11
回答数	10
回答率	90.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキストエディタの検索・置換・Grep等を利用してテキスト処理ができる、②テキスト処理に必要な正規表現を理解している、③単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解している、④エクセルおよびRを用いて、単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、⑤最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。

普段の授業では演習・課題を行い、学期末には、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでクラス内で報告してもらった。演習や課題の遂行状況および期末テストの解答状況を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。また、文系の学生が主な対象であるため、正規表現など馴染みの薄いことを丁寧な説明することを心がけた。自由記載の欄に「言語処理について初心者でもできるように、とても分かりやすく説明であった」とのコメントがあったことは良かった。また、研究でどのようにテキスト処理を利用するかを実例を通して体験してもらったり、言語処理だけでなく、プログラミングといった将来役に立ちそうな場面での利用例も時折取り入れ、興味・関心を引くように工夫した。今後も丁寧な説明を心がけ、実践的なスキルが身につくような工夫をしていきたい。